

デジタルワイヤレス インターカムシステム

型名 **WD-3000シリーズ** 取扱説明書

お買い上げありがとうございます

お使いの前にこの「取扱説明書」と別冊の「安全上のご注意」をお読みのうえ、正しくお使いください。

特に「安全上のご注意」は必ずお読みいただき、安全にお使いください。

お読みになったあとは、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときお読みください。

製造番号は品質管理上重要なものです。お買い上げの際は本機に製造番号が正しく記されているか、またその製造番号と保証書に記載されている製造番号が一致しているか確かめください。

ご注意

ポータブルトランシーバーWD-TR350/WD-TR300を使用する場合は、次の機器を使用してください。

- ・メインコントローラーWD-M300 (C)タイプ以降
- ・セルステーションWD-T300 (C)タイプ以降
- ・チャージャーWT-C50 (B)タイプ以降

機器の型名、タイプは機器本体のネームプレートに記載されています。

はじめに

● 特長	4
● 安全上のご注意	5
● 正しくお使いいただくためのご注意	6
● システム構成	8
システム構成図	8
システム構成表	9
● 各部の名称とはたらき	10
メインコントローラー WD-M300・	
サブコントローラー WD-M310	10
多機能操作器 WD-MC30	11
音声入出力ユニット WD-AF30	12
セルステーション(CS) WD-T300	12
ポータブルトランシーバー(子機) WD-TR350	13
ポータブルトランシーバー(子機) WD-TR300・	
ワイヤレストランシーバー(子機) WD-WT20	15
ホールマスター WT-MC60	17
チャージャー WT-C50	18
チャージャー WD-C11/WD-C12	19

準備する

● システムの電源を入れる/切る	20
電源を入れるとき	20
電源を切るとき	20
● ポータブルトランシーバーWD-TR350の準備	21
バッテリーを充電する	21
バッテリーを取り付ける/取りはずす	21
コントロールマイクロホンを接続する	22
子機の電源を入れる/切る	22
イヤホンの音量を調節する	23
キープロテクトを実行する/解除する	23
機能ボタンにファンクションを割り当てる	24
● ポータブルトランシーバー WD-TR300/ ワイヤレストランシーバー WD-WT20の準備	24
バッテリーを充電する	24
コントロールマイクロホンを接続する	25
子機の電源を入れる/切る	25
イヤホンの音量を調節する	26
バッテリーを取り付ける/取りはずす	26
● 多機能操作器 WD-MC30の準備	27
着信音量やディスプレイを調節する (ボリュームコントロール)	27
内線電話および外線電話の着信音色を変える	28
ボタンを押したときの音(キータッチトーン)の有無を設定する	29

[トーク/決定]ボタンの動作を設定する	29
日時・曜日を設定する	30
マイクの感度を調整する	31

通話をする

● 動作モードについて	32
● インカム通話をする(グループ通話モード)	34
子機で操作する場合	34
多機能操作器WD-MC30で操作する場合	34
● すべてのグループに対して呼びかける (一斉呼出モード)	35
子機WD-TR350で操作する場合	35
子機WD-TR300/ WD-WT20で操作する場合	36
多機能操作器WD-MC30で操作する場合	37
● すべてのグループと通話する (一斉通話モード)	38
子機WD-TR350で操作する場合	38
子機WD-TR300/ WD-WT20で操作する場合	38
多機能操作器WD-MC30で操作する場合	39
● グループを切り換えて通話する (グループ切換モード)	40
子機WD-TR350で操作する場合	40
子機WD-TR300/ WD-WT20で操作する場合	41
多機能操作器WD-MC30で操作する場合	41
● 特定の複数子機と通話する (招集通話モード)	42
子機WD-TR350で操作する場合	42
子機WD-TR300/ WD-WT20で操作する場合	43
多機能操作器WD-MC30で操作する場合	43
● 特定の相手呼び出す(個別呼出モード)	44
子機WD-TR350で操作する場合	44
子機WD-TR300/ WD-WT20で操作する場合	45
多機能操作器WD-MC30で操作する場合	45
● 個別呼出や一斉呼出に応答する (個別通話モード)	46
子機WD-TR350で操作する場合	46
子機WD-TR300/ WD-WT20で操作する場合	47
多機能操作器WD-MC30で操作する場合	47
● 放送する(放送モード)	48
子機WD-TR350で操作する場合	48
子機WD-TR300/ WD-WT20で操作する場合	49
多機能操作器WD-MC30で操作する場合	49
● 外部機器を制御する	51
子機WD-TR350で操作する場合	51
子機WD-TR300/ WD-WT20で操作する場合	51
多機能操作器WD-MC30で操作する場合	52

● 外部音源を起動する	52
子機WD-TR350で操作する場合	52
子機WD-TR300/ WD-WT20で操作する場合	53
多機能操作器WD-MC30で操作する場合	53
● 接続するCSを切り換える	54
子機WD-TR350で操作する場合	54
子機WD-TR300で操作する場合	54
● 子機の使用中的お知らせ音について	55

ヒアリングモードを使う

● ヒアリングモードについて	56
ヒアリングモードの制限事項	56
ヒアリングモードの概要	57
● ヒアリングモードの表示	58
子機WD-TR350	58
子機WD-TR300	58
● ヒアリングスレーブ子機から通話する	59
子機WD-TR350で操作する場合	59
子機WD-TR300で操作する場合	59

電話機能を使う

● 内線電話をかける	60
● 電話を受ける	60
多機能操作器WD-MC30で操作する場合	60
子機WD-TR350で操作する場合	61
子機WD-TR300で操作する場合	61
● 外線電話をかける	62
多機能操作器WD-MC30で操作する場合	62
子機WD-TR350で操作する場合	62
子機WD-TR300で操作する場合	63
● 短縮番号を登録する	64
短縮番号の登録のしかた	64
文字の入力のしかた	65
登録内容の確認	65
文字入力一覧表	66
● 短縮番号を使って外線電話をかける	67
● ファンクションボタンにワンタッチダイヤルを登録する	67
電話番号の登録のしかた	67
登録内容の確認	68
登録内容の消去	69
● ワンタッチダイヤル機能を使って電話をかける	69

● リダイヤル(再発信)で外線電話をかける	70
直前にかけた相手にかけ直す	70
発信履歴を消去する	70
● 通話中の電話を他の多機能操作器WD-MC30または子機に転送する	71
● 外線電話取次をする	71
多機能操作器WD-MC30で操作する場合	71
子機WD-TR350で操作する場合	72
子機WD-TR300で操作する場合	72
● 外線電話モードの切り換えをする	73
● 外線電話(公衆回線)からグループ通話をする	73
DID (ダイレクト イン ダイヤリング)通話モード	73
DISA (ダイレクト イン サービス アクセス)通話モード	74
● 外線電話を強制的に切断する	75
多機能操作器WD-MC30で操作する場合	75
子機WD-TR350で操作する場合	76
子機WD-TR300で操作する場合	76

その他

● こんなときは	77
● 保証とアフターサービス	79
● 仕様	80
WD-M300 メインコントローラー	80
WD-M310 サブコントローラー	80
WD-MC30 多機能操作器	80
WD-AF30 音声入出力ユニット	81
WD-T300 セルステーション	81
WD-TR350 ポータブルトランシーバー	81
WD-TR300 ポータブルトランシーバー	81
WD-WT20 ワイヤレストランシーバー	82
WT-UM8 コントロールマイクロホン	82
WT-UM50 コントロールマイクロホン	82
WT-UM52 コントロールマイクロホン	83
WT-UM33 コントロールマイクロホン	83
WD-UM300 イヤホンマイクアダプター	83
WD-UM20 コントロールマイクロホン	84
WD-UM23 コントロールマイクロホン	84
WT-MC60 ホールマスター	84
WT-C50 チャージャー	84
WD-C11 チャージャー	85
WD-C12 チャージャー	85
● ソフトウェアに関する重要なお知らせ	86

特長

- 1.9GHz帯デジタル通信技術の採用により、明瞭な音での通話、秘匿性と、広いサービスエリアを実現します。
- 免許および申請手続きは一切不要ですので、設置していただいたその日から使用ができます。
- メインコントローラーWD-M300 1台を使った小規模システムから、サブコントローラーWD-M310を組み合わせた大規模システムまで柔軟なシステム構築が可能です。
- メインコントローラーWD-M300/サブコントローラーWD-M310は、EIA 1Uの薄型設計です。最小1Uでセルステーションが最大8台接続でき、子機最大24台のシステム構築が可能です。
- 同時に双方向の通話が可能です。
- 通常モードでは、最大96者間(多機能操作器WD-MC30、ポータブルトランシーバーWD-TR350/WD-TR300、ワイヤレストランシーバーWD-WT20、音声入出力ユニットWD-AF30を含む)のグループ通話ができます。
- 子機を受信専用にするヒアリングモードを使用すると、子機の動作や使用環境に制限がありますが、少ないセルステーションでより多くの子機が運用できます。
- 複数の子機、多機能操作器WD-MC30でグループ通話(インカム)、1対1の個別通話、構内(フロア)放送など、多彩な運用ができます。
- 外線電話(公衆回線)に接続することで、電話回線からグループ通話への参加や個別通話、外線電話への発信や取次などが可能です。
- 複雑な操作なしに、インカムのトークボタンを押すだけでいつでもすぐに通話することができます。
- 最大8グループに分けることができ、階別のグループ通話や、業務担当グループごとのグループ通話ができます。グループ分けの運用でも、全員への一斉連絡や1対1の個別通話など、他のグループの人とも通話ができます。
- 接話型のコントロールマイクロホンを使用することで、高騒音下でも騒音を抑えた明瞭な音で通話ができます。

- 音声入出力ユニットWD-AF30を用いて、外部音声をインカム通話に入力したり、インカム通話を音声モニターなどに出力できます。
- デジタルボイスファイルPA-DR600を使用することで、子機や多機能操作器WD-MC30の操作で、あらかじめ録音したアナウンスメッセージを、インカム通話に入力したり構内(フロア)放送することができます。
- 使用する端末ごとに構内(フロア)放送先を設定できます。
- 子機のバッテリーは単体で充電ができ、バッテリーを取り換えることにより、子機を連続して使用することができます。1個のバッテリーによる連続使用時間はポータブルトランシーバーWD-TR350で約10時間、ポータブルトランシーバーWD-TR300で約15時間、ワイヤレストランシーバーWD-WT20で約8時間です。

この取扱説明書の見かた

- 本書では、セルステーションWD-T300を「CS」ポータブルトランシーバーWD-TR350/WD-TR300/ワイヤレストランシーバーWD-WT20を「子機」と表記することがあります。

■ 本文中の記号の見かた



操作上の注意が書かれています。



機能や使用上の制限など、参考になる内容が書かれています。



参考ページや参照項目を示しています。

■ 本書の記載内容について

- ・ 本書の著作権は当社に帰属します。本書の一部、または全部を当社に無断で転載、複製などを行うことは禁じられています。
- ・ 本書に記載されている他社の製品名は、一般に各社の商標、または登録商標です。本書ではTM、®、©などのマークは省略してあります。
- ・ 本書に記載されたデザイン、仕様、その他の内容については、改善のため予告なく変更することがあります。
- ・ Windowsは米国マイクロソフト社の登録商標です。

安全上のご注意

ご使用前によくお読みのうえ、正しくお使いください。

● 絵表示について

この取扱説明書と製品には、いろいろな絵表示が記載されています。これらは、製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産の損害を未然に防止するための表示です。絵表示の意味をよく理解してから本文をお読みください。



警告

この表示(文字含む)を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています



注意

この表示(文字含む)を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害の発生が想定される内容を示しています

絵表示の説明



一般的注意

注意(警告を含む)が必要なことを示す記号



禁止

してはいけない行為(禁止行為)を示す記号



電源プラグを抜く

必ずしてほしい行為(強制・指示行為)を示す記号



警告

専用の充電器以外は使用しない

専用品以外を使用すると、故障や火災の原因となります。子機の充電は、必ず専用充電器を使用してください。

- ポータブルトランシーバーWD-TR350 : WT-C50 ((B)タイプ以降)
- ポータブルトランシーバーWD-TR300/ワイヤレストランシーバーWD-WT20 : WD-C11/WD-C12



チャージャー用増設コンセントを他の用途で使わない



他の用途で使用すると、故障や火災の原因となります。

チャージャー用増設コンセントはチャージャーの増設だけに使用してください。

異常な状態のままで充電しない



充電中に異臭を感じたり、発熱、変色、変形などの異常が起こったときは、ただちに充電器の電源ケーブルをコンセントから抜いてください。安全であることを確かめてから充電中の子機、バッテリーを充電器から取り出し、お買い上げ販売店にご連絡ください。

そのまま充電を続けると火災や感電の原因となります。



注意

イヤホンを耳に付けたまま電源を入/切しない



大きな音がでて、耳を痛めることがあります。

大音量で長時間つづけて聞かない



耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響をあたえることがあります。

また、はじめから音量を上げすぎると、突然大きな音がでて耳を痛めることがあります。音量は徐々に上げるようにしてください。

イヤホンを取り換えるときは音量を下げる



コントロールマイクロホン、イヤホン、イヤホンマイクアダプターは、同じ音量の設定であっても、大きな音がでて、耳を痛めることがあります。イヤホンを取り換えるときは、必ず音量を下げたからイヤホンを耳に付けてください。

正しくお使いいただくための ご注意

■ 技術基準適合証明ラベルについて

セルステーションWD-T300、ポータブルトランシーバーWD-TR350/WD-TR300およびワイヤレストランシーバーWD-WT20には、「技術基準適合証明品」をあらわす証明ラベルが貼ってあります。証明ラベルを剥がしたり、破いたりしないでください。サービスを受けられなくなります。

■ ポータブルトランシーバー/ワイヤレストランシーバー/多機能操作器/音声入出力ユニットについて

落としたり、ぶつけたりしないでください。精密機器ですので強い衝撃をあたえると故障の原因となります。

■ コントロールマイクロホン、イヤホンマイクアダプターについて

- コントロールマイクロホン、イヤホンマイクアダプターおよびイヤホンは適合機種以外のものを使用しないでください。誤動作の原因となります。
- コントロールマイクロホンやイヤホン、イヤホンマイクアダプターを抜くときは、ケーブルを引っ張らないでください。断線の原因となります。必ずツインプラグ/プラグ部を持って抜いてください。
- ツインプラグの金属部を手で触ったりしないでください。接触不良の原因となります。汚れた場合は、乾いたきれいな布などでふき取ってください。
- コントロールマイクロホンやイヤホンマイクアダプターを接続するときは、必ず子機の電源をOFFにしてから行なってください。電源がONの状態では接続すると、保護装置がはたらき、子機本体での操作ができなくなります。コントロールマイクロホンやイヤホンマイクアダプターも動作しません。
- コントロールマイクロホンWT-UM33など、ロック式のマイクはロックを解除してから接続してください。

■ システムについて

- ポータブルトランシーバーWD-TR350/WD-TR300を使用する場合は、次の機器を使用してください。
 - メインコントローラーWD-M300 (C)タイプ以降
 - セルステーションWD-T300 (C)タイプ以降
 - チャージャーWT-C50 (B)タイプ以降機器の型名、タイプは機器本体のネームプレートに記載されています。
- 本デジタルワイヤレスインターカムシステムは無線通信を使用しているため、電波の届かない場所に移動するとノイズがでたり、通話が途絶えたりすることがあります。
- ポータブルトランシーバーWD-TR350/WD-TR300/ワイヤレストランシーバーWD-WT20とセルステーションWD-T300間の電波の届く範囲は、屋内で約30 m～60 m、屋外で約100 mです。両者のあいだに障害物がある場合、この距離は短くなります。
- 機器を長時間、直射日光の当たる場所や暖房器具の近くに放置しないでください。
- ハウリング現象(ピーンあるいはキャンという音)を起こした場合はスピーカーの音量を絞るか、マイクの向き、位置などを変えてください。また、子機と多機能操作器WD-MC30を同じ部屋で使用した場合に、ハウリング現象が起こることがあります。
- ポータブルトランシーバーWD-TR200 (C)タイプ以降は、本システムで使用できます。
- ポータブルトランシーバーWD-TR200用のコントロールマイクロホン(WD-UM15など)は、ポータブルトランシーバーWD-TR350/WD-TR300では使用できません。

■ ポータブルトランシーバー/ワイヤレストランシーバーのバッテリー（充電式電池）について

- バッテリーを使わないときは、涼しい乾燥した場所に保存してください。
高温になる場所（直接日光の当たる場所など）に放置しないでください。液漏れや寿命を早める原因になります。
- バッテリーの端子部が汚れていると、動作時間が短くなります。メインコントローラー WD-M300 に添付されている「充電端子のお手入れについて」をご覧ください。清掃してください。
- バッテリーの充放電回数の目安は次のとおりです。

機種	充電回数の目安
ポータブルトランシーバー WD-TR350	約300回
ポータブルトランシーバー WD-TR300	約500回
ワイヤレストランシーバー WD-WT20	

目安の回数以下であっても動作時間が大幅に短くなったら、バッテリーの寿命と思われます。新しいものをお買い求めください。

リチウムイオンバッテリー（充電式電池）のリサイクルについて



Li-ion

美しい環境維持にあなたも一役。
リサイクルに協力しましょう。
ご不要になった充電式電池は、貴重な資源を守るために、破棄しないで充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。

安全のため、充電式電池の金属部には、セロハンテープなどの絶縁テープを貼ってお持ちください。

■ 日常のお手入れについて

電源を切ってからバッテリーや電源プラグを抜いて、次のようにお手入れしてください。

- 汚れは乾いた柔らかい布などでふき取ってください。
- ひどい汚れは、水で薄めた中性洗剤に布を浸して固く絞ってから汚れをふき、乾いた布で水分をふき取ってください。



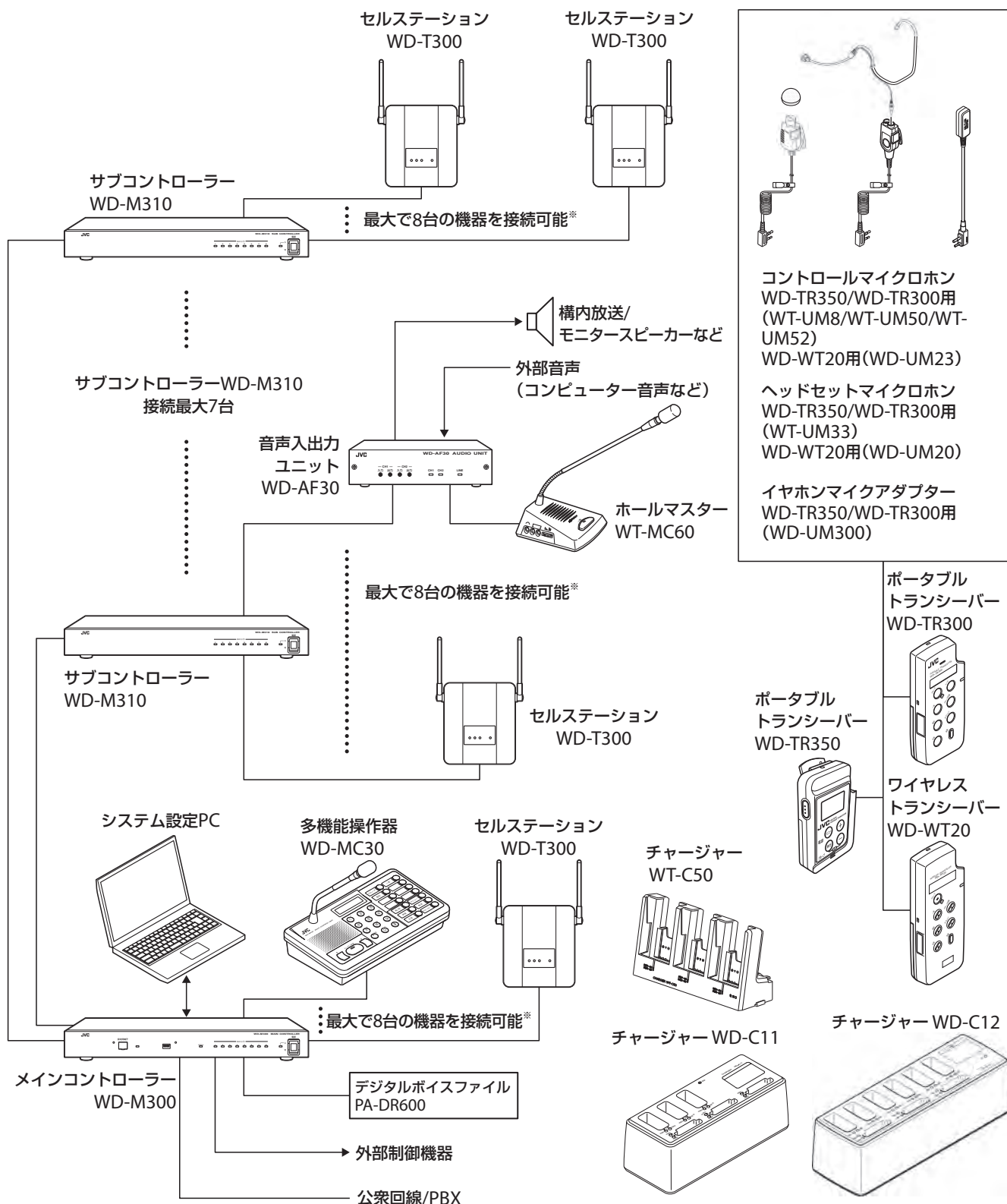
ベンジンやシンナーは使用しないでください。
ボディの損傷や故障の原因になります。

■ 省エネルギーについて

節電のため、使用しないときはシステムの電源を切ってください。

システム構成

● システム構成図



※ メインコントローラーWD-M300、サブコントローラーWD-M310 1台につき、セルステーションWD-T300、多機能操作器WD-MC30、音声入出力ユニットWD-AF30を組み合わせると最大8台まで接続できます。

● システム構成表

No.	機種名	商品名	備考
1	WD-M300	メインコントローラー	システム全体を制御します。PCによるシステムデータの設定ができます。
2	WD-M310	サブコントローラー	メインコントローラーに接続する増設ユニットです。(7台まで使用可能)
3	WD-MC30	多機能操作器	モニタースピーカーを搭載したマイクユニットです。グループ通話や個別通話、外線電話の発着信などの操作を行うインカム通話端末として使用します。
4	WD-AF30	音声入出力ユニット	他の音響機器、またはホールマスターと接続し、外部機器の音声信号をインカム通話に入力したり、インカム通話の音声を外付機器に出力できます。
5	WD-T300	セルステーション	ポータブルトランシーバー/ワイヤレストランシーバーとの通信を行います。
6	WD-TR350	ポータブルトランシーバー	インカムシステムの子機です。セルステーションと無線通信を行う、バックライトつきLCDディスプレイが搭載されたトランシーバーです。外線電話の発着信もできます。
7	WD-TR300	ポータブルトランシーバー	インカムシステムの子機です。セルステーションと無線通信を行うトランシーバーです。外線電話の発着信もできます。
8	WD-WT20	ワイヤレストランシーバー	800 MHz帯ワイヤレスマイク機能を内蔵した、インカムシステムの子機です。セルステーションと無線通信を行うトランシーバーです。
9	WT-UM8	コントロールマイクロホン	ポータブルトランシーバーWD-TR350/WD-TR300用のコントロールマイクロホンです。(タイピン接話型)
10	WT-UM50	コントロールマイクロホン	ポータブルトランシーバーWD-TR350/WD-TR300用のコントロールマイクロホンです。(タイピン型)
11	WT-UM52	コントロールマイクロホン	ポータブルトランシーバーWD-TR350/WD-TR300用のコントロールマイクロホンです。(イヤホン・マイク一体型)
12	WT-UM33	コントロールマイクロホン	ポータブルトランシーバーWD-TR350/WD-TR300用のコントロールマイクロホンです。(ヘッドセット型)
13	WD-UM300	イヤホンマイクアダプター	ポータブルトランシーバーWD-TR350/WD-TR300用の変換アダプターです。KENWOODブランドのアクセサリ(コントロールマイクロホンなど)と接続して使用します。
14	WD-UM20	コントロールマイクロホン	ポータブルトランシーバーWD-WT20専用のコントロールマイクロホンです。(ヘッドセット型)
15	WD-UM23	コントロールマイクロホン	ポータブルトランシーバーWD-WT20専用のコントロールマイクロホンです。(タイピン型)
16	WT-MC60	ホールマスター	音声出力ユニットWD-AF30に接続してインカム通話に参加できます。
17	WT-C50	チャージャー	ポータブルトランシーバーWD-TR350用の充電器です。(3台まで同時充電可能)
18	WD-C11	チャージャー	ポータブルトランシーバーWD-TR300/ワイヤレストランシーバーWD-WT20用の充電器です。(3台まで同時充電可能)
19	WD-C12	チャージャー	ポータブルトランシーバーWD-TR300/ワイヤレストランシーバーWD-WT20用の充電器です。(6台まで同時充電可能)
20	PS-RU11	ラックマウント金具	メインコントローラーWD-M300、サブコントローラーWD-M310をEIAラックに取り付ける場合に使用します。
21	WDZU30BJ	WD-AF30用ラックマウント金具(幹旋品)	音声入出力ユニットWD-AF30をEIAラックに取り付ける場合に使用します。
22	WDZS30J	子機登録用ソフトウェアキット(幹旋品)	ワイヤレストランシーバーWD-WT20をシステムに登録する際に使用します。

ご注意

ポータブルトランシーバーWD-TR350/WD-TR300を使用する場合は、次の機器を使用してください。

- ・メインコントローラーWD-M300 (C)タイプ以降
- ・セルステーションWD-T300 (C)タイプ以降
- ・チャージャーWT-C50 (B)タイプ以降

機器の型名、タイプは機器本体のネームプレートに記載されています。

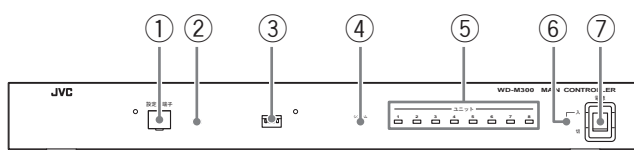
各部の名称とはたらき

メインコントローラー WD-M300・サブコントローラー WD-M310

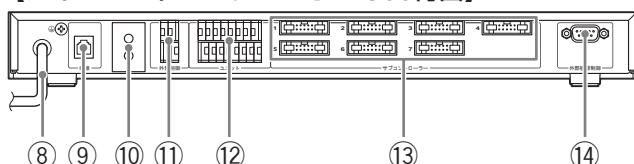
ご注意

メインコントローラーWD-M300は必ず(C)タイプ以降を使用してください。

【メインコントローラー WD-M300正面】



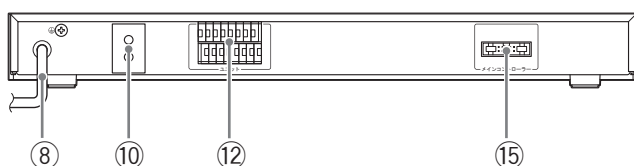
【メインコントローラー WD-M300背面】



【サブコントローラー WD-M310正面】



【サブコントローラー WD-M310背面】



① システム設定用パソコン接続(RJ-45) 端子 (WD-M300のみ)

システムデータの設定時に使用する通信端子です。

② LAN状態ランプ(緑) (WD-M300のみ)

PCとのデータ通信時に点灯します。

③ 保守用設定スイッチ (WD-M300のみ)

システムの設定およびメンテナンス用の操作スイッチです。操作しないでください。

④ システム動作状態ランプ(緑)

システムの状態を表示します。

表示状態	内容
点灯	正常動作中
点滅	異常発生時
消灯	起動中

⑤ ユニット状態ランプ(緑)

接続されている多機能操作器WD-MC30、音声入出力ユニットWD-AF30、セルステーションWD-T300との状態を表示します。

表示状態	内容
点灯	正常動作中
速い点滅(1秒間に2回点灯)	異常発生時
遅い点滅(1秒間に1回点灯)	起動中
消灯	端末接続なし

⑥ 電源ランプ

メインコントローラー WD-M300/サブコントローラー WD-M310に電源が入ると、緑色に点灯します。

⑦ 電源スイッチ

電源の入/切を行います。

⑧ 電源ケーブル

AC100Vの電源をご使用ください。

⑨ モジュージャック(WD-M300のみ)

アナログ公衆回線(外線電話)を接続します(1回線)。

⑩ ケーブルクランプ

付属のワイヤークランプで配線ケーブルを固定します。

⑪ 外部制御接続端子(WD-M300のみ)

外部制御を行う機器を接続します(2回路)。

⑫ ユニット接続端子

多機能操作器WD-MC30、音声入出力ユニットWD-AF30、セルステーションWD-T300を接続します。最大8台まで接続できます。

⑬ サブコントローラー接続端子(WD-M300のみ)

サブコントローラー WD-M310を接続します。最大7台まで接続できます。

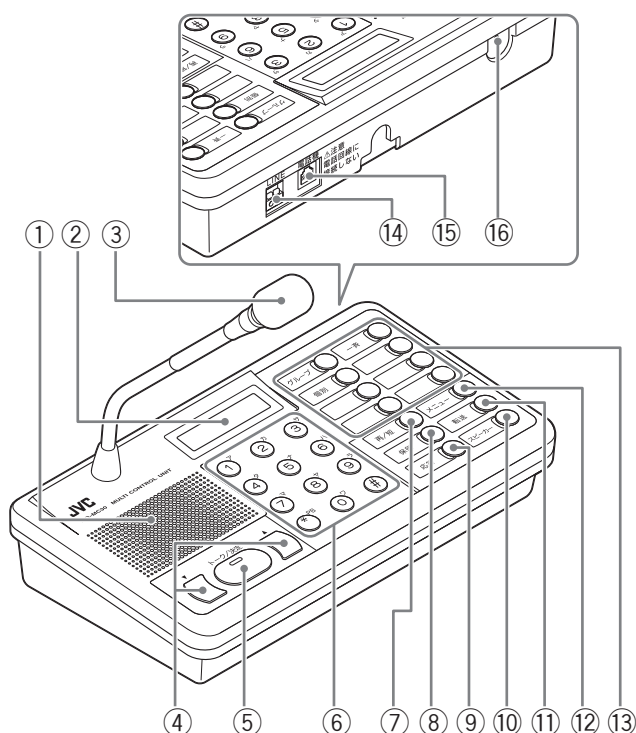
⑭ RS-232C接続端子(WD-M300のみ)

デジタルボイスファイル PA-DR600を接続します。

⑮ メインコントローラー接続端子(WD-M310のみ)

メインコントローラー WD-M300に接続します。

多機能操作器 WD-MC30



① モニタースピーカー

インカム通話/電話の音声や呼出音を聞くことができます。

② ディスプレイ

ダイヤル番号・動作モード・設定メニュー、日時などを表示します。

③ マイク

相手と通話するときに使用します。
着信時にマイクの下側のLEDランプ(緑)が点滅します。

※通話中や移動の際にマイクのシャフト部を持たないでください。またねじったり、連続して屈曲させないでください。故障の原因になります。

※マイクのシャフト部からきしみ音が発生することがありますが、構造によるもので故障ではありません。

④ [▲] [▼] (音量)ボタン

受話音量や着信音量、マイク音量の調節、メニュー設定時に使用します。

⑤ [トーク/決定]ボタン(ランプ)

相手と通話するときに操作します。
メニュー設定の場合は決定ボタンとして使用します。

⑥ ダイヤルボタン(テンキー)

子機を個別に呼び出すときや、外線電話/内線電話発信するときにダイヤルします。

⑦ [再/短]ボタン

リダイヤルや短縮ダイヤルで発信するときに使用します。

⑧ [保留]ボタン

外線電話を保留するときに使用します。

⑨ [応答]ボタン

外線電話の着信およびインカム通話の個別呼出などに応答するときに使います。

⑩ [スピーカー]ボタン

スピーカーをオン/オフします。また、内部の呼び出しや外線電話をかけるときに押します。

⑪ [転送]ボタン

外線電話などを転送するときに使用します。

⑫ [メニュー]ボタン

着信音やディスプレイなどの各種設定をするときに使用します。

⑬ ファンクションボタン

グループ通話をするときや一斉連絡をするときなどに使用します。工場出荷時は下表のように設定されています。変更したいときは、お買い上げ販売店または設置業者にお問い合わせください。

※「未設定」になっているボタンを押しても動作しません。

グループ通話	一斉通話
個別通話	未設定
未設定	未設定
未設定	未設定

⑭ LINE端子

メインコントローラー WD-M300/サブコントローラー WD-M310に接続します。

⑮ モジュラー端子

市販の電話機を接続できます。

電話機は、受話器での送話、受話音声のみに使用します。テンキーなどのボタン類の操作はできません。

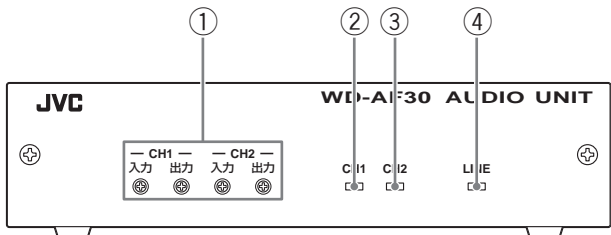
電話機は、技術基準適合認定品をご使用ください。FAXやモデムは絶対に接続しないでください。

⑯ ケーブルクランプ

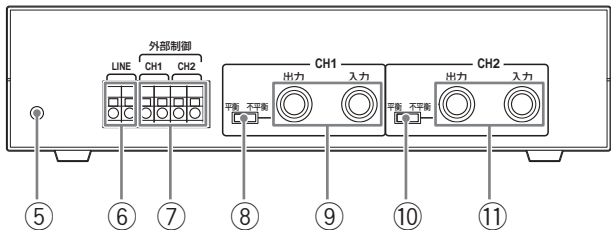
付属のワイヤークランプで、配線ケーブルを固定します。

音声入出力ユニット WD-AF30

【正面】



【背面】



① 入出力音声 音量ボリューム

② CH1状態ランプ(緑)

表示状態	内容
点灯	正常動作中
消灯	使用していない

③ CH2状態ランプ(緑)

表示状態	内容
点灯	正常動作中
消灯	使用していない

④ LINE状態ランプ(緑)

表示状態	内容
点灯	正常動作中
点滅	異常
消灯	接続されていない

⑤ ケーブルクランプ

付属のワイヤークランプで配線ケーブルを固定します。

⑥ LINE

メインコントローラー WD-M300/サブコントローラー WD-M310に接続します。

⑦ 外部制御接続端子

制御する外部機器に接続します。

⑧ CH1出力平衡/不平衡切換スイッチ

⑨ CH1音声入出力端子(6.3 Φフォンジャック)

外部音響機器に接続します。

⑩ CH2出力平衡/不平衡切換スイッチ

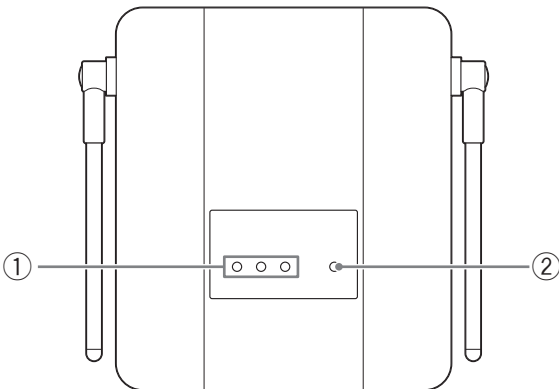
⑪ CH2音声入出力端子(6.3 Φフォンジャック)

外部音響機器に接続します。

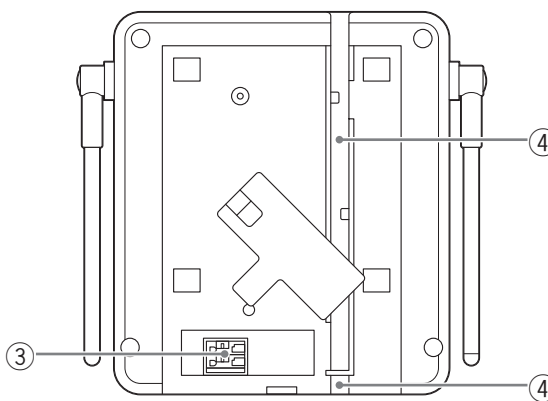
セルステーション(CS) WD-T300

ご注意 セルステーションWD-T300は必ず(C)タイプ以降を使用してください。

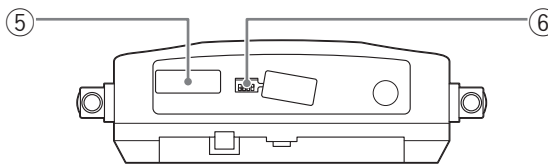
【表面】



【裏面】



【底面】



① 子機接続状態ランプ(緑)

子機の接続状態を表示します。

表示状態	内容
点灯	子機が接続されている
消灯	子機が接続されていない

② 動作状態表示ランプ(赤/緑/橙)

CSの動作状態を表示します。

表示状態	内容
橙点灯	マスターCS正常動作中
緑点灯	正常動作中
緑点滅	起動中
赤点滅	異常
消灯	接続されていない

③ LINE

④ ケーブルガイド

配線ケーブルをケーブルガイドにはわせて固定してください。

⑤ サービスコネクター

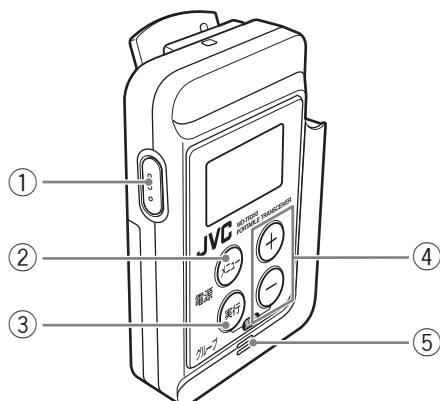
使用しません。

⑥ マスターセルステーション設定スイッチ

操作しないでください。

ポータブルトランシーバー (子機) WD-TR350

【ポータブルトランシーバー WD-TR350正面】



① 【機能】(トーク/機能)ボタン

お好みのファンクション(1機能のみ)を割り当て、実行することができます。(24ページ)

工場出荷時は、トークが設定されています。他のファンクションを割り当てるとトークボタンとしては使用できません。



トークボタンを使用した通話の方法は、子機の設定によって異なります。本書では、PTT設定での操作方法を記載しています。
PTT：子機本体またはコントロールマイクロホンのトークボタンを押しているあいだ、通話することができます。

PTTホールド：子機本体またはコントロールマイクロホンのトークボタンを一度押すと通話状態になり、もう一度押すと通話を終了します。

VOX：音声に反応して自動的にマイクONの状態になります。トークボタンを押すことなく、ハンズフリー通話ができます。

※PTT、PTTホールド、VOXはシステムデータの設定により選択します。くわしくは、お買い上げ販売店または設置業者へお問い合わせください。

② 【メニュー】(メニュー/電源)ボタン

電源の入/切、メニュー画面の表示に使用します。

※メニュー選択画面は一定時間(約6秒間)操作しないと解除され、メニュー選択画面操作前のモードにもどります。

③ 【実行】(実行/グループ)ボタン

表示されているファンクションの実行、グループ通話へもどるときなどに使用します。

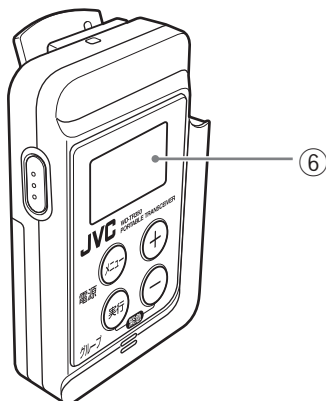
④ 【+】【-】(音量・設定変更)ボタン

音量の変更、個別通話での内線電話番号の選択などに使用します。

⑤ 内蔵マイク

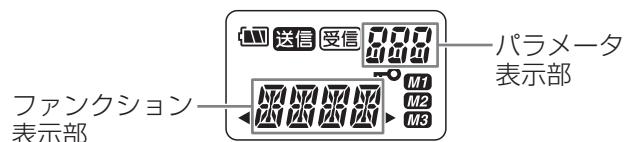
子機本体で通話するときに内蔵マイクに向かって話します。別売のコントロールマイクロホンを接続すると使用できなくなります。

【ポータブルトランシーバー WD-TR350正面】



⑥ 表示部

表示部には現在実行しているファンクション、音量、バッテリーの残量などの様々な情報が表示されます。



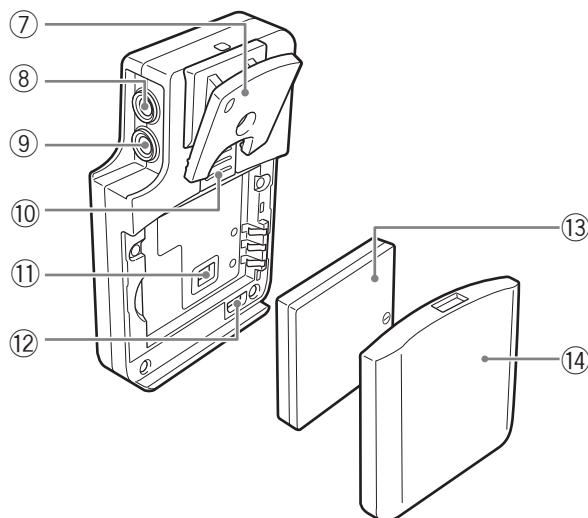
表示	説明
	バッテリーの残量が表示されます。
	他の子機などへの呼出中に点滅表示され、通話の送信中に点灯表示されます。
	他の子機などからの呼出中に点滅表示され、通話の受信中に点灯表示されます。
	キープロテクト機能がONに設定されているときに表示されます。
	メニュー画面でファンクション選択中に表示されます。
パラメータ表示部	現在選択している内線電話番号やグループ番号、音量レベルなどが表示されます。
M1 / M2 / M3	子機に登録されている外線電話番号を呼び出しているときに表示されます。

ファンクション表示部の表示について

現在実行または選択しているファンクションが表示されます。

表示	ファンクション	表示	ファンクション
GRP	グループ通話	TEL	外線電話通話
ALL	一斉呼出／一斉通話	HOLD	外線電話取次
NUM	個別通話	BRK	外線電話強制切断
MTG	招集通話	EMG	緊急通知
SPK	放送	H/O	手動ハンドオーバー
TALK	トーク	FUNC	プリセット機能選択 (FUNCTION)
EXT	外部機器制御	HEAR	ヒアリングモード
SUND	外部音源起動		

【ポータブルトランシーバー WD-TR350背面】



⑦ クリップ

子機を衣服などへ固定するときに使用します。

⑧ マイク端子*

⑨ イヤホン端子*

別売のイヤホンを接続します。

※ 2つの端子にコントロールマイクロホンのツインプラグを接続します。

⑩ ロックレバー

バッテリーカバーの取り付け、取りはずしのときに使用します。

⑪ モード設定スイッチ

ファンクションやサービス用の設定を行います。通常は使用しません。スイッチには触らないでください。

⑫ データ設定端子

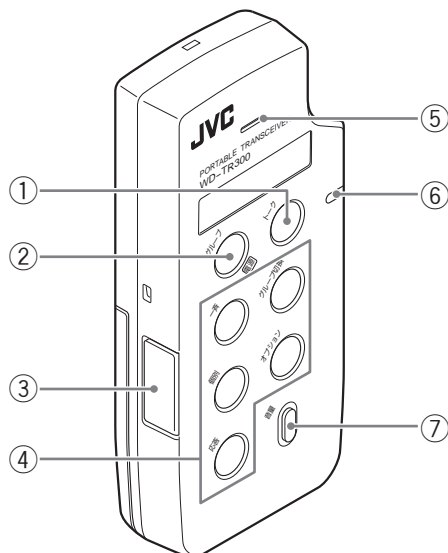
子機のシステムへの登録や設定の変更などを行うときに使用します。通常は使用しません。端子には触らないでください。

⑬ バッテリー

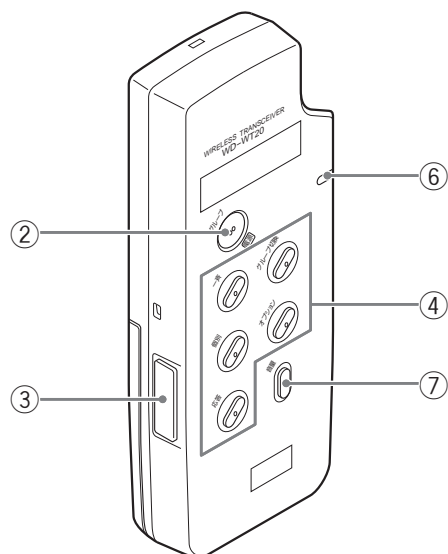
⑭ バッテリーカバー

ポータブルトランシーバー (子機) WD-TR300・ワイヤレストランシーバー (子機) WD-WT20

【ポータブルトランシーバー WD-TR300正面】



【ワイヤレストランシーバー WD-WT20正面】



① 【トーク】ボタン(WD-TR300のみ)

子機本体で通話するときに操作します。

② 【グループ】 (グループ/電源) ボタン

電源の入/切、または「グループ通話」への切換に使用します。

③ データ設定端子

子機をシステムへ登録したり、設定の変更などを行うときに使用します。
通常は使用しません。端子には触らないでください。
ホルダーに装着するときは、端子カバーに浮きがないことを確認して装着してください。

④ 機能ボタン

グループ通話をするときや一斉連絡をするときなどに使用します。工場出荷時は次のように設定されています。変更したいときは、お買い上げ販売店またはお近くの設置業者にご相談ください。

ボタン名	機能	機能名
一斉	すべてのグループの人に連絡します。	一斉通話
個別	あらかじめ設定された特定の相手呼び出します。	未設定
応答	呼び出されたときに使用します。	応答
グループ切換	他のグループに切り換えるときに使用します。	未設定
オプション	任意の機能を割り付けることができます。	未設定

※ 各ボタンに割り付けられた機能は、変更することができます。

※ ボタンに割り付けられている機能が「未設定」の場合は、押ししても動作しません。

ご注意

機能が変更されたボタンには、変更後の機能名のラベルが貼られていることがあるため、イラストと表示が異なる場合があります。
くわしくは、お買い上げ販売店または設置業者へお問い合わせください。

⑤ 内蔵マイク(WD-TR300のみ)

子機本体で通話するときに内蔵マイクに向かって話します。別売のコントロールマイクロホンを接続した場合、使用できません。

⑥ 動作ランプ

緑点滅：CSと接続中

緑点灯：通話可

赤点灯：通話不可 (電波が届かない、CSに空きチャンネルがない、妨害電波の影響など)

赤点滅：バッテリー残量低下

橙点灯：ヒアリングスレーブ (WD-TR300のみ)

橙点滅：ヒアリングマスター (WD-TR300のみ)

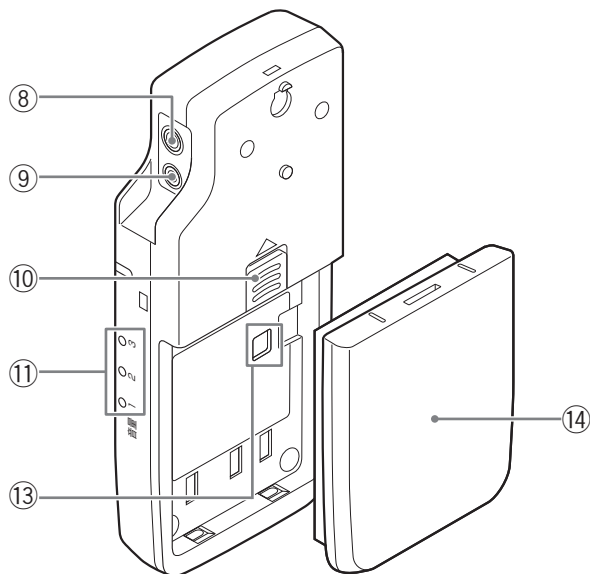
⑦ 【音量】ボタン

受話音量レベルを調節します。

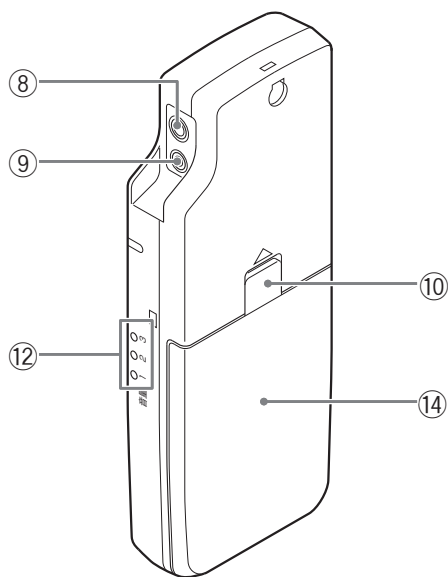
WD-TR300：10段階

WD-WT20：5段階

【ポータブルトランシーバー WD-TR300背面】



【ワイヤレストランシーバー WD-WT20背面】



⑧ マイク端子*

⑨ イヤホン端子*

別売のコントロールマイクロホン、イヤホン、またはイヤホンマイクアダプターを接続します。適合機種以外のものは接続しないでください。

※ 2つの端子にコントロールマイクロホンのツインプラグを接続します。

⑩ ロックレバー

バッテリーを取りはずすときに使用します。

⑪ 音量/バッテリー残量表示ランプ(WD-TR300)

[音量] ボタンを押しているあいだ、音量レベルを表示します。

音量レベル	音量/バッテリー残量表示ランプ		
	1	2	3
1	☀	●	●
2	☀	●	●
3	●	☀	●
4	●	☀	●
5	●	●	☀
6	●	●	☀
7	●	☀	☀
8	●	☀	☀
9	☀	☀	☀
10	☀	☀	☀

☀ : 点灯 ● : 消灯

また、電源を入れたときに、バッテリー残量を4秒間表示します。

バッテリー残量	音量/バッテリー残量表示ランプ		
	1	2	3
約30%以上	☀	☀	☀
約30%～10%	☀	☀	●
約10%以下	☀	●	●

☀ : 点灯 ● : 消灯

⑫ 音量表示ランプ(WD-WT20)

音量レベルを表示します。

音量レベル	音量表示ランプ		
	1	2	3
特小	☀	●	●
小	●	☀	●
中	●	●	☀
大	●	☀	☀
特大	☀	☀	☀

☀ : 点灯 ● : 消灯

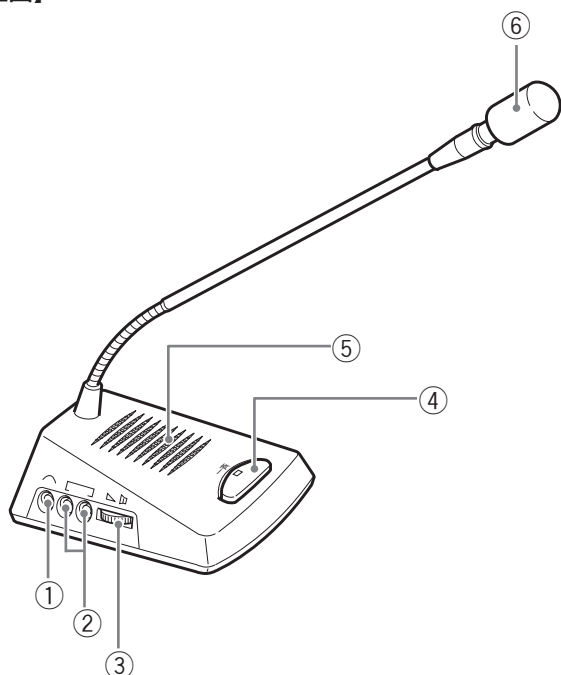
⑬ モード設定スイッチ

動作モードやサービス用の設定を行います。通常は使用しません。スイッチには触らないでください。

⑭ バッテリー

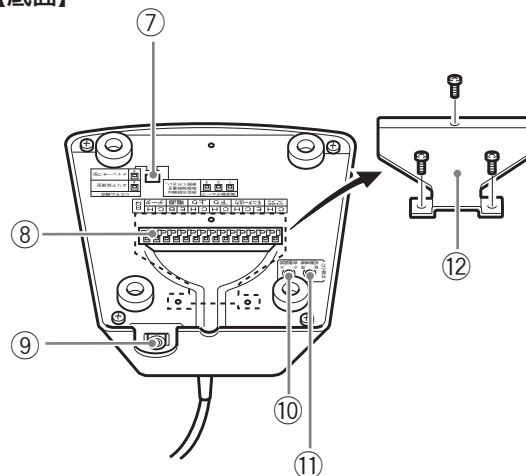
ホールマスター WT-MC60

【上面】



- ① **マイク音量調節ボリューム**
マイクの音量を調節します。
- ② **WT-T60接続ランプ**
使用しません。
- ③ **モニタースピーカー音量調節つまみ**
モニタースピーカーの音量を調節します。
過度の力で回さないでください。故障の原因となります。
- ④ **【一斉】(通話)ボタン(ランプ)**
通話するときや、呼び出しに応答するとき、このボタンを押しながらマイクに向かって話します。通話中、ランプがオレンジ色に点灯します。
- ⑤ **モニタースピーカー**
モニター音声を出力します。
音量はスピーカー音量調節つまみで調節します。
- ⑥ **マイク**
通話するとき、このマイクに向かって話します。
※通話中や移動の際にマイクのシャフト部を持たないでください。またねじったり、連続して屈曲させないでください。故障の原因になります。
※マイクのシャフト部からきしみ音が発生することがありますが、構造によるもので故障ではありません。

【底面】



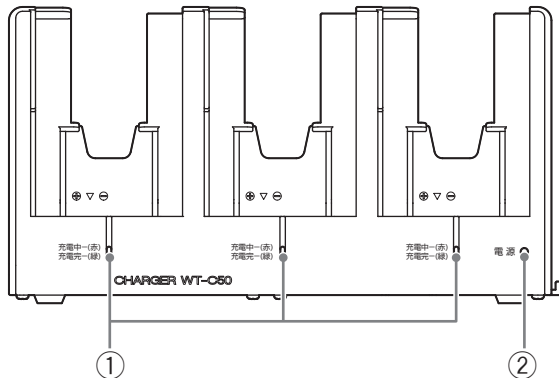
- ⑦ **設定スイッチ**
操作しないでください。
- ⑧ **接続端子**
音声入出力ユニット WD-AF30と接続します。
- ⑨ **DC12V電源入力端子**
AC アダプター (別売) からDC12V 電源を入力します。
AC アダプターについては、お買い上げ販売店またはお近くのサービス窓口にお問い合わせください。AC アダプターは必ず指定のものを使用してください。他のAC アダプターを使用すると、動作不良や故障の原因となることがあります。
- ⑩ **外部入力音量調節ボリューム**
使用しません。
- ⑪ **外部入力起動感度調節ボリューム**
使用しません。
- ⑫ **ホルダー (付属品)**
ケーブルを接続後、ホルダーを取り付けます。ケーブルが抜けないように、ケーブルとホルダーをワイヤークランプ(付属品)で固定します。

チャージャー WT-C50



チャージャーWT-C50は、必ず(B)タイプ以降を使用してください。

【チャージャー WT-C50正面】



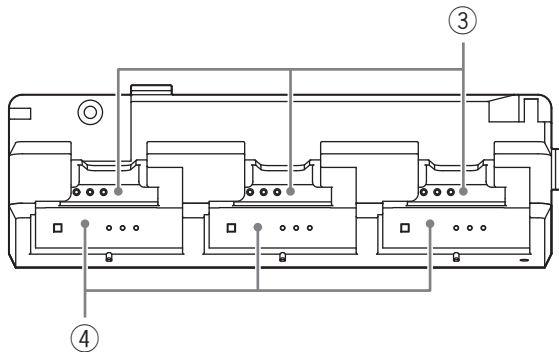
① 充電中/充電完了ランプ

充電中のとき赤色に点灯します。
充電が完了すると緑色に点灯します。

② 電源ランプ

電源が入っているとき緑色に点灯します。

【チャージャー WT-C50上面】



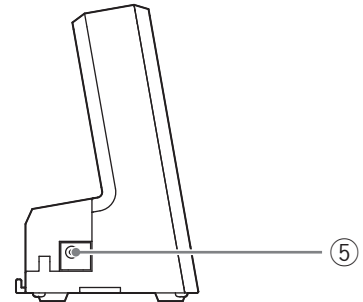
③ バッテリー充電口

充電するバッテリーを挿入する充電口です。

④ トランシーバー充電口

充電するトランシーバーを挿入する充電口です。

【チャージャー WT-C50側面】



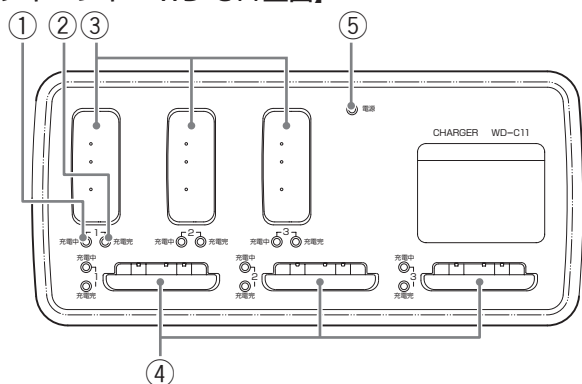
⑤ 電源入力端子

付属のACアダプターを接続し、AC100 V電源に接続します。

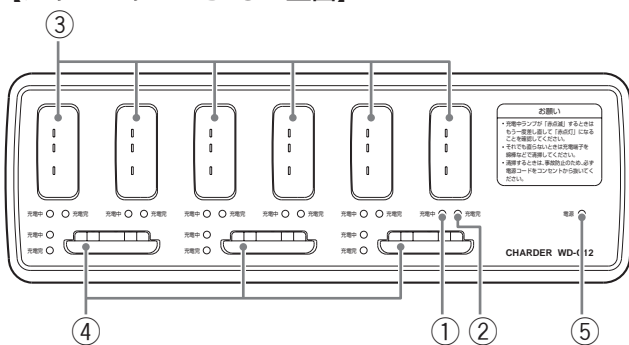
ACアダプターは必ず付属のものを使用してください。他のAC アダプターを使用すると、動作不良や故障の原因となることがあります。

チャージャー WD-C11/WD-C12

【チャージャー WD-C11上面】



【チャージャー WD-C12上面】



① 充電中ランプ

充電中のとき赤色に点灯します。

(WD-C11：6箇所)

(WD-C12：9箇所)

② 充電完了ランプ

充電が完了すると緑色に点灯します。

(WD-C11：6箇所)

(WD-C12：9箇所)

③ トランシーバー充電口

充電するトランシーバーを挿入する充電口です。

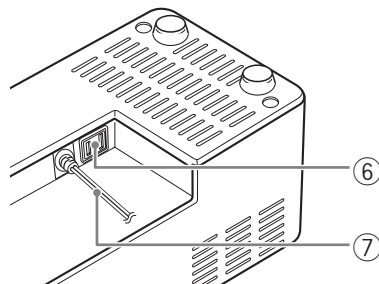
④ バッテリー充電口

充電するバッテリーを挿入する充電口です。

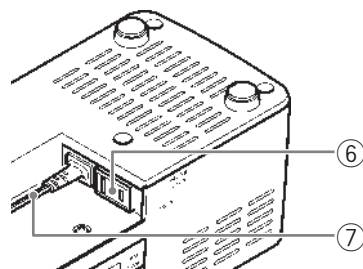
⑤ 電源ランプ

電源が入っているとき緑色に点灯します。

【チャージャー WD-C11底面】



【チャージャー WD-C12底面】



⑥ チャージャー用増設コンセント

AC100 Vのコンセント(アウトレット)です。

チャージャーを増設するときに使用します。

⑦ 電源ケーブル

AC100 V電源に接続します。

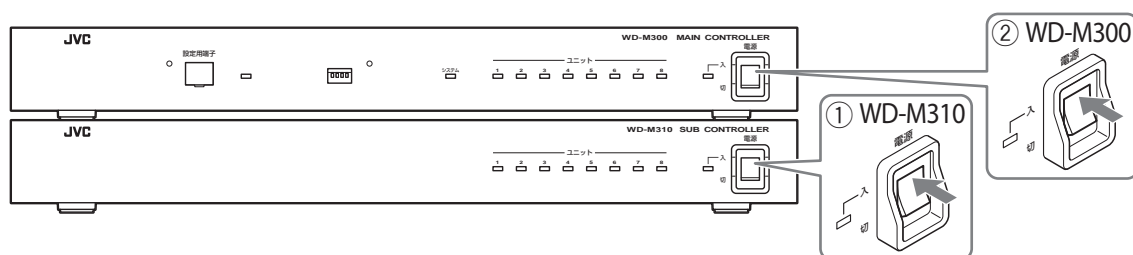
システムの電源を入れる/切る

●電源を入れるとき

サブコントローラーWD-M310、メインコントローラーWD-M300の順に電源スイッチを「入」にする。

最初にサブコントローラーWD-M310の電源スイッチを入れたあと、メインコントローラーWD-M300の電源スイッチを入れてください。

電源ランプが緑色に点灯します。約1分後、システムランプが点灯すれば電源の投入作業完了です。

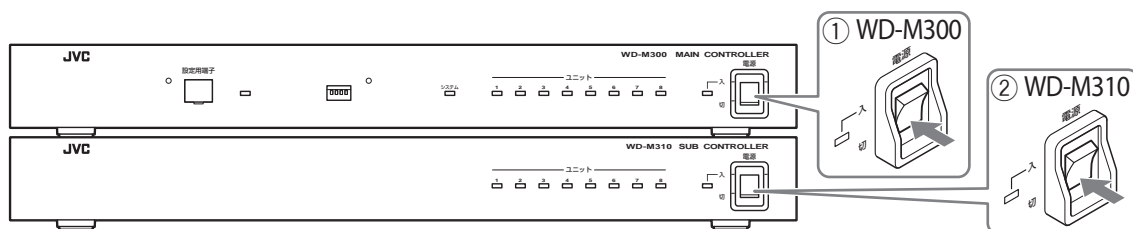


●電源を切るとき

メインコントローラーWD-M300、サブコントローラーWD-M310の順に電源スイッチを「切」にする。

最初にメインコントローラーWD-M300の電源スイッチを切ったあと、サブコントローラーWD-M310の電源スイッチを切ってください。

約5秒後、電源ランプが消灯するとシステム電源が切れます。



ご注意

メインコントローラーWD-M300とサブコントローラーWD-M310を接続しての使用時、サブコントローラーWD-M310の電源が入っている状態でも、メインコントローラーWD-M300の電源が切れている場合は、システムは動作しません。

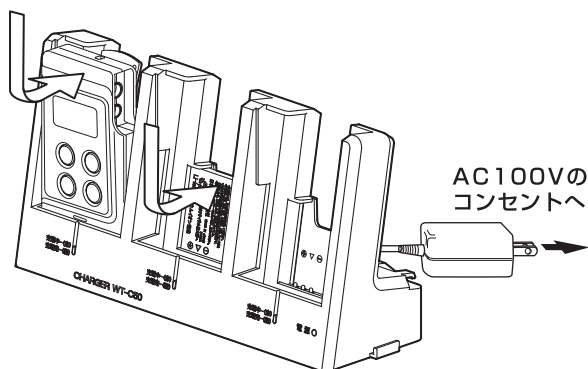
ポータブルトランシーバー WD-TR350の準備

● バッテリーを充電する

トランシーバーをお使いになるときは、あらかじめ専用充電器 **WT-C50** で充電(約3~4時間)してください。

メモ

充電するときは、子機の電源をOFFにしてください。
充電中ランプ(赤)が点灯しない、もしくは点滅するときは、もう一度入れ直してください。



ご注意

- ポータブルトランシーバーWD-TR350を充電するときは、必ず専用充電器**WT-C50** (B) タイプ以降)を使用してください。
- トランシーバーを使用中に、イヤホンから「ピッピッ、…」(約10秒間隔)というアラーム音になる場合は、バッテリーが消耗しています。速やかに充電を行なってください。

メモ

同スロットに子機とバッテリーを同時に挿入した場合は、子機の充電が優先されます。子機の充電完了後、子機を充電器からはずすとバッテリーの充電がはじまります。

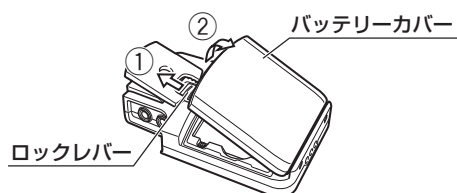
● バッテリーを取り付ける/取りはずす

【バッテリーを取り付ける】

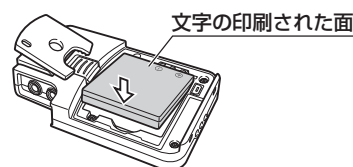
ご注意

- バッテリーカバーは、防水機能を確保するため取り付けがきつくなっています。
- バッテリーカバーがロックレバーで確実にロックされていることを確認してください。使用中にバッテリーカバーがはずれてバッテリーが飛び出す恐れがあります。

- 1 ロックレバーを下図矢印の方向へスライドさせながら、バッテリーカバーを持ち上げる。

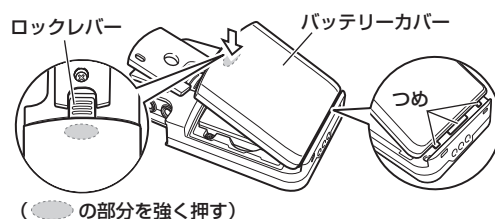


- 2 バッテリーの端子と本体の端子を合わせ、バッテリーを押し込む。



- 3 本体とバッテリーカバーのつめを合わせ、つめを奥まで差し込む。

- 4 矢印の方向に閉じ、バッテリーカバーの上部(●の部分)を強く押す



下図のように、ロックレバーが確実にロックされていることを確認してください。

確実にロックされている状態

ロックが不完全な状態

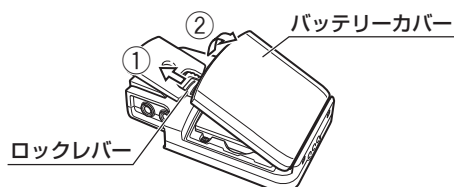


すきまがある

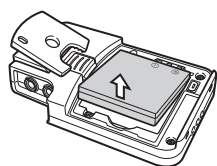
ロックレバーがロックしづらいときは、バッテリーカバーの上部(●の部分)を押してロックレバーを下げてください。

【バッテリーを取りはずす】

- 1 ロックレバーを下図矢印の方向へスライドさせながら、バッテリーカバーを持ち上げる。



2 バッテリーを持ち上げて取りはずす。

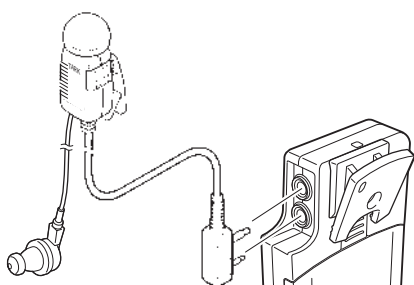


バッテリーWT-UB50 (3個入り)、をお買い求めになるときは、お買い上げ販売店またはお近くのサービス窓口にお問い合わせください。

● コントロールマイクロホンを接続する

別売のコントロールマイクロホンを使用すると、高騒音下でも明瞭な音で通話することができます。

WT-UM8、WT-UM50、WT-UM52、WT-UM33は、ポータブルトランシーバー WD-TR350対応のマイクロホンです。



また、イヤホンマイクアダプター**WD-UM300**を使用することで、KENWOODブランドのアクセサリーを接続することもできます。対応アクセサリーについては、イヤホンマイクアダプターWD-UM300の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- ・ コントロールマイクロホンを接続すると、トランシーバーの内蔵マイクは使えなくなります。
- ・ 接続するときは、ツインプラグを最後まで挿入してください。使用中に通話できなくなったり、プラグが抜けたり、雑音発生の原因となることがあります。
- ・ コントロールマイクロホンWT-UM33など、ロック式のマイクはロックを解除してから接続してください。

【「MIC」の点滅表示】

電源が入った状態でコントロールマイクロホンを接続すると、誤接続防止のため、表示部に「MIC」が点滅表示され、すべてのボタン操作、通話ができなくなります。電源を切り、コントロールマイクロホンを接続した状態で電源を入れてください。



● 子機の電源を入れる/切る

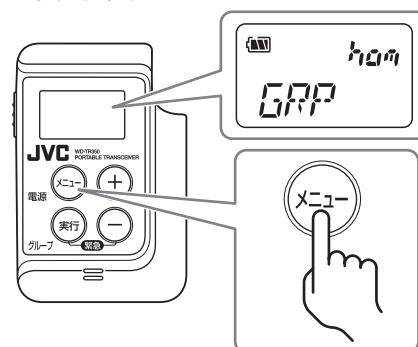
ご注意

システムの電源を入れてから子機の電源を入れてください。

【電源を入れる】

【メニュー】ボタンを2秒以上押す。

イヤホンから“ピッ”という音が聞こえ、「グループ通話モード」になります。

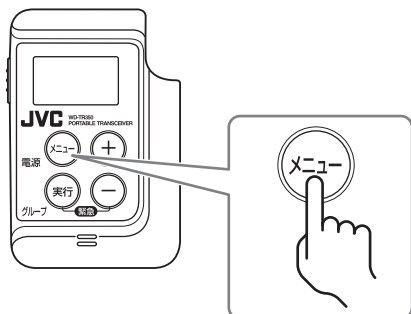


表示部が「LINK」から「GRP」の表示に変わらないときは、近くに接続できるCSがありません。CSと接続できる場所へ移動してください。

【電源を切る】

【メニュー】ボタンを2秒以上押す。

表示部のすべての表示が消えます。

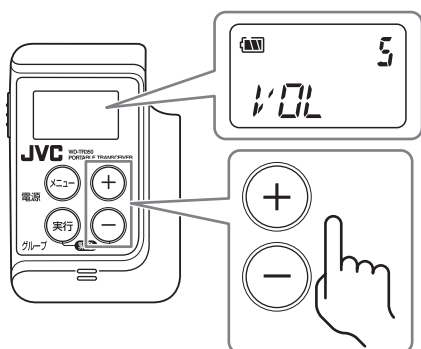


●イヤホンの音量を調節する

他の子機または多機能操作器 WD-MC30からの音声を聞きながら、聞きやすい音量に調節します。

本体の【+】【-】（音量・設定変更）ボタンで音量を調節します。

どちらかのボタンを一度押すと、音量設定画面が表示され、【+】ボタンを押すと音量が大きくなり、【-】ボタンを押すと音量が小さくなります。音量は1（最小）～10（最大）のあいだで設定ができます。



●キープロテクトを実行する/解除する

本体の【メニュー】ボタンや【実行】ボタンが動作しないようにロックします。

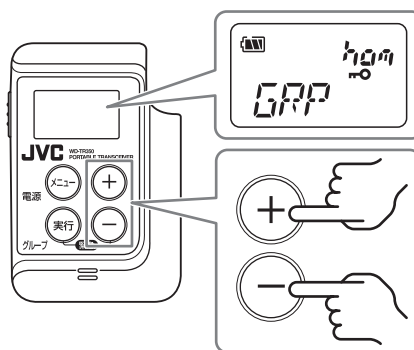
ご注意

工場出荷時は、電源を入れる/切る操作と緊急通知以外のファンクションはすべてロックされます。ロックするファンクションについては、お買い上げの販売店または設置業者にお問い合わせください。

【キープロテクトを実行する】

音量・設定変更ボタンの【+】ボタンを押しながら、【-】ボタンを3秒以上長押しする

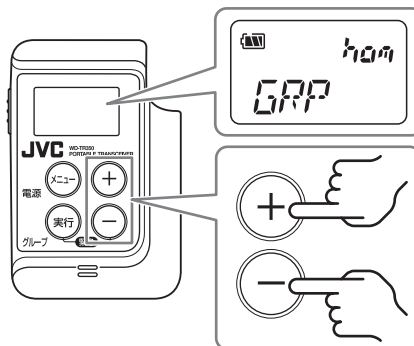
キープロテクトが実行され、表示部に「」が表示されます。



【キープロテクトを解除する】

音量・設定変更ボタンの【+】ボタンを押しながら、【-】ボタンを3秒以上長押しする

キープロテクトが解除され、表示部の「」が消えます。



●機能ボタンにファンクションを割り当てる

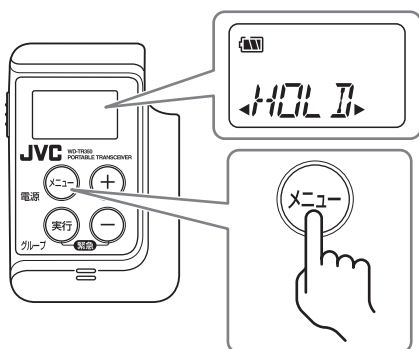
本体の[機能]ボタンにお好みのファンクションを1つ割り当て、機能ボタンとして使用できます。

ご注意

[機能]ボタンのファンクションは、あらかじめ設定されている場合があります。くわしくは、お買い上げの販売店または設置業者にお問い合わせください。

1 登録したいファンクションが表示されるまで[メニュー]ボタンを数回押す

- グループ番号や内線番号などの番号を指定する場合は、[+] [-] ボタンで登録したい番号を選択します。

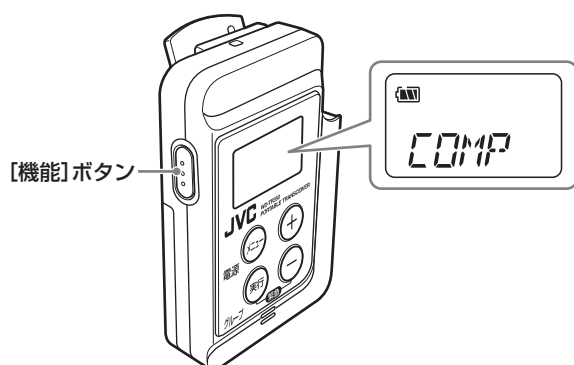


(例)外線電話取次(HOLD)を登録する

2 本体の[機能]ボタンを3秒以上長押しする

表示部に「COMP」と表示され、イヤホンから“ブーッ”という音が聞こえます。

- すでに別のファンクションがボタンに登録されていた場合は、あとから登録したファンクションに上書きされます。



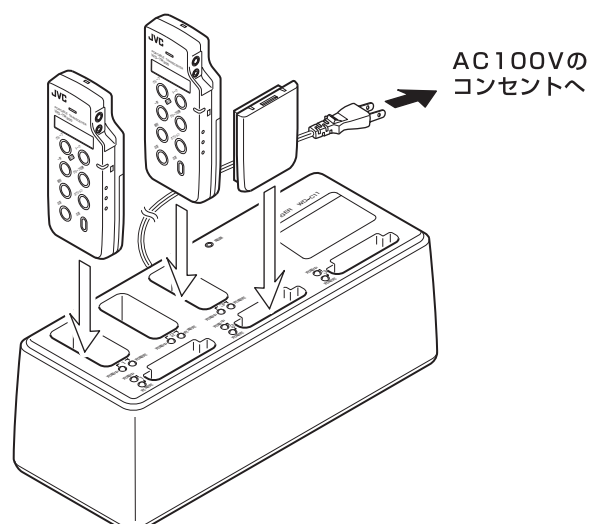
ポータブルトランシーバー WD-TR300/ワイヤレストランシーバー WD-WT20の準備

●バッテリーを充電する

トランシーバーをお使いになるときは、あらかじめ専用充電器 **WD-C11/WD-C12**で充電(約3~4時間)してください。



充電するときは、子機の電源をOFFにしてください。充電中ランプ(赤)が点滅するときは、もう一度入れ直してください。



ご注意

- ポータブルトランシーバーWD-TR300/ワイヤレストランシーバーWD-WT20を充電するときは、必ず専用充電器 **WD-C11/WD-C12**を使用してください。
- トランシーバーを使用中に、イヤホンから「ピッピッ、…」(約10秒間隔)というアラーム音になり、電源ランプが赤く点滅する場合は、バッテリーが消耗しています。速やかに充電を行ってください。



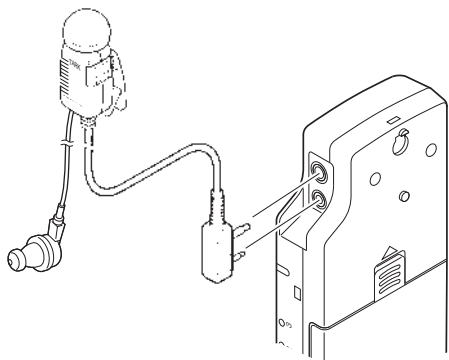
- 専用充電器WD-C11では、対応するスロットに子機とバッテリーを挿入すると、子機が優先的に充電されます。子機の充電が完了すると、バッテリーの充電がはじまります。
- 専用充電器WD-C12では、挿入するスロットに関わらず、子機とバッテリーが同時に充電できます。

●コントロールマイクロホンを接続する

別売のコントロールマイクロホンを使用すると、高騒音下でも明瞭な音で通話することができます。

WT-UM8、WT-UM50、WT-UM52、WT-UM33は、ポータブルトランシーバー WD-TR300対応のマイクロホンです。

WD-UM20、WD-UM23は、ワイヤレストランシーバー WD-WT20専用のマイクロホンです。



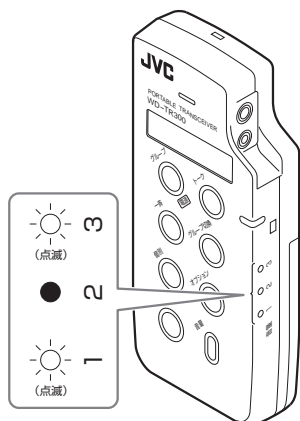
ご注意

- ・コントロールマイクロホンを接続すると、トランシーバーの内蔵マイクは使えなくなります。
- ・接続するときは、ツインプラグを最後まで挿入してください。使用中に通話できなくなったり、プラグが抜けたり、雑音発生の原因となることがあります。

また、ポータブルトランシーバーWD-TR300ではイヤホンマイクアダプター**WD-UM300**を使用することで、KENWOODブランドのアクセサリを接続することもできます。対応アクセサリについては、イヤホンマイクアダプターWD-UM300の取扱説明書をご覧ください。

【音量ランプの点滅表示】

電源が入った状態でコントロールマイクロホンを接続すると、誤接続防止のため、音量/バッテリー残量表示ランプの「1」と「3」が点滅し、すべてのボタン操作、通話ができなくなります。電源を切り、コントロールマイクロホンを接続した状態で電源を入れてください。

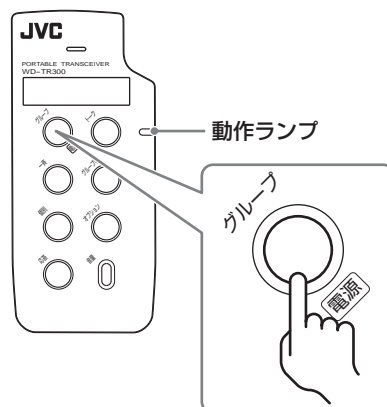


●子機の電源を入れる/切る

【電源を入れる】

【電源】ボタンを動作ランプが緑色の点滅になるまで押し続ける。

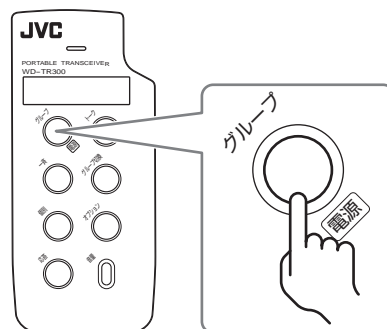
動作ランプが点滅から緑色の点灯に変われば使用できます。



ポータブルトランシーバーWD-TR300では、電源を入れたときに4秒間バッテリー残量を表示します。(16ページ)

【電源を切る】

【電源】ボタンを動作ランプが消えるまで押し続ける。



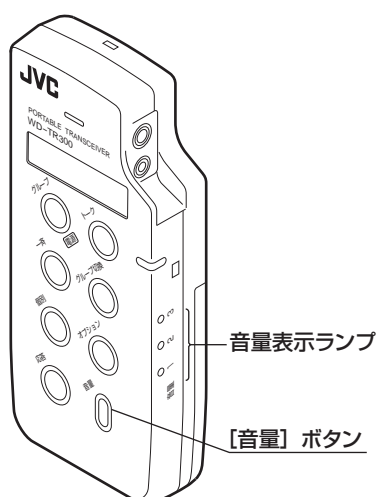
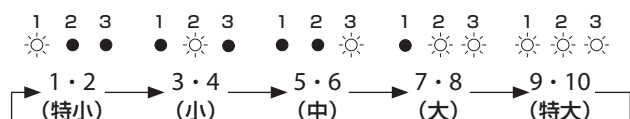
● イヤホンの音量を調節する

他の子機または多機能操作器 WD-MC30からの音声を聞きながら、聞きやすい音量に調節します。

ポータブルトランスシーバーWD-TR300は10段階、ワイヤレストランスシーバーWD-WT20は5段階で調節できます。

本体の[音量] ボタンを押すたびに音量が増加します。最大音量の次は最小音量になります。設定された音量は、[音量] ボタンを押したときに表示される音量表示ランプの点灯状態で確かめることができます。([音量] ボタンを押していないときは、音量表示ランプは消灯しています。)

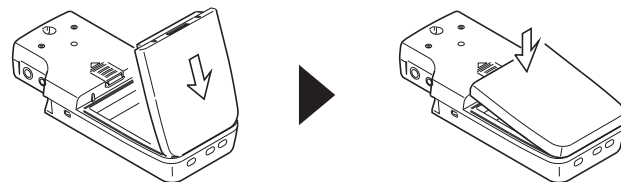
音量表示ランプ



● バッテリーを取り付ける/取りはずす

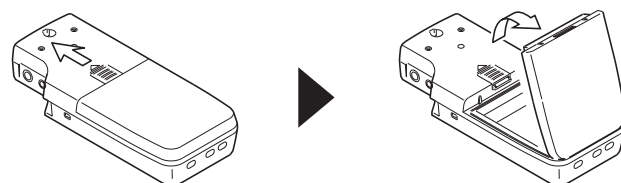
【バッテリーを取り付ける】

本体にバッテリーのつめを合わせ、バッテリーの上部をカチッと音がするまで押します。



【バッテリーを取りはずす】

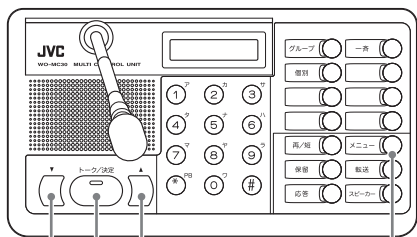
ロックレバーを矢印の向きへスライドさせながら、バッテリーを持ち上げます。



バッテリーをお買い求めになるときは、お買い上げ販売店またはお近くのサービス窓口にお問い合わせください。

多機能操作器 WD-MC30の準備

多機能操作器 WD-MC30は、インカム機能全般の操作と、外線電話(公衆回線)の発着信を行うユニットです。ここでは多機能操作器 WD-MC30の設定のしかたを説明します。



【▼】ボタン 【▲】ボタン 【メニュー】ボタン
【トーク/決定】ボタン

● 着信音量やディスプレイを調節する (ボリュームコントロール)

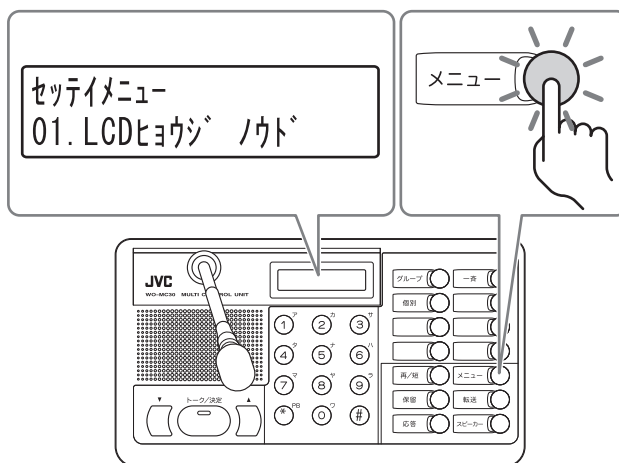
【モニタースピーカーの音量を調節する】

グループ通話などでモニタースピーカーから音がでているときに、【▲】 【▼】ボタンを押す。

【▲】：大きくする 【▼】：小さくする

【ディスプレイのコントラストを変える】

- 1 【メニュー】ボタンを押す。



- 2 ①ボタンまたは【▲】 【▼】ボタンで「01. LCDヒョウジ ノウド」をえらぶ。

- 3 【トーク/決定】ボタンを押す。



- 4 【▲】 【▼】ボタンでコントラストを調節する。
【▲】：濃くする 【▼】：淡くする

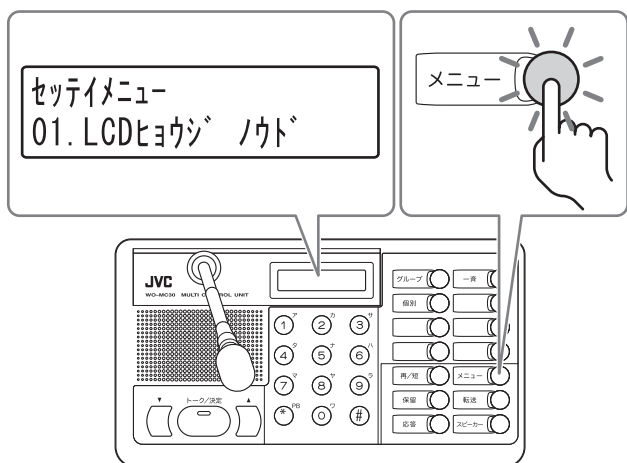


- 5 調節が終わったら、【トーク/決定】ボタンを押す。

- 【メニュー】ボタンを押すと、コントラストは変更されません。

【着信音の音量を変える】

- 1 【メニュー】ボタンを押す。



- 2 ②ボタンまたは【▲】【▼】ボタンで「02. チャクシ オンリョウ」をえらぶ。

セッテイメニュー
02. チャクシ オンリョウ

- 3 【トーク/決定】ボタンを押す。

チャクシ オンリョウ
■■■■■■■ —

- 4 【▲】【▼】ボタンで着信音の音量を調節する。
【▲】：大きくする 【▼】：小さくする

チャクシ オンリョウ
■■■■■■■ —

- 5 調節が終わったら、【トーク/決定】ボタンを押す。

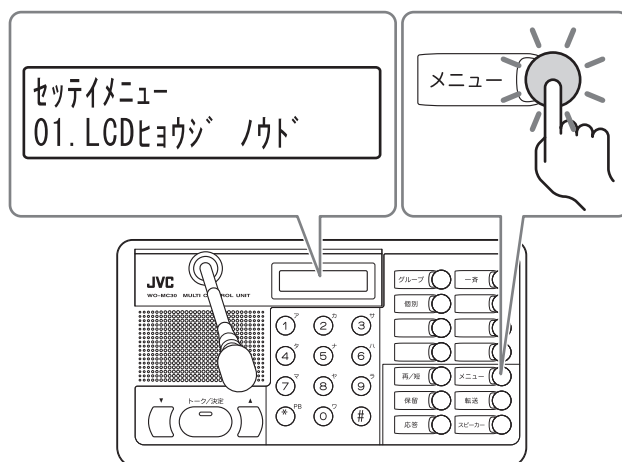
- ・【メニュー】ボタンを押すと、着信音の音量は変更されません。



着信音がなっているときに【▲】【▼】ボタンを押すことでも調節することができます。

●内線電話および外線電話の着信音色を変える

- 1 【メニュー】ボタンを押す。



- 2 内線電話の着信音を変えるときは③ボタンまたは【▲】【▼】ボタンで「03. ナイセンチャクシオン」をえらぶ。外線電話の着信音を変えるときは④ボタンまたは【▲】【▼】ボタンで「04. ガイセンチャクシオン」をえらぶ。

セッテイメニュー
03. ナイセンチャクシオン

(例) 「03. ナイセンチャクシオン」をえらんだとき

- 3 【トーク/決定】ボタンを押す。

ナイセンセッテイ
チャクシオン1-5:1

- 4 ①～⑤ボタンまたは【▲】【▼】ボタンで着信音をえらぶ。

えらんだ番号の音色がスピーカーから聞こえます。

ナイセンセッテイ
チャクシオン1-5:4

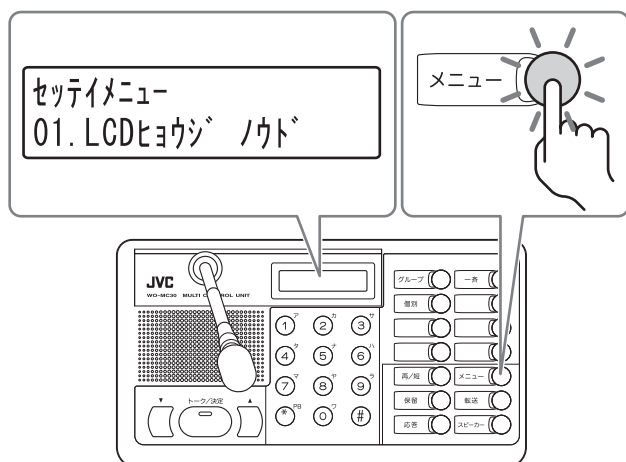
- 5 【トーク/決定】ボタンを押す。

- ・【メニュー】ボタンを押すと着信音は変更されません。

● ボタンを押したときの音(キータッチトーン)の有無を設定する

ボタンを押すたびに“ピッ”という音を出すことで、ボタンを押したことを音で確かめることができます。

1 [メニュー]ボタンを押す。



2 ⑤ボタンまたは[▲] [▼]ボタンで「05. キータッチトーン」をえらぶ。

セッテイメニュー
05. キータッチトーン

3 [トーク/決定]ボタンを押す。

キータッチトーン
シュツリョク:アリ

4 [▲] [▼]ボタンでキータッチトーンの「アリ」[ナシ]をえらぶ。

[▲] [▼]ボタンを押すたびに「アリ」「ナシ」が交互に変わります。

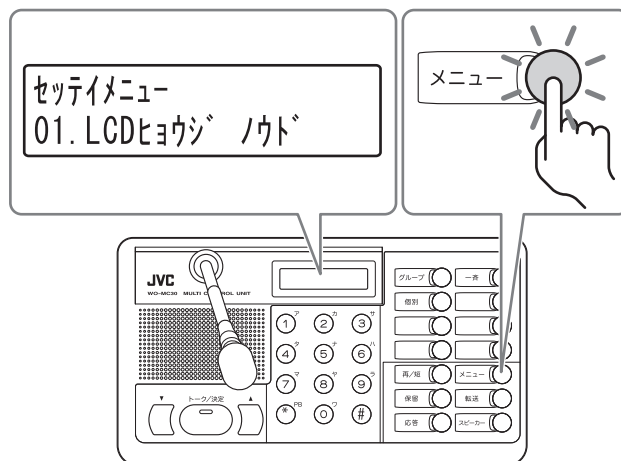
5 [トーク/決定]ボタンを押す。

- [メニュー]ボタンを押すとキータッチトーンの設定は変更されません。

● [トーク/決定]ボタンの動作を設定する

[トーク/決定]ボタンの動作を、“[トーク/決定]ボタンを押しているあいだ、マイクがオン”または“[トーク/決定]ボタンを押すたびにマイクのオン/オフが切り換わる”のどちらかに設定できます。

1 [メニュー]ボタンを押す。



2 ⑧ボタンまたは[▲] [▼]ボタンで「08. トークボタン」をえらぶ。

セッテイメニュー
08. トークボタン

3 [トーク/決定]ボタンを押す。

トークボタン
オン:オシテルイダオン

4 [▲] [▼]ボタンを押して[トーク/決定]ボタンの動作をえらぶ。

[▲] [▼]ボタンを押すたびに「オシテルイダオン」「オスゴトニオン」が交互に変わります。

「オシテルイダオン」:[トーク/決定]ボタンを押しているあいだ、マイクがオン

「オスゴトニオン」:[トーク/決定]ボタンを押すたびにマイクのオン/オフが切り換わる

トークボタン
オン:オスゴトニオン

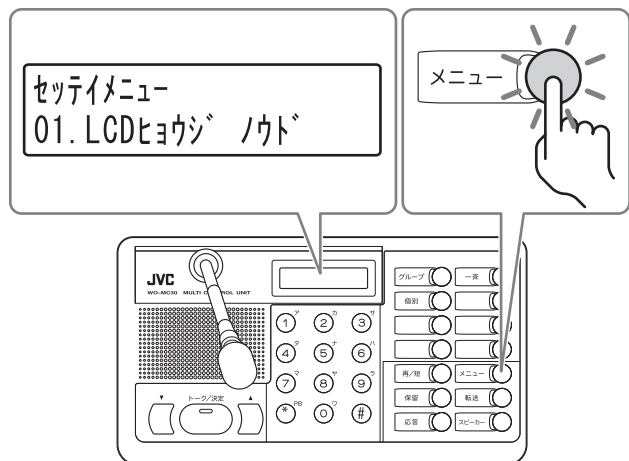
5 [トーク/決定]ボタンを押す。

- [メニュー]ボタンを押すと[トーク/決定]ボタンの動作設定は変更されません。

● 日時・曜日を設定する

ディスプレイに表示される日時や曜日を設定します。

1 【メニュー】ボタンを押す。



2 ①ボタンまたは【▲】【▼】ボタンで「10. トケイセッテイ」をえらぶ。

セッテイメニュー
10. トケイセッテイ

3 【トーク/決定】ボタンを押す。

トケイ → 10/01/01
セッテイ 00:00

4 ダイヤルボタン(テンキー)で→または←のカーソルが示す項目を設定する。

- 1) 年(西暦)の2けた目を入力します。
(例: 1を入力)

トケイ 10←01/01
セッテイ 00:00

- 2) カーソルが←になり、年の1けた目を入力します。
(例: 1を入力)

トケイ 11/0←/01
セッテイ 00:00

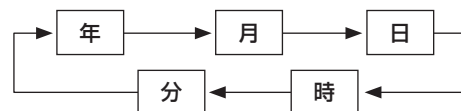
- 3) 月の2けた目を入力します。
(例: 0を入力)

トケイ 11/01←01
セッテイ 00:00

- 4) 月の1けた目を入力します。
(例: 4を入力)

トケイ 11/04/0←
セッテイ 00:00

- 5) 同様に日・時・分を入力します。
変更の必要がないときは【保留】ボタンを押すたびにカーソルが以下のように移動します。



5 設定が終わったら、【トーク/決定】ボタンを押す。

- 【メニュー】ボタンを押すとを押すと日時、曜日は変更されません。

●マイクの感度を調整する

多機能操作器WD-MC30のマイクの感度を8段階で調整します。

ご注意

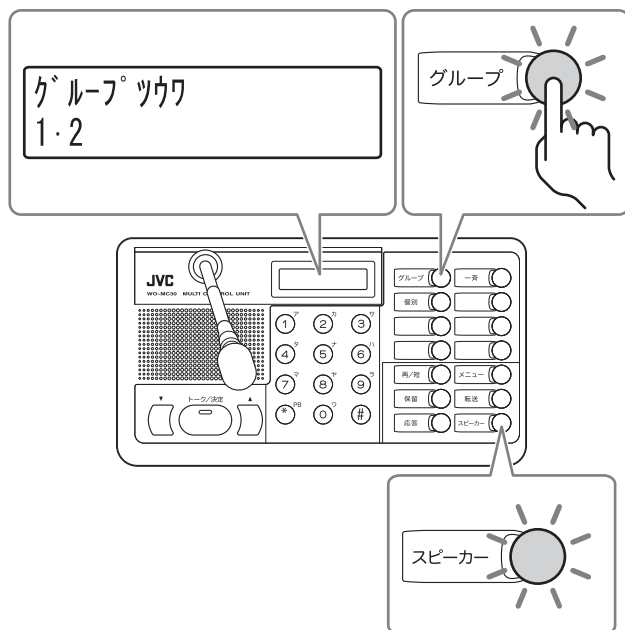
次のような場合は、マイクの感度の調整はできません。

- ・ 受話音量変更中るとき
- ・ 着信音量変更中るとき
- ・ [トーク/決定] ボタンを押してもランプが点灯しないとき (内線電話待機状態、接続している電話機の受話器がオフフックの場合などは、[トーク/決定] ボタンの操作が無効になっています)

1 [グループ] ボタンを押す。

[グループ] ボタンと [スピーカー] ボタンのランプが点灯します。

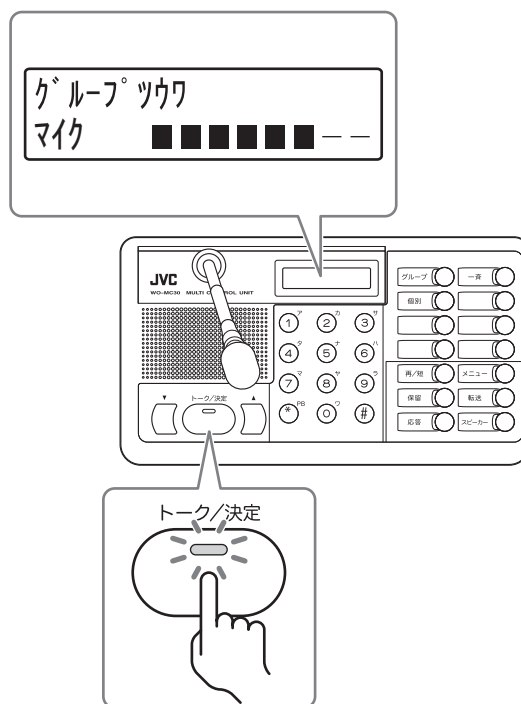
- ・ グループ通話中はこの操作は不要です。



2 [トーク/決定] ボタンを押しながら、[▲] [▼] ボタンでマイクの感度を調節する。

[▲]：大きくする [▼]：小さくする

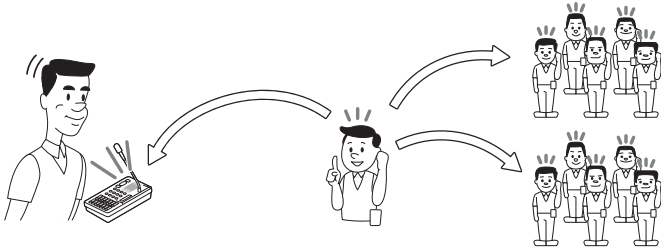
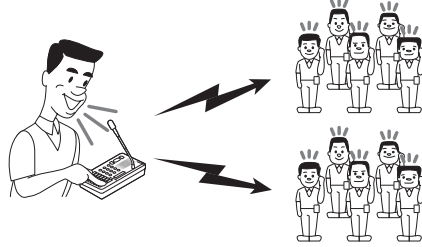
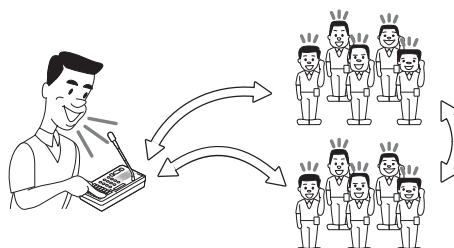
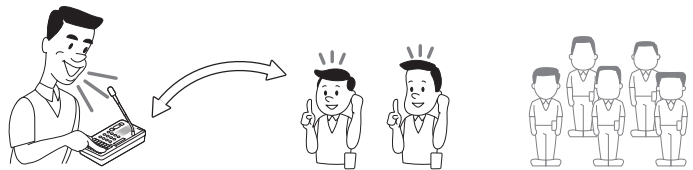
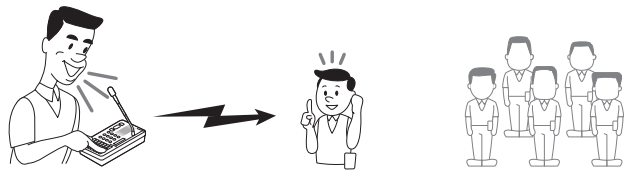
- ・ [トーク/決定] ボタンのランプが点灯し、ディスプレイに「マイク」と表示されていることを確認して操作してください。




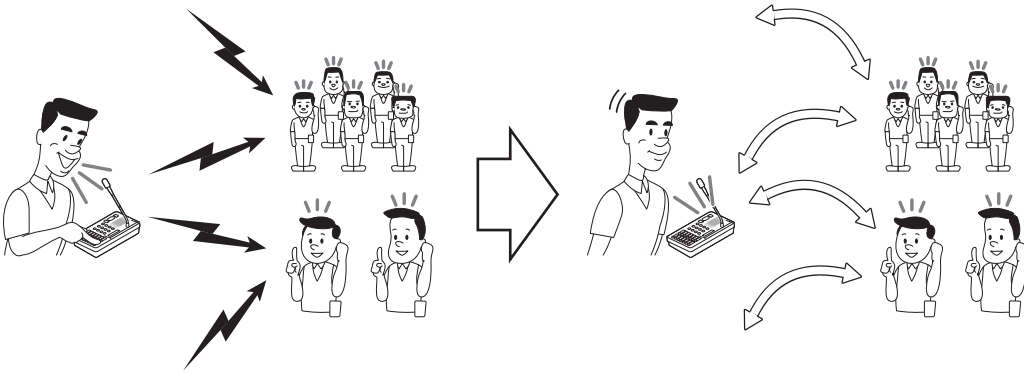

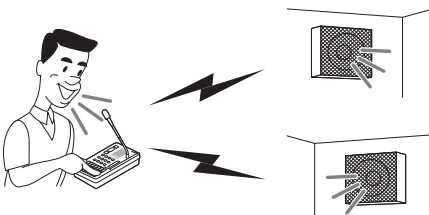



通話をする

動作モードについて

通話には、8つの動作モードがあります。(32ページ、33ページ)

動作モードの名前	動作状態
グループ通話 グループ切換 📞 34ページ、 40ページ	インカムとしての動作モードです。話の内容は同一グループ内すべての人に聞こえます。 
一斉連絡* (一斉呼出) 📞 35ページ	使用しているすべてのグループ全員を呼び出しするときのモードです。一斉呼出をした人はインカムの音声は聞こえません。 
一斉連絡* (一斉通話) 📞 38ページ	使用しているすべてのグループ全員と通話するときのモードです。 
招集通話 📞 42ページ	あらかじめ設定した招集メンバー（複数の相手）と通話するときのモードです。 
個別呼出 📞 44ページ	あらかじめ設定した特定の相手呼び出し通話するモードです。ファンクションボタンで相手を設定できます。通話の内容は他のメンバーには聞こえません。 

* 一斉呼出/一斉通話は、システムデータの設定でどちらかを選択します。同時に使用することはできません。工場出荷時は、一斉呼出に設定されています。

動作モードの名前	動作状態
個別通話  46ページ	<p>一斉呼出や個別呼出、外線電話からの呼び出しに応答することで相手と1対1で個別に通話できるモードです。相手と電話のように会話ができ、その内容は他の人には聞こえません。</p>  <p>システムデータの設定により、以下の2つの運用形態があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 内線電話方式：内線電話と同じ通話状態になります。この間は一斉連絡は聞こえません。 ・ 個別グループ方式：個別通話中でも一斉連絡が聞こえる通話状態です。個別通話ですべての個別グループを使用しているときは、個別呼び出しをしたり、一斉連絡に応答することはできません。
放送  48ページ	<p>構内放送やフロア放送するときのモードです。構内（フロア）放送設備、音声入出力ユニットWD-AF30と接続されている必要があります。</p> 
ヒアリング  56ページ (WD-TR350、WD-TR300)	<p>ポータブルトランシーバーWD-TR350/WD-TR300を通話の受信専用子機として使用するモードです。少ないCSでより多くの子機を運用することができます。特定の人のみ指示や返事を行い、その内容を聞く人が多い場合などに有効です。</p>  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>ご注意 ヒアリングモードは使用できる環境や子機の動作に制限があります。くわしくは、お買い上げの販売店または設置業者にお問い合わせください。</p> </div>
電話  60ページ (WD-MC30、WD-TR350、WD-TR300)	<p>多機能操作器WD-MC30を電話端末として使用することができます。 また、ポータブルトランシーバーWD-TR350/WD-TR300で外線の発着信ができます。</p>

用語の紹介

- ・ **インカム**：スタッフ間のコミュニケーションを円滑に行うために使用する同時双方向通信できる通信装置のことです。
- ・ **グループ**：本システムをご使用になる方々の分けです。担当業務などによって分けられます。
- ・ **招集**：グループの中から、さらに特定のメンバーを選定することです。

インカム通話をする (グループ通話モード)

自分の属しているインカムグループの全員と通話したいときに使用します。

- グループ分けの変更については、お買い上げ販売店または設置業者にお問い合わせください。

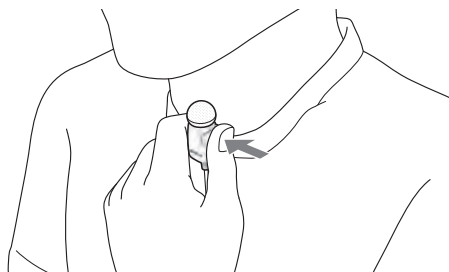
● 子機で操作する場合



子機の電源を入れたら、「グループ通話モード」になります。

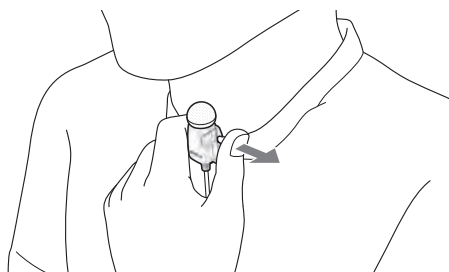
- 1 コントロールマイクロホンの「トーク」ボタンを押しながら、マイクに向かって話す。

- ポータブルトランシーバーWD-TR350/WD-TR300は、コントロールマイクロホンを装着しなくても本体のボタンでトークボタンの操作をすることができます。



(例) タイピン接話型のコントロールマイクロホンを使用しているとき

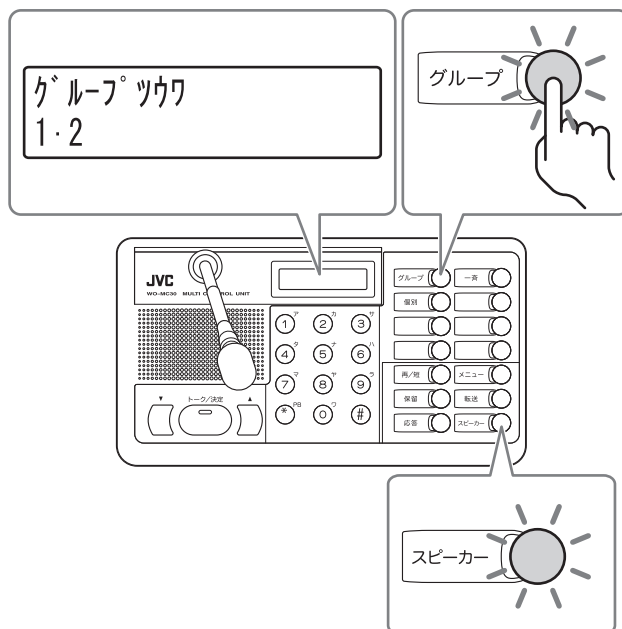
- 2 話し終わったら、「トーク」ボタンをはなす。



● 多機能操作器WD-MC30で操作する場合

- 1 「グループ」ボタンを押す。

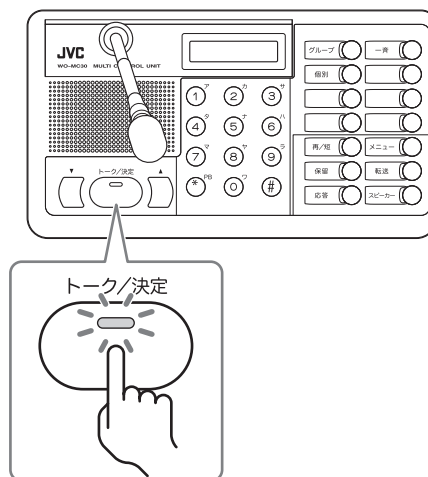
「グループ」ボタンと「スピーカー」ボタンのランプが点灯します。



(例) グループ1、2に設定しているとき

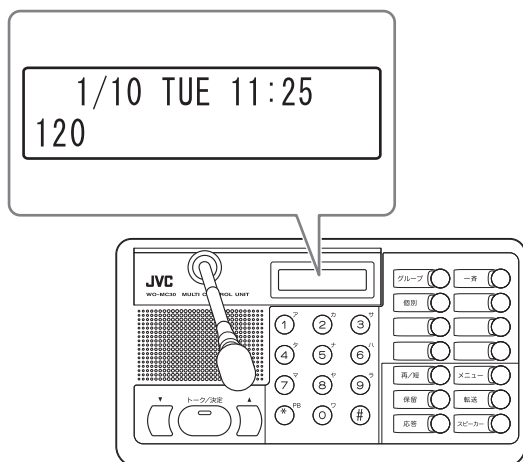
- 2 「トーク/決定」ボタンを押しながら、マイクに向かって話す。

「トーク/決定」ボタンのランプが点灯します。



「トーク/決定」ボタンは動作の設定を変更することができます。それにより、「トーク/決定」ボタンを押すたびにマイクのオン/オフが切り換わるようにもできます。

- 3 話し終わったら、[トーク/決定] ボタンをはなす。
[トーク/決定] ボタンのランプが消灯します。



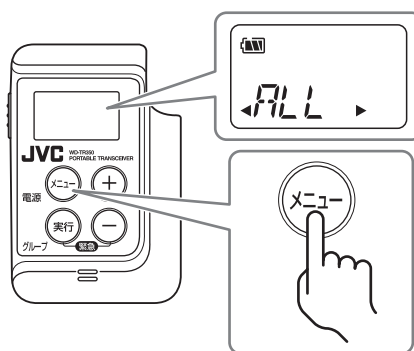
内線電話待機中にもどる場合は、[スピーカー] ボタンを押します。

すべてのグループに対して呼びかける(一斉呼出モード)

使用しているすべてのグループ全員に呼び出しを行います。

● 子機WD-TR350で操作する場合

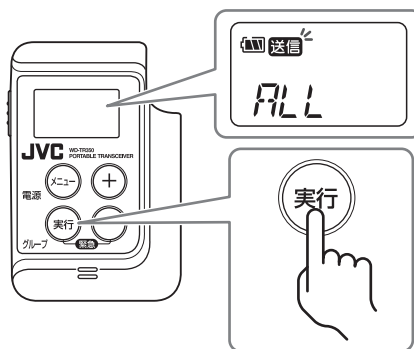
- 1 「◀ALL▶」が表示されるまで[メニュー] ボタンを数回押す。



- 2 [実行] ボタンを押す。

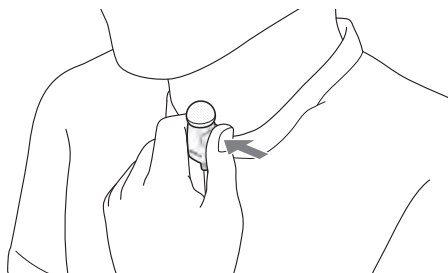
「送信」が点滅し、イヤホンから“ピポーピポー”という音が聞こえます。

- “プップッ”という音(無効音)が聞こえたときは、しばらくしてからやり直してください。



3 コントロールマイクロホンの[トーク]ボタンを押しながら、マイクに向かって話す。

- システムデータの設定により、個別グループを使用していない場合は、個別通話をしている子機に対して一斉連絡はできません。
- 一斉呼出モードの場合は、相手が応答操作をするまではイヤホンからは音声は聞こえません。



ここで相手が応答操作をすることにより、個別通話に移ることもできます。📞 個別通話モード(46ページ)

4 話し終わったら、「GRP」が表示されるまで[実行]ボタンを押し続ける。

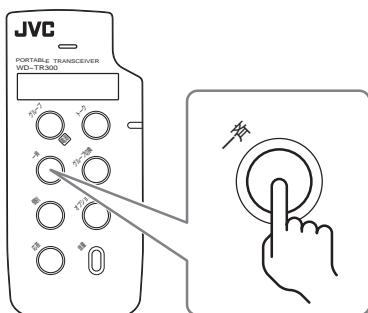
自分のグループでの「グループ通話モード」にもどります。

●子機WD-TR300/ WD-WT20で操作する場合

1 [一斉]ボタンを押す。

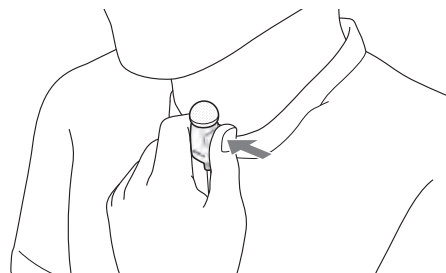
イヤホンから“ピポーピポー”という音が聞こえます。

- “ブップッ”という音(無効音)が聞こえたときは、しばらくしてからやり直してください。



2 コントロールマイクロホンの[トーク]ボタンを押しながら、マイクに向かって話す。

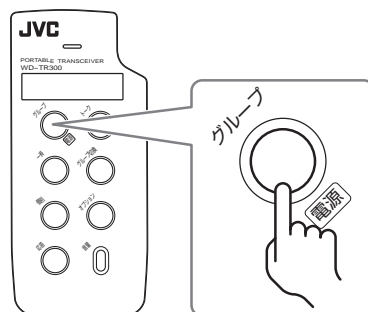
- システムデータの設定により、個別グループを使用していない場合は、個別通話をしている子機に対して一斉連絡はできません。
- 一斉呼出モードの場合は、相手が応答操作をするまではイヤホンからは音声は聞こえません。



ここで相手が応答操作をすることにより、個別通話に移ることもできます。📞 個別通話モード(46ページ)

3 話し終わったら、[グループ]ボタンを押す。

自分のグループでの「グループ通話モード」にもどります。

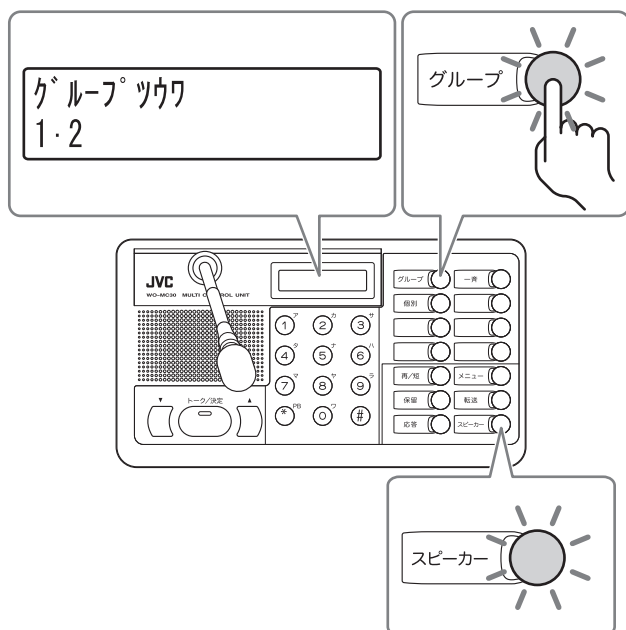


●多機能操作器WD-MC30で操作する場合

1 [グループ] ボタンを押す。

[グループ] ボタンと[スピーカー] ボタンのランプが点灯します。

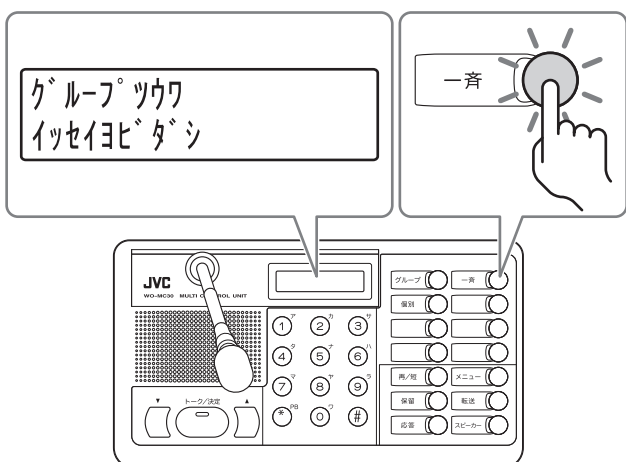
- グループ通話中はこの操作は不要です。



2 [一斉] ボタンを押す。

[一斉] ボタンのランプが点灯し、スピーカーから“ピポーピポー”という音が聞こえます。

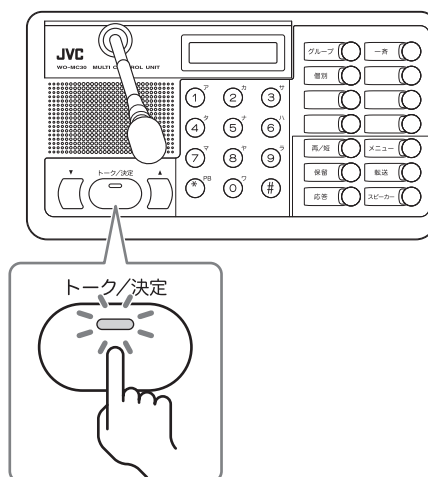
- “プップ”という音(無効音)が聞こえた場合は、しばらくしてからやり直してください。



3 [トーク/決定] ボタンを押しながら、マイクに向かって話す。

[トーク/決定] ボタンのランプが点灯します。

- システムデータの設定により、個別グループを使用していない場合は、個別通話をしている子機に対して一斉連絡はできません。
- 一斉呼出モードの場合は、相手が応答操作をするまではイヤホンからは音声は聞こえません。



- [トーク/決定] ボタンは動作の設定を変更することができます。それにより、[トーク/決定] ボタンを押すたびにマイクのオン/オフが切り換わるようにもできます。
- ここで相手が応答操作をすることにより、個別通話に移ることもできます。
- ☎ 個別通話モード(46ページ)

4 話し終わったら、[グループ] ボタンを押す。

「グループ通話モード」にもどります。

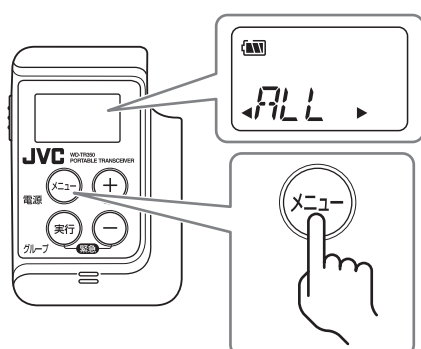
- 内線電話待機中にしたいときは、[スピーカー] ボタンを押します。

すべてのグループと通話する (一斉通話モード)

使用しているすべてのグループ全員と通話します。

●子機WD-TR350で操作する場合

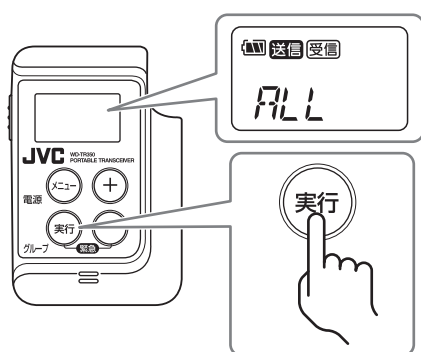
- 1 「◀ ALL ▶」が表示されるまで[メニュー] ボタンを数回押す。



- 2 [実行] ボタンを押す。

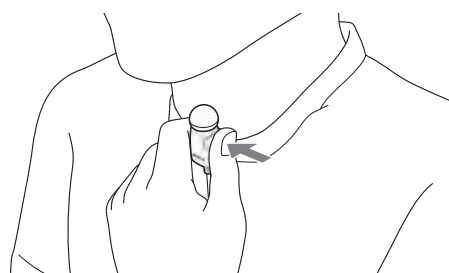
「送信」、「受信」が点灯し、イヤホンから“ピポーピポー”という音が聞こえます。

- “ブップッ”という音(無効音)が聞こえたときは、しばらくしてからやり直してください。



- 3 コントロールマイクロホンの[トーク] ボタンを押しながら、マイクに向かって話す。

- システムデータの設定により、個別グループを使用していない場合は、個別通話をしている子機に対して一斉連絡はできません。



- 4 話し終わったら、「GRP」が表示されるまで[実行] ボタンを押し続ける。

自分のグループでの「グループ通話モード」にもどります。

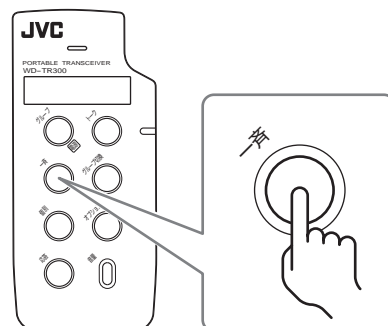
- 「グループ通話モード」にもどる操作は1~2で一斉通話の操作を実行した人のみできます。
- 「グループ通話モード」にもどると、相手も自動的に「グループ通話モード」にもどります。

●子機WD-TR300/ WD-WT20で操作する場合

- 1 [一斉] ボタンを押す。

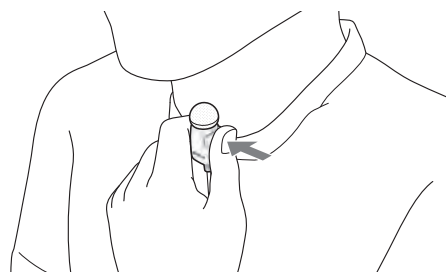
イヤホンから“ピポーピポー”という音が聞こえます。

- “ブップッ”という音(無効音)が聞こえたときは、しばらくしてからやり直してください。



- 2 コントロールマイクロホンの[トーク] ボタンを押しながら、マイクに向かって話す。

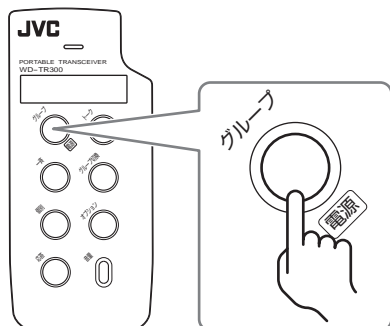
- システムデータの設定により、個別グループを使用していない場合は、個別通話をしている子機に対して一斉連絡はできません。



3 話し終わったら、[グループ]ボタンを押す。

自分のグループでの「グループ通話モード」にもどります。

- 「グループ通話モード」にもどる操作は**1**で「一斉」ボタンを押した人のみできます。
- 「グループ通話モード」にもどると、相手も自動的に「グループ通話モード」にもどります。

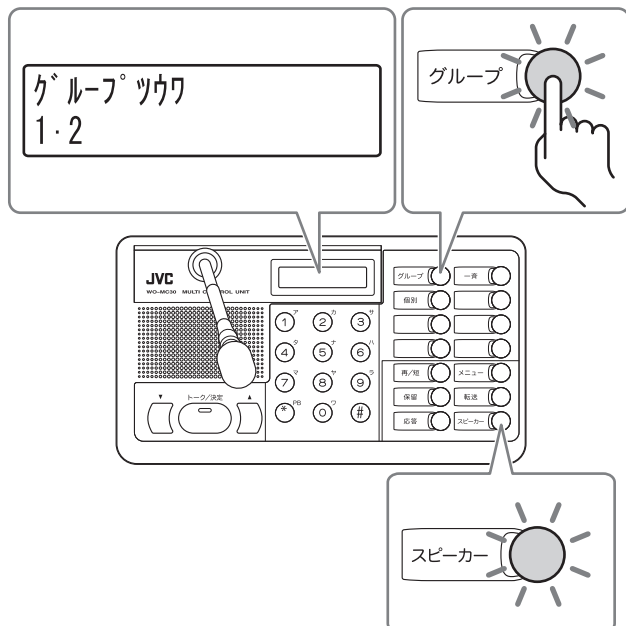


●多機能操作器WD-MC30で操作する場合

1 [グループ]ボタンを押す。

[グループ] ボタンと [スピーカー] ボタンのランプが点灯します。

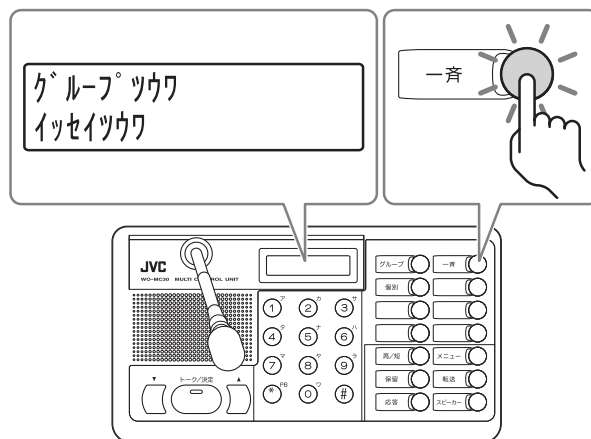
- グループ通話中はこの操作は不要です。



2 [一斉]ボタンを押す。

[一斉] ボタンのランプが点灯し、スピーカーから“ピポーピポー”という音が聞こえます。

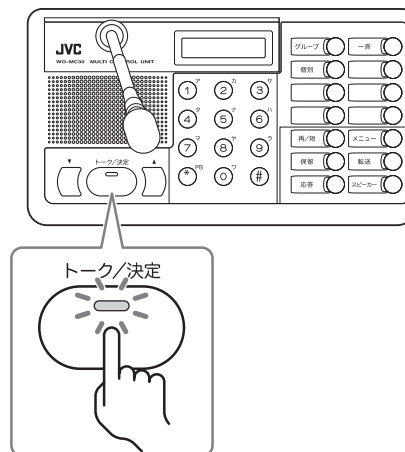
- “プップッ”という音(無効音)が聞こえた場合は、しばらくしてからやり直してください。



3 [トーク/決定]ボタンを押しながら、マイクに向かって話す。

[トーク/決定] ボタンのランプが点灯します。

- システムデータの設定により、個別グループを使用していない場合は、個別通話をしている子機に対して一斉連絡はできません。



[トーク/決定] ボタンは動作の設定を変更することができます。それにより、[トーク/決定] ボタンを押すたびにマイクのオン/オフが切り換わるようにもできます。

4 話し終わったら、[グループ]ボタンを押す。

「グループ通話モード」にもどります。

- 内線電話待機中にしたいときは、[スピーカー] ボタンを押します。
- 「グループ通話モード」にもどると、相手も自動的に「グループ通話モード」にもどります。

グループを切り換えて通話する(グループ切換モード)

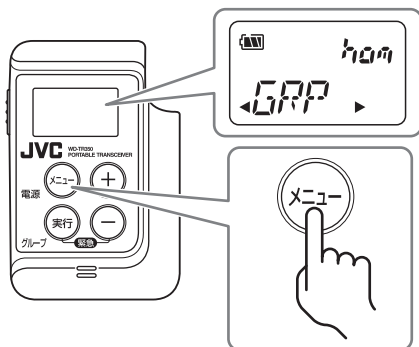
切り換えた先のグループと通話ができます。



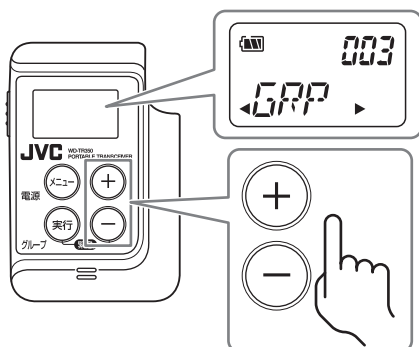
グループ切り換えをするためには、システムデータの設定変更が必要です(WD-TR350を除く)。設定変更は、お買い上げ販売店または設置業者にお問い合わせください。

●子機WD-TR350で操作する場合

- 1 「◀GRP▶」が表示されるまで[メニュー] ボタンを数回押す。



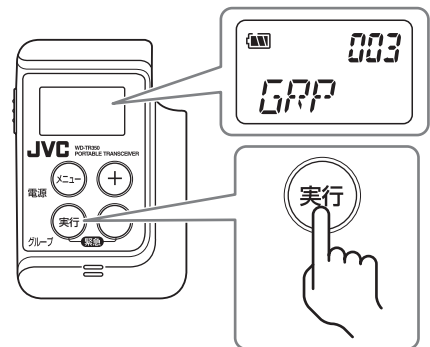
- 2 目的のグループが表示されるまで[+] [-] ボタンを数回押す。



- 3 [実行] ボタンを押す。

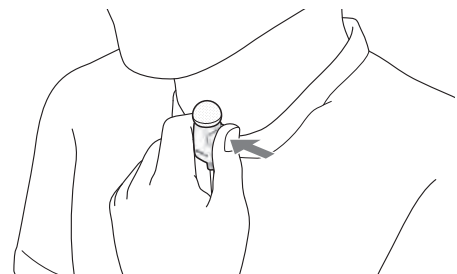
イヤホンから“ピッ”という音が聞こえます。

- “ブップ”という音(無効音)が聞こえたときは、しばらくしてからやり直してください。



グループ通話モードと同じグループを選択した場合は、グループ番号に「hom」と表示されます。

- 4 コントロールマイクロホンの[トーク] ボタンを押しながら、マイクに向かって話す。



- 5 話し終わったら、「hom」が表示されるまで[実行] ボタンを押し続ける。

自分のグループでの「グループ通話モード」にもどります。

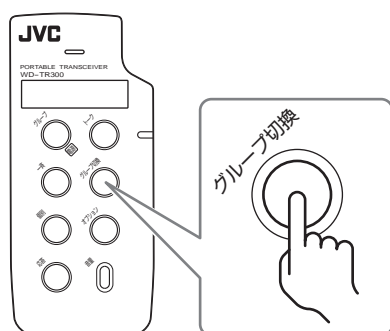
●子機WD-TR300/ WD-WT20で操作する場合

ご注意

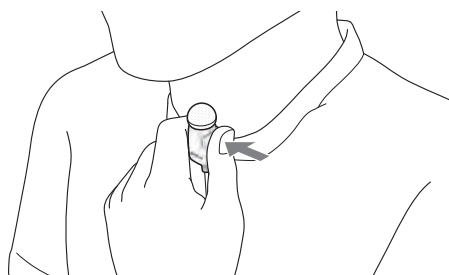
あらかじめシステムデータにより設定されたグループに切り換えます。グループの設定については、お買い上げ販売店または設置業者にお問い合わせください。

1 [グループ切換] ボタンを押す。

※「グループ切換」ボタンには、工場出荷時には機能が割り付けられていません。機能を割り付けてお使いください。
イヤホンから“ピッ”という音が聞こえます。

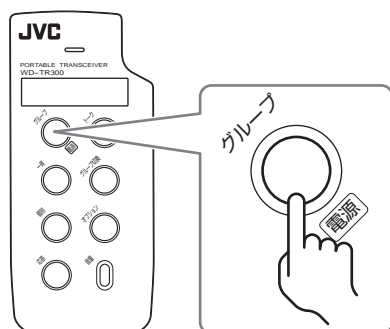


2 コントロールマイクロホンの[トーク] ボタンを押しながら、マイクに向かって話す。



3 話し終わったら[グループ] ボタンを押す。

自分のグループでの「グループ通話モード」にもどります。



●多機能操作器WD-MC30で操作する場合

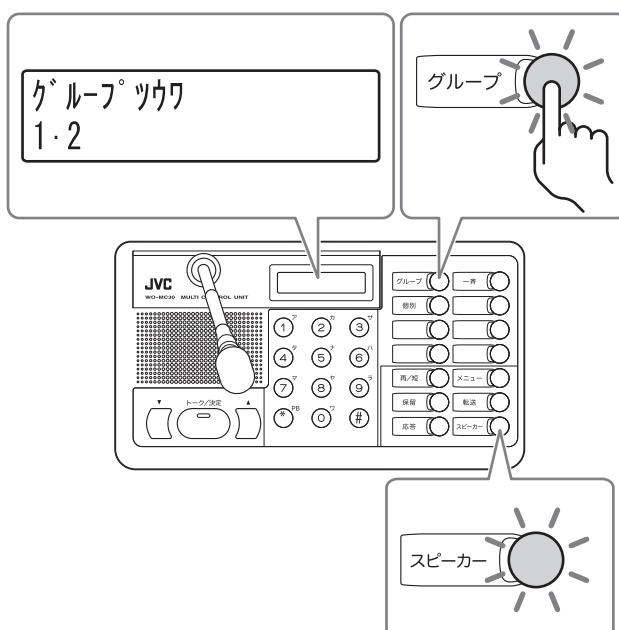
ご注意

あらかじめシステムデータにより設定されたグループに切り換えます。グループの設定については、お買い上げ販売店または設置業者にお問い合わせください。

1 [グループ] ボタンを押す。

[グループ] ボタンと[スピーカー] ボタンのランプが点灯します。

• グループ通話中はこの操作は不要です。



2 切り換えたいグループの[グループ切換] ボタンを押す。

※「グループ切換」機能は工場出荷時には割り付けられていません。任意のファンクションボタンに機能を割り付けてお使いください。

[グループ切換] ボタンのランプが点灯します
スピーカーから“ピッ”という音が聞こえます。

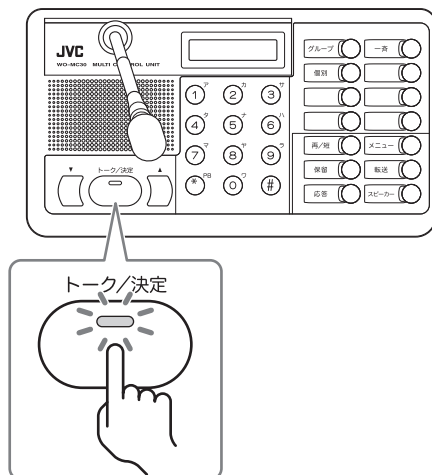


グループ ツウワ
5・6・7

(例)切り換えるグループを5、6、7に設定

- 3 【トーク/決定】ボタンを押しながら、マイクに向かって話す。

【トーク/決定】ボタンのランプが点灯します。



【トーク/決定】ボタンは動作の設定を変更することができます。それにより、【トーク/決定】ボタンを押すたびにマイクのオン/オフが切り換わるようにもできます。

- 4 話し終わったら、【グループ】ボタンを押す。

もとのグループの「グループ通話モード」にもどります。

- 内線電話待機中にしたいときは、【スピーカー】ボタンを押します。

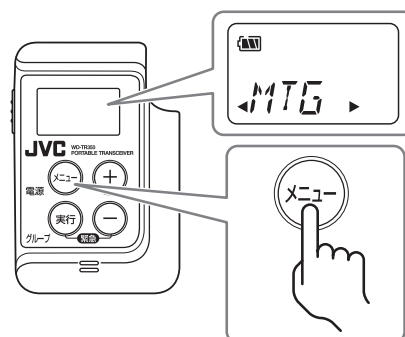
特定の複数子機と通話する (招集通話モード)

あらかじめ設定している特定の複数の相手と連絡をしたいときに使います。

- 呼び出し先の設定については、お買い上げ販売店または設置業者にお問い合わせください。

●子機WD-TR350で操作する場合

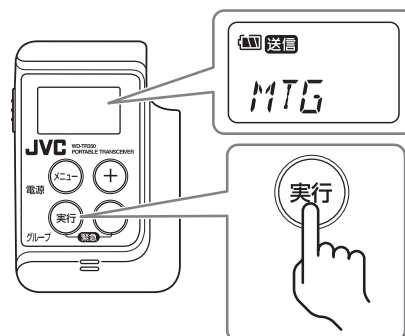
- 1 「◀MTG▶」が表示されるまで【メニュー】ボタンを数回押す。



- 2 【実行】ボタンを押す。

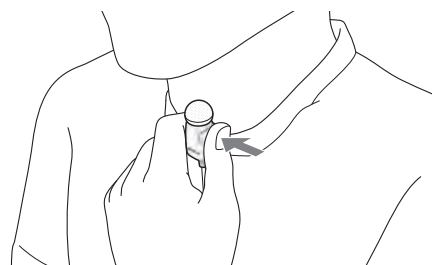
「送信」が点灯し、イヤホンから「ピポポ」という音が聞こえます。

- 「ブップッ」という音(無効音)が聞こえたときは、しばらくしてからやり直してください。



- 3 コントロールマイクロホンの【トーク】ボタンを押しながら、マイクに向かって話す。

- 呼び出し先が個別通話をしている場合、個別通話をしている人には聞こえません。



4 招集通話を終わたら、「GRP」が表示されるまで[実行]ボタンを押し続ける。

自分のグループでの「グループ通話モード」にもどります。

- 「グループ通話モード」にもどる操作は**1～2**で招集の操作を実行した人のみできます。
- 「グループ通話モード」にもどると、相手も自動的に「グループ通話モード」にもどります。

●子機WD-TR300/ WD-WT20で操作する場合

1 [招集]ボタンを押す。

※「招集」機能は工場出荷時には割り付けられていません。
任意の機能ボタンに機能を割り付けてお使いください。

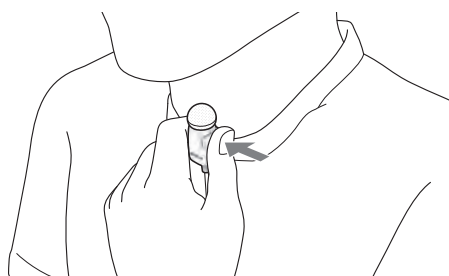
イヤホンから“ピポポ”という音が聞こえます。

- “プップ”という音(無効音)が聞こえたときは、しばらくしてからやり直してください。



2 コントロールマイクロホンの[トーク]ボタンを押しながら、マイクに向かって話す。

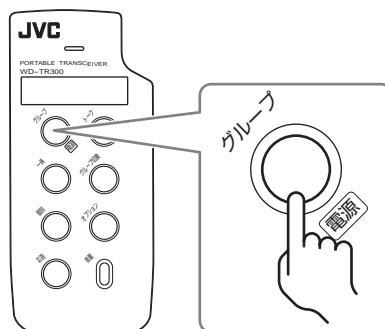
- 呼び出し先が個別通話をしている場合、個別通話をしている人には聞こえません。



3 招集通話を終わたら、[グループ]ボタンを押す。

「グループ通話モード」にもどります。

- 「グループ通話モード」にもどる操作は**1**で[招集]ボタンを押した人のみできます。
- 「グループ通話モード」にもどると、相手も自動的に「グループ通話モード」にもどります。

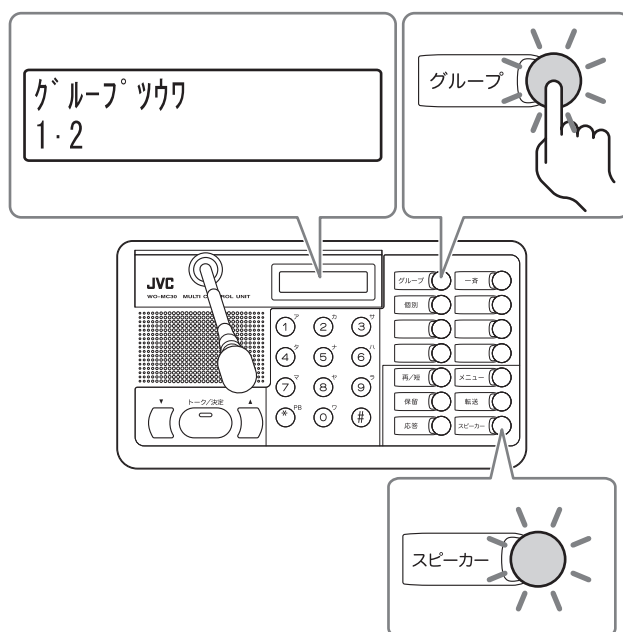


●多機能操作器WD-MC30で操作する場合

1 [グループ]ボタンを押す。

[グループ]ボタンと[スピーカー]ボタンのランプが点灯します。

- グループ通話中はこの操作は不要です。



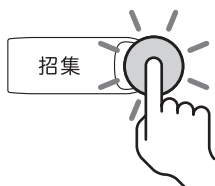
2 [招集] ボタンを押す。

※「招集」機能は工場出荷時には割り付けられていません。
任意のファンクションボタンに機能を割り付けてお使いください。

[招集] ボタンのランプが点灯します。

スピーカーから“ピポポ”という音が聞こえます。

- “ブップ”という音(無効音)が聞こえたときは、しばらくしてからやり直してください。

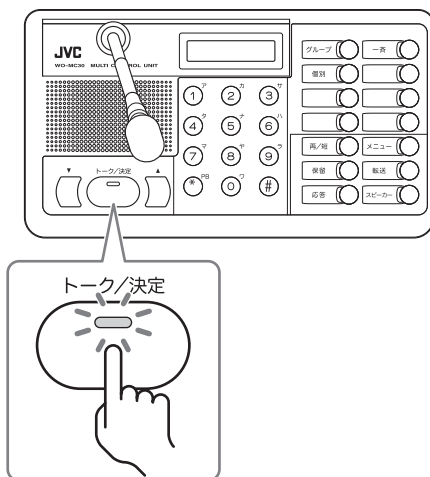


グループ ツウ
ショウショウ

3 [トーク/決定] ボタンを押しながら、マイクに向かって話す。

[トーク/決定] ボタンのランプが点灯します。

- 個別通話や放送をしている人には聞こえません。



メモ

[トーク/決定] ボタンは動作の設定を変更することができます。それにより、[トーク/決定] ボタンを押すたびにマイクのオン/オフが切り換わるようにもできます。

4 招集通話を終えたら、[グループ] ボタンを押す。

「グループ通話モード」にもどります。

- 内線電話待機中にしたいときは、[スピーカー] ボタンを押します。

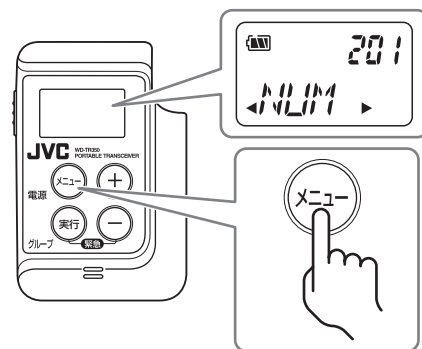
特定の相手呼び出す(個別呼出モード)

あらかじめ設定している特定の相手と個別通話をしたいときに使います。

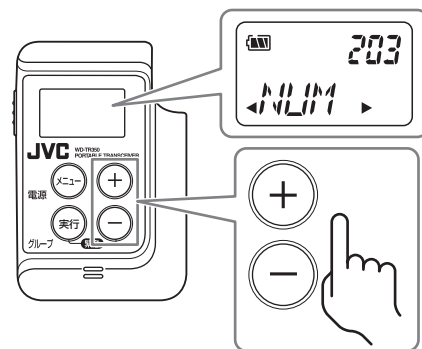
- 呼び出し先の設定については、お買い上げ販売店または設置業者にお問い合わせください。

●子機WD-TR350で操作する場合

1 「◀NUM▶」が表示されるまで[メニュー] ボタンを数回押す。



2 目的の内線電話番号が表示されるまで[+] [-] ボタンを数回押す。



メモ

内線電話番号は3けたまでしか表示されません。4けたの内線電話番号は次のように表示されます。

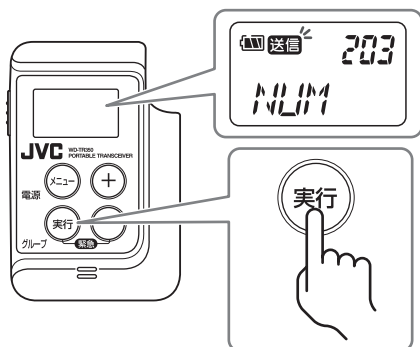
例)「1201」の場合：120 → 201 → 01 → 1 → 120 → 201...

3 【実行】ボタンを押す。

「送信」が点滅し、イヤホンから“トゥルルルル”という音が聞こえます。

呼び出した相手が応答操作をすると、通話ができます。【トーク】ボタンを押しながら話してください。

- “プププ”という音（無効音）が聞こえたときは、しばらくしてからやり直してください。



4 話し終わったら、「GRP」が表示されるまで【実行】ボタンを押し続ける。

自分のグループでの「グループ通話モード」にもどります。

- 相手も自動的に「グループ通話モード」にもどります。

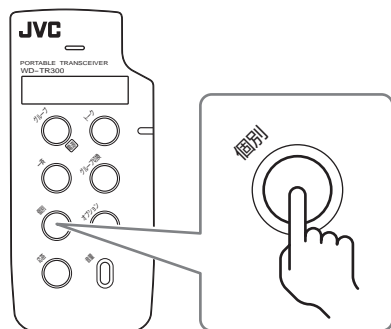
●子機WD-TR300/WD-WT20で操作する場合

1 【個別】ボタンを押す。

イヤホンから“トゥルルルル”という音が聞こえます。

呼び出した相手が応答操作をすると、通話ができます。【トーク】ボタンを押しながら話してください。

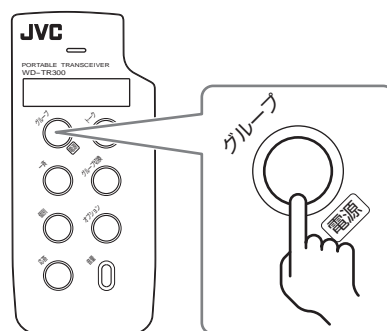
- “プププ”という音（無効音）が聞こえたときは、しばらくしてからやり直してください。



2 話し終わったら、【グループ】ボタンを押す。

「グループ通話モード」にもどります。

- 相手も自動的に「グループ通話モード」にもどります。

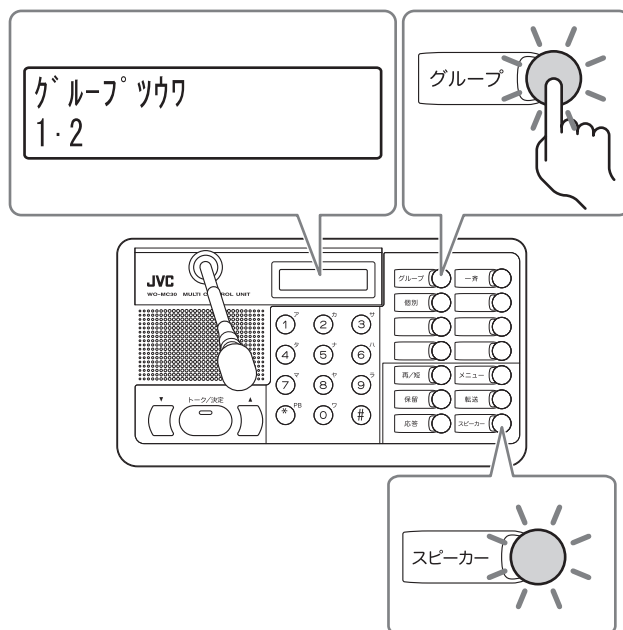


●多機能操作器WD-MC30で操作する場合

1 【グループ】ボタンを押す。

【グループ】ボタンと【スピーカー】ボタンのランプが点灯します。

- グループ通話中はこの操作は不要です。



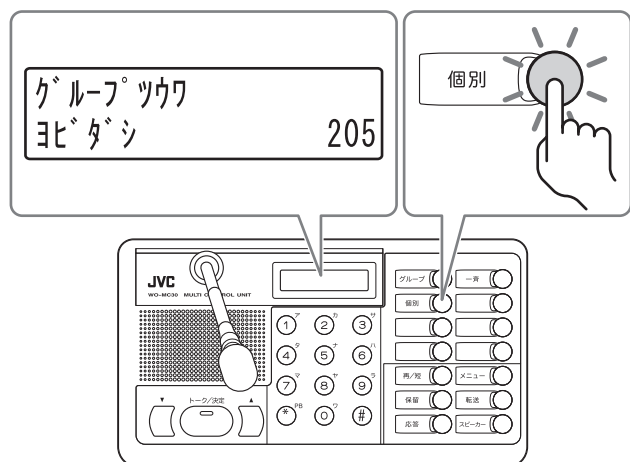
2 【個別】ボタンを押す。

【個別】ボタンのランプが点灯します。

スピーカーから“トゥルルルル”という音が聞こえます。

呼び出した相手が応答操作をすると、通話ができます。【トーク/決定】ボタンを押しながら話してください。

- “プップ”という音（無効音）が聞こえたときは、しばらくしてからやり直してください。



- 呼び出す相手の番号を入力して呼び出すこともできます。
☎ 内線電話をかける (60ページ)
- 【トーク/決定】ボタンは動作の設定を変更することができます。それにより、【トーク/決定】ボタンを押すたびにマイクのオン/オフが切り換わるようにもできます。

3 話し終わったら、【グループ】ボタンを押す。

「グループ通話モード」にもどります。

- 内線電話待機中にしたいときは、【スピーカー】ボタンを押します。

個別呼出や一斉呼出に応答する(個別通話モード)

個別に呼び出されたときや、一斉呼出を受けて個別に通話したいとき、転送された外線電話に応じるときに使います。

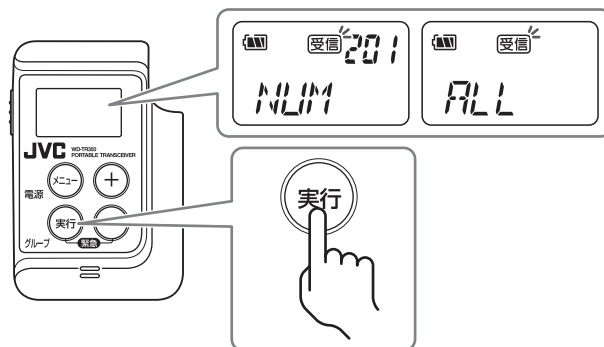
ご注意

個別通話には内線電話方式と個別グループ方式があります。個別グループ方式に設定している場合で、個別グループに空きがない状態のときには“プップ”という音（無効音）が聞こえ、応答できません。システムデータの設定については、お買い上げ販売店または設置業者にお問い合わせください。

●子機WD-TR350で操作する場合

1 着信音になったら、【実行】ボタンを押す。

※個別呼出のときイヤホンから“ピッ”という音が聞こえます。一斉呼出のときは呼出音ではなく呼び出しの音声聞こえます。

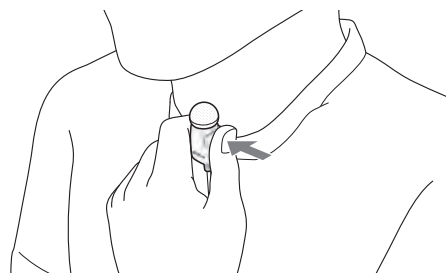


内線電話番号は3けたまでしか表示されません。4けたの内線電話番号は次のように表示されます。

例) 「1201」の場合：120 → 201 → 01 → 1 → 120 → 201...

2 コントロールマイクロホンの【トーク】ボタンを押しながら、マイクに向かって話す。

- 通話の内容は他の人には聞こえていません。



3 話し終わったら、「GRP」が表示されるまで[実行]ボタンを押し続ける。

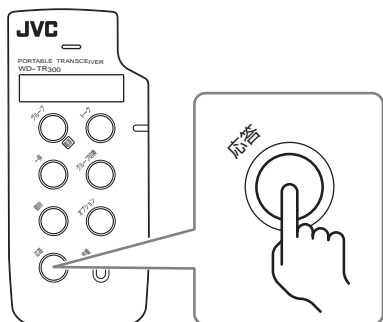
自分のグループでの「グループ通話モード」にもどります。

- 一方が「グループ通話モード」にもどると、相手も自動的に「グループ通話モード」にもどります。

●子機WD-TR300/WD-WT20で操作する場合

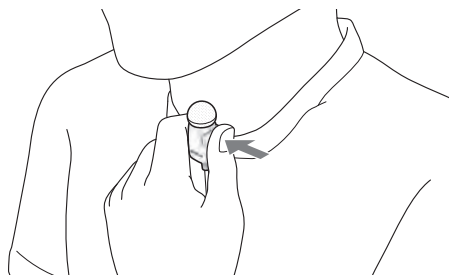
1 着信音になったら、[応答]ボタンを押す。

※個別呼出のときイヤホンから“ピッ”という音が聞こえます。一斉呼出のときは呼出音ではなく呼び出しの音声が入ります。



2 コントロールマイクロホンの[トーク]ボタンを押しながら、マイクに向かって話す。

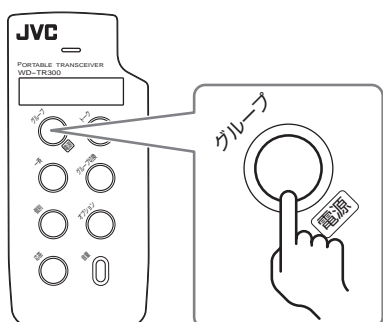
- 通話の内容は他の人には聞こえていません。



3 話し終わったら、[グループ]ボタンを押す。

自分のグループでの「グループ通話モード」にもどります。

- 一方が「グループ通話モード」にもどると、相手も自動的に「グループ通話モード」にもどります。



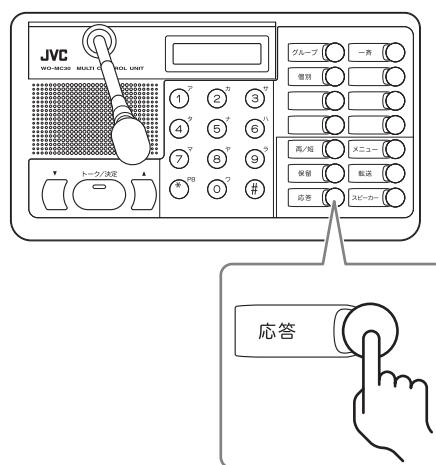
通話の相手が先に電話を切った場合は、必ず[グループ]ボタンを押してください。

●多機能操作器WD-MC30で操作する場合

1 着信音になったら、[応答]ボタンを押す。

※個別呼出のときイヤホンから“ピッ”という音が聞こえます。一斉呼出のときは呼出音ではなく呼び出しの音声が入ります。

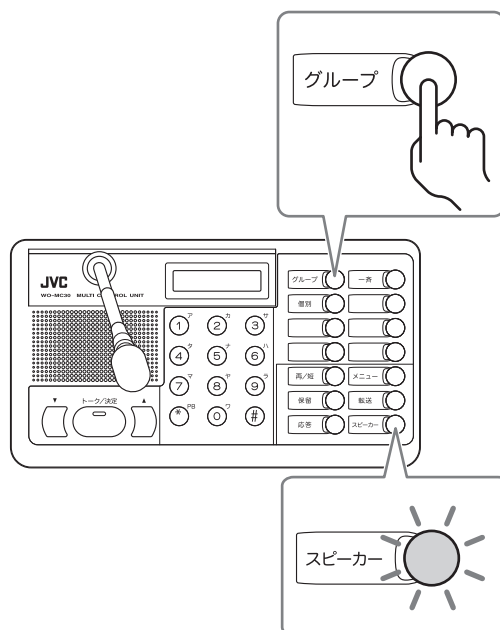
[トーク/決定]ボタンを押しながら話してください。



2 話し終わったら、[グループ]ボタンまたは[スピーカー]ボタンを押す。

「グループ通話モード」にもどります。

- 一方が「グループ通話モード」にもどると、相手も自動的に「グループ通話モード」にもどります。



放送する(放送モード)

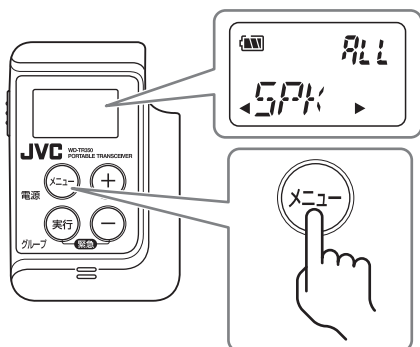
構内やフロア内などに、直接放送したいとき使します。

注意

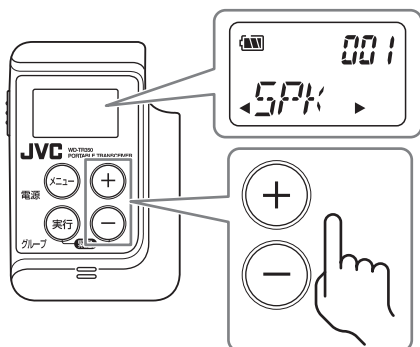
「放送モード」を使用するには、システムに音声入出力ユニットWD-AF30が接続されていて、チャンネルが「放送出力」モードに設定されている必要があります。
また、多機能操作器および子機に放送機能を設定する必要があります。
接続と設定は、お買い上げの販売店または設置業者にお問い合わせください。

●子機WD-TR350で操作する場合

- 1 「◀SPK▶」が表示されるまで[メニュー] ボタンを数回押す。



- 2 目的の放送グループ番号(1~8、ALL)が表示されるまで[+] [-] ボタンを数回押す。

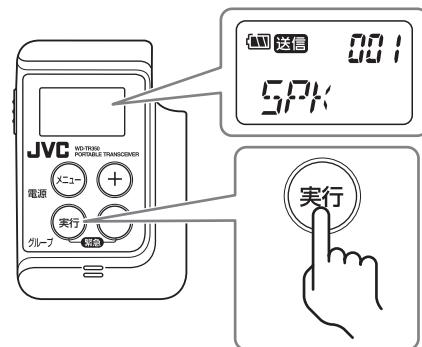


「ALL」にするとすべての放送グループに一斉に放送ができます。

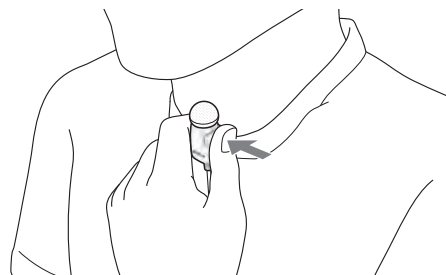
- 3 [実行] ボタンを押す。

「送信」が点灯し、イヤホンから“ピッ”という音が聞こえます。

- “ブブブ” という音(無効音)が聞こえたときは、しばらくしてからやり直してください。



- 4 コントロールマイクロホンの[トーク] ボタンを押しながら、マイクに向かって話す。



- 5 放送を終えたら、「GRP」が表示されるまで[実行] ボタンを押し続ける。

自分のグループでの「グループ通話モード」にもどります。

●子機WD-TR300/ WD-WT20で操作する場合

1 [放送] ボタンを押す。

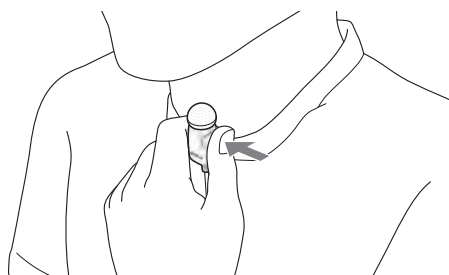
※「放送」機能は工場出荷時には割り付けられていません。
任意の機能ボタンに機能を割り付けてお使いください。

イヤホンから“ピッ”という音が聞こえます。

- “プップッ”という音（無効音）が聞こえたときは、しばらくしてからやり直してください。

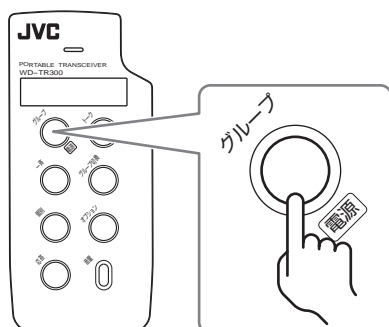


2 コントロールマイクロホンの[トーク] ボタンを押しながら、マイクに向かって話す。



3 放送を終えたら、[グループ] ボタンを押す。

自分のグループでの「グループ通話モード」にもどります。

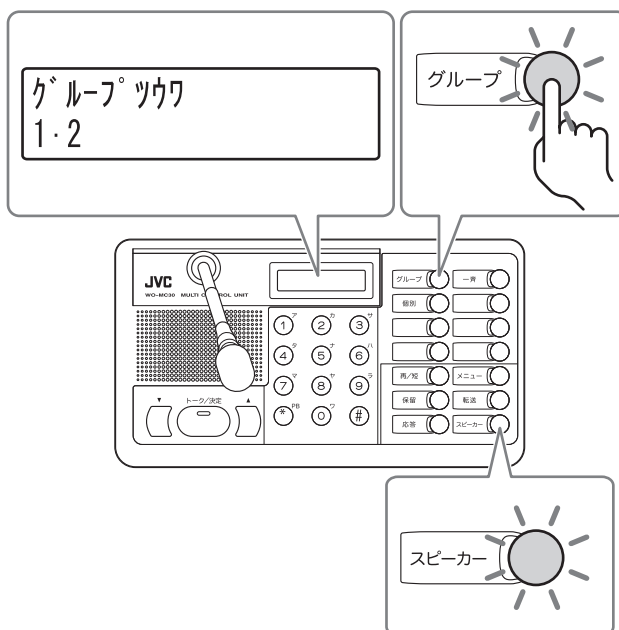


●多機能操作器WD-MC30で操作する場合

1 [グループ] ボタンを押す。

[グループ] ボタンと[スピーカー] ボタンのランプが点灯します。

- グループ通話中はこの操作は不要です。



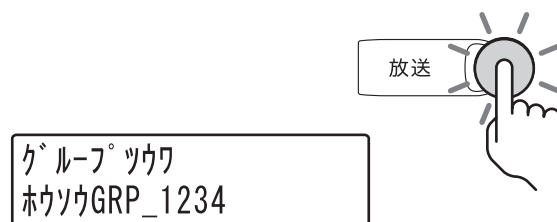
2 [放送] ボタンを押す。

※「放送」機能は工場出荷時には割り付けられていません。
任意のファンクションボタンに機能を割り付けてお使いください。

[放送] ボタンのランプが点灯します。

スピーカーから“ピッ”という音が聞こえます。

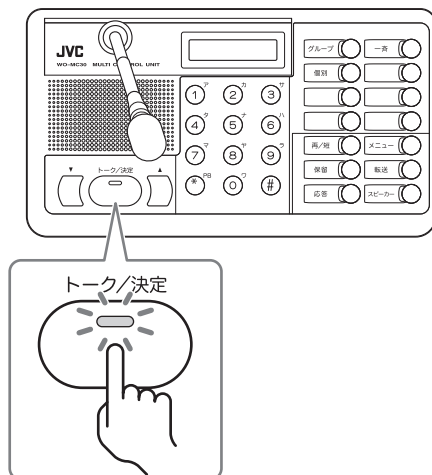
- “プップッ”という音（無効音）が聞こえたときは、しばらくしてからやり直してください。



通話をする

3 【トーク/決定】ボタンを押しながら、マイクに向かって話す。

【トーク/決定】ボタンのランプが点灯します。



【トーク/決定】ボタンは動作の設定を変更することができます。それにより、【トーク/決定】ボタンを押すたびにマイクのオン/オフが切り換わるようにもできます。

4 話し終わったら、【グループ】ボタンを押す。

「グループ通話モード」にもどります。

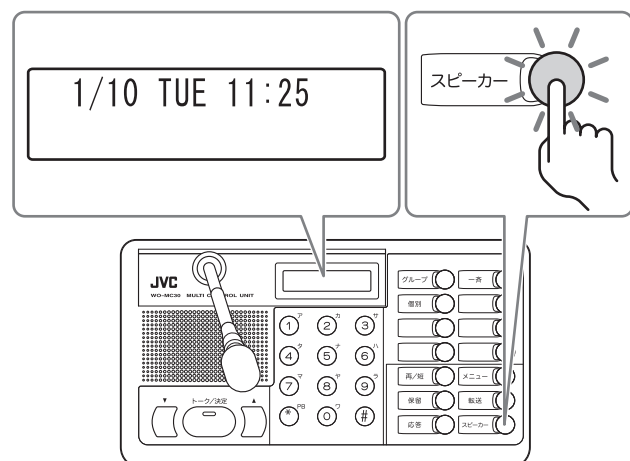
- 内線電話待機中にしたいときは、【スピーカー】ボタンを押します。

特番で放送する

多機能操作器WD-MC30では特番を利用して放送を行うことができます。

1 【スピーカー】ボタンを押す。

【スピーカー】ボタンのランプが点灯し、スピーカーから「ブーピー」音が聞こえます。



グループ通話中に特番で放送する場合は、【スピーカー】ボタンではなく、ダイヤルボタンの⑧を押してください。

2 ダイヤルボタンで“802”をダイヤルする。

1/10 TUE 11:25
ホウソウ グループ No?

3 ダイヤルボタンで放送したいグループをダイヤルする。

- “ブップッ”という音（無効音）が聞こえたときは、しばらくしてからやり直してください。

1/10 TUE 11:25
ホウソウ グループ 1



“0”をダイヤルすると一斉放送となります。

4 話し終わったら、【スピーカー】ボタンまたはダイヤルボタンを押す。

内線電話待機中にもどります。



グループ通話中に放送をはじめた場合は、【スピーカー】ボタンではなく、【グループ】ボタンを押してください。「グループ通話モード」にもどります。

外部機器を制御する

外部音源を起動するなどの外部機器制御をすることができます。

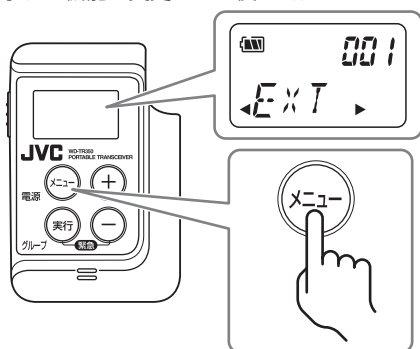
ご注意

あらかじめシステムデータにより設定された外部機器の制御を行います。機器の設定については、お買い上げ販売店または設置業者にお問い合わせください。

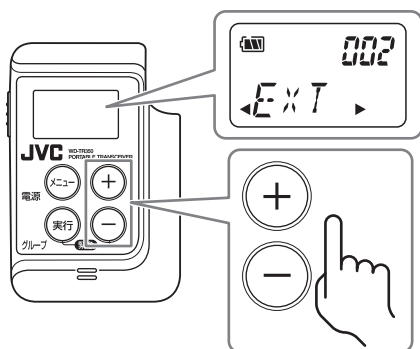
● 子機WD-TR350で操作する場合

1 「◀EXT▶」が表示されるまで[メニュー]ボタンを数回押す。

※「外部制御」機能は工場出荷時にはメニュー画面に表示されません。システムデータの設定によりメニュー画面に表示する機能を変更してお使いください。



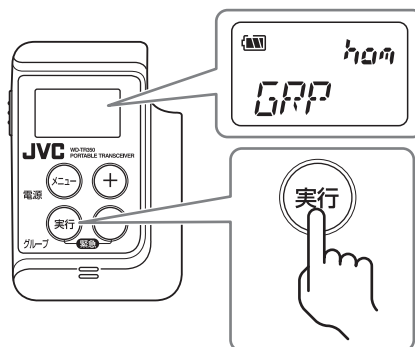
2 目的の機器番号が表示されるまで[+] [-]ボタンを数回押す。



3 [実行]ボタンを押す。

イヤホンから“ピポ”という音が聞こえます。

- “ブププ”という音（無効音）が聞こえたときは、しばらくしてからやり直してください。



このときもグループ通話はふつうにすることができます。

制御をもとにもどすときは、再度メニュー画面から「EXT」を選択し、実行します。

● 子機WD-TR300/ WD-WT20で操作する場合

1 [外部制御]ボタンを押す。

※「外部制御」機能は工場出荷時には割り付けられていません。任意の機能ボタンに機能を割り付けてお使いください。

イヤホンから“ピポ”という音が聞こえます。

- “ブププ”という音（無効音）が聞こえたときは、しばらくしてからやり直してください。



このときもグループ通話はふつうにすることができます。

制御をもとにもどすときは、[外部制御] ボタンを押します。

●多機能操作器WD-MC30で操作する場合

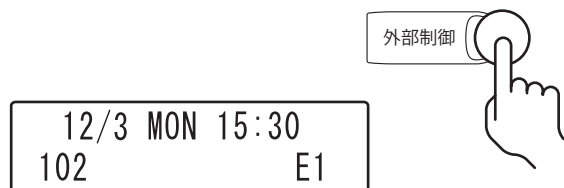
1 [外部制御] ボタンを押す。

※「外部制御」機能は工場出荷時には割り付けられていません。任意のファンクションボタンに機能を割り付けてお使いください。

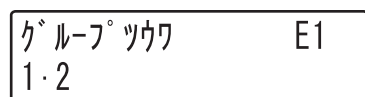
[外部制御] ボタンのランプが点灯します。

スピーカーから“ピポ”という音が聞こえます。

- “プップ”という音(無効音)が聞こえたときは、しばらくしてからやり直してください。



内線電話待機中に[外部制御] ボタンを押したとき



グループ通話中に押したとき

制御をもとにもどすときは、[外部制御] ボタンを押します。

[外部制御] ボタンのランプが消灯します。



「E1」は外部制御1に設定しているときの表示です。外部制御2は「E2」と表示されます。

外部音源を起動する

外部音源 (PA-DR600) に登録されている音声メッセージをグループ通話または外部に送出します。

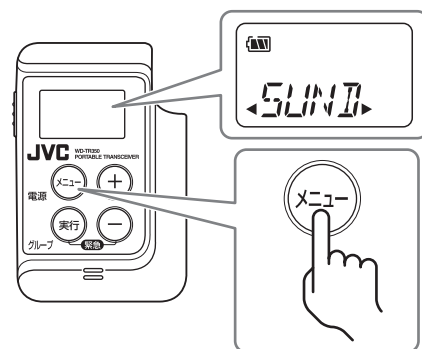
ご注意

あらかじめシステムデータにより設定された音源を起動します。外部音源の設定については、お買い上げ販売店または設置業者にお問い合わせください。

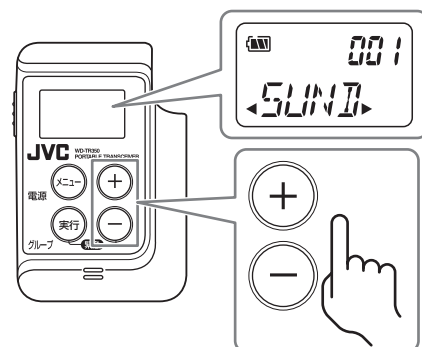
●子機WD-TR350で操作する場合

1 「◀SUND▶」が表示されるまで[メニュー] ボタンを数回押す。

※「外部音源」機能は工場出荷時にはメニュー画面に表示されません。システムデータの設定によりメニュー画面に表示する機能を変更してお使いください。

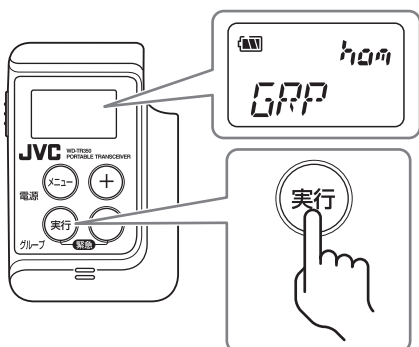


2 目的の番号が表示されるまで[+] [-] ボタンを数回押す。



3 [実行] ボタンを押す。

イヤホンから“ピポ”という音が聞こえます。
音声メッセージが送出されます。



このときもグループ通話はふつうにすることができます。

●子機WD-TR300/ WD-WT20で操作する場合

1 [外部音源] ボタンを押す。

※「外部音源」機能は工場出荷時には割り付けられていません。任意の機能ボタンに機能を割り付けてお使いください。

イヤホンから“ピポ”という音が聞こえます。
音声メッセージが送出されます。



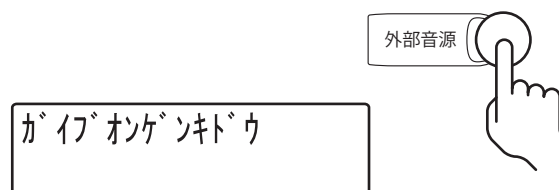
このときもグループ通話はふつうにすることができます。

●多機能操作器WD-MC30で操作する場合

1 [外部音源] ボタンを押す。

※「外部音源」機能は工場出荷時には割り付けられていません。任意のファンクションボタンに機能を割り付けてお使いください。

スピーカーから“ピポ”という音が聞こえます。
音声メッセージが送出されます。



数秒間表示されたあと、もとの表示にもどります。

接続するCSを切り換える

現在接続しているCSから別のCSへ手動で接続を切り換える「手動ハンドオーバー」を行います。
インカム通話中に音声の途切れが多くなったり、明瞭に聞こえない場合に、接続するCSを切り換えることで改善されることがあります。

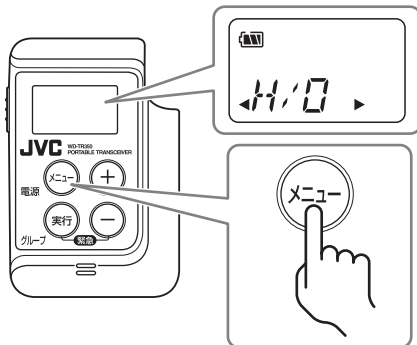


ワイヤレストランシーバーWD-WT20は手動ハンドオーバー機能に対応していません。

●子機WD-TR350で操作する場合

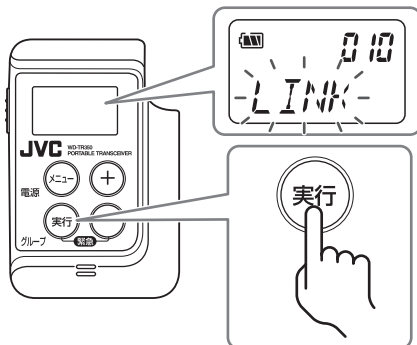
- 1 「◀H/O▶」が表示されるまで[メニュー] ボタンを数回押す。

※「手動ハンドオーバー」機能は工場出荷時にはメニュー画面に表示されません。システムデータの設定によりメニュー画面に表示する機能を変更してお使いください。



- 2 [実行] ボタンを押す。

「LINK」が点滅表示され、CSに再接続されます。



●子機WD-TR300で操作する場合

- 1 [手動ハンドオーバー] ボタンを押す。

※「手動ハンドオーバー」機能は工場出荷時には割り付けられていません。任意の機能ボタンに機能を割り付けてお使いください。



動作ランプが赤色に点灯し、CSに再接続します。

CSへの接続が完了すると、動作ランプが緑色に点灯します。

子機の使用中的お知らせ音について

子機は、使用しているモードや状況により、イヤホンからお知らせ音が聞こえます。
各お知らせ音の名前および内容は、下表をご覧ください。

お知らせ音	名前	状況
ピッ	モード切換音	グループ切換、構内放送等で通話モードが切り換わったとき。一斉、個別、招集状態からグループ通話にもどったとき。
プッブッ	無効音	ボタン操作が無効のとき。子機の動作モードが変わらなかったとき。すでにそのモードになっているとき。
トゥルルルル	個別呼出音*	個別呼出で相手を呼び出しているとき。
ピピピピ	個別着信音*	個別呼出を受けているとき。
プポピポ	外線電話着信音*	外線電話(公衆回線)がかかってきているとき。
ピポーピポー	一斉連絡音	一斉連絡(一斉呼出、一斉通話)を実行したとき。
ピポポ	招集通話音	招集通話を実行したとき。
パポ	取次完了音	他の端末への外線電話の取次が完了したとき。
プーッ、…	圏外音	電波の弱いところに移動したり、CSに空きチャンネルがないときに[トーク]ボタンを押したとき。 個別呼出で相手がでられない(相手が通話エリア外、電源が入っていない、個別通話をしている)とき。グループ通話にもどる操作をしてください。
ピッピッ、…(10秒間隔)	バッテリー残量低下(警告音)	充電式電池のバッテリー残量が少なくなってきたとき。速やかに充電するか充電済みのバッテリーと交換してください。
ピッピッピッ…	その他の警告音	バッテリー残量がほとんどなくなったとき。充電するか、充電済みのバッテリーと交換してください。

※ 工場出荷時の設定です。システムデータの設定変更により、お知らせ音を変更することができます。

ヒアリングモードを使う

ヒアリングモードについて

本システムには、複数の子機が通話の受信だけを行う「ヒアリングモード」があります。ヒアリングモードは使用できる環境や子機の動作に制限がありますが、少ないCSでより多くの子機を運用することができます。特定の人のみ指示や返事を行い、その内容を聞く人が多い場合などに有効です。



ヒアリングモードを使用するためには、システムデータの設定が必要です。設定変更はお買い上げ販売店または設置業者にお問い合わせください。

● ヒアリングモードの制限事項

対応機種：

- ヒアリングモードは、ポータブルトランシーバーWD-TR350/WD-TR300で使用できます。ワイヤレストランシーバーWD-WT20は対応していません。

使用環境：

- ヒアリングモードに設定された子機と通常モードの子機は同じシステム内で混在して使用できます。
- ヒアリングスレーブは20台まで使用できます。
- ヒアリングモードの通話可能エリアの目安は、接続しているCSから屋内で30 m～60 m、屋外で約100 m以内です。建物の構造や障害物の有無により通話可能エリアが狭くなることがあります。
なお、ヒアリングマスターは、常に電源を入れておく必要があります。ヒアリングマスターがCSに接続されていない場合、ヒアリングスレーブは運用できません。ヒアリングマスターのバッテリー残量にはご注意ください。
- 通話可能エリア内で頻繁に移動して通話する環境では、使用できません。
- 使用中は、ヒアリングマスターが圏外にならないようにご注意ください。

動作の制限：

- ヒアリングモードに設定された子機は[トーク]ボタンでの通話と音量変更以外の操作はできません。
- ヒアリングモードに設定された子機は同じグループで運用されます。別のグループに切り換えて通話することはできません。

● ヒアリングモードの概要

ヒアリングモードでは、子機をマスター子機（ヒアリングマスター）とスレーブ子機（ヒアリングスレーブ）に分けて運用します。

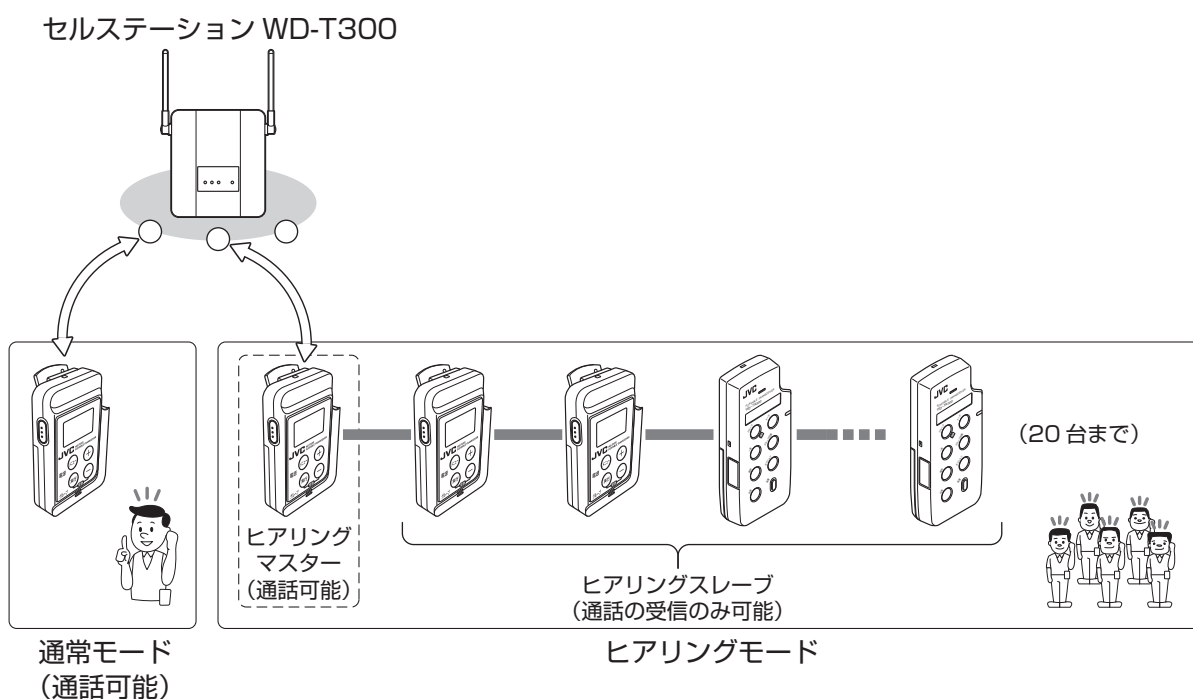
ヒアリングマスターは、セルステーション(CS)に常に接続した子機です。通話の送信と受信の両方ができます。

ヒアリングスレーブは、通話を受信して聞くことを中心とした子機です。

ヒアリングモードに設定された子機は、電源を入るとヒアリングモードで起動します。

ヒアリングマスターとヒアリングスレーブのどちらに設定されているかは、表示部または動作ランプの表示で確認できます。(☎ 58ページ)

ヒアリングマスターはCSに接続し、ヒアリングスレーブはヒアリングマスターの通話の内容を受信します。



CSに空きチャンネルがある場合、ヒアリングスレーブは通話を受信するだけでなく、送信もできます。

ヒアリングスレーブでの通話の送信方法については、「ヒアリングスレーブ子機から通話する」(☎ 59ページ)をご覧ください。

ヒアリングモードを使う

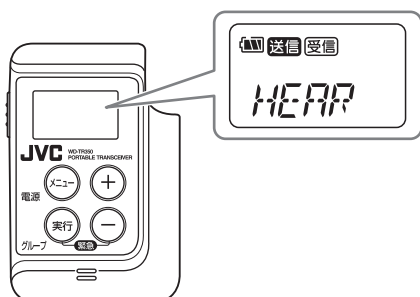
ヒアリングモードの表示

お使いの子機がヒアリングモードに設定されている場合、電源を入れるとヒアリングモードで起動します。子機がヒアリングマスターとヒアリングスレーブのどちらに設定されているかは、表示部または動作ランプの表示で確認することができます。

●子機WD-TR350

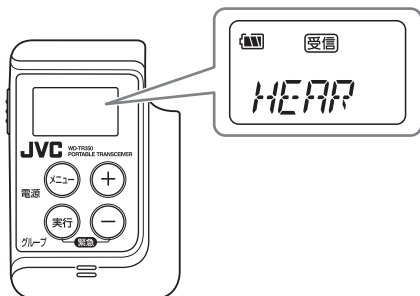
ヒアリングマスター

「HEAR」が表示され、「受信」と「送信」が点灯します。



ヒアリングスレーブ

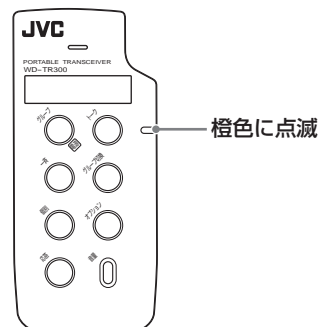
「HEAR」が表示され、「受信」が点灯します。



●子機WD-TR300

ヒアリングマスター

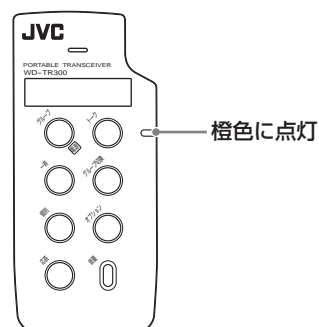
動作ランプが橙色に点滅します。



点滅の間隔は通常より長いため、10秒以上動作ランプの状態を確認してください。

ヒアリングスレーブ

動作ランプが橙色に点灯します。



ヒアリングスレーブ子機から通話する

ヒアリングスレーブ子機から通話するには、通話の受信のみを行うモードから一時的に通話の送信を行うモードに切り換えます。

ご注意

通話を送信するモードや受信のみを行うモードへの切り換えは、システムの設定や電波環境により時間が長くなることがあります。システム設定については、お買い上げ販売店または設置業者にお問い合わせください。



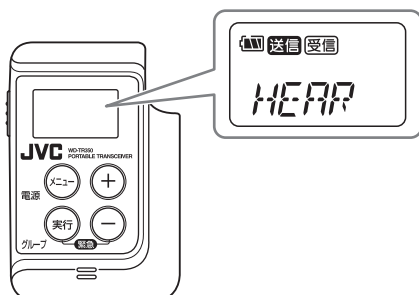
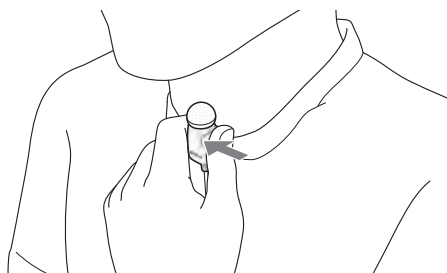
ヒアリングマスターでの通話の送信に特別な制限はありません。

●子機WD-TR350で操作する場合

1 コントロールマイクロホンの[トーク]ボタンを押し続ける。

「LINK」が表示され、イヤホンから“ブーッ、…”という音が聞こえます。通話の送信を行うモードに切り換わると「HEAR」、「受信」および「送信」が表示されます。

- 約5秒[トーク]ボタンを押し続けても「LINK」表示のままで、イヤホンから“ブーッ、…”という音が聞こえる状態が続くときは、しばらくしてからやり直してください。



2 コントロールマイクロホンの[トーク]ボタンを押したまま、マイクに向かって話す。

3 話し終わったら、[トーク]ボタンをはなす。

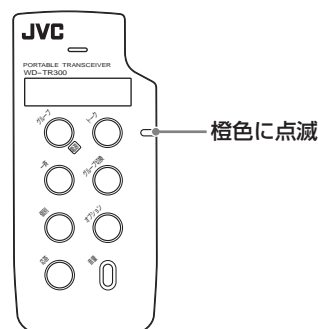
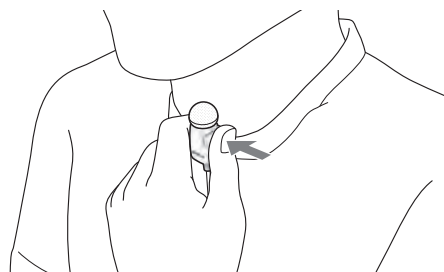
[トーク]ボタンをはなして一定時間(約5秒)経過すると、「LINK」が表示され、イヤホンから“ブーッ、…”という音が聞こえます。通話の受信のみを行うモードに切り換わり、「HEAR」と「受信」が表示されます。

●子機WD-TR300で操作する場合

1 コントロールマイクロホンの[トーク]ボタンを押し続ける。

動作ランプが赤色に点灯し、イヤホンから“ブーッ、…”という音が聞こえます。通話の送信を行うモードに切り換わると動作ランプが橙色に点滅します。

- 約5秒[トーク]ボタンを押し続けても動作ランプが赤色に点灯したままで、イヤホンから“ブーッ、…”という音が聞こえる状態が続くときは、しばらくしてからやり直してください。



2 コントロールマイクロホンの[トーク]ボタンを押したまま、マイクに向かって話す。

3 話し終わったら、[トーク]ボタンをはなす。

[トーク]ボタンをはなして一定時間(約5秒)経過すると、動作ランプが赤色に点灯し、イヤホンから“ブーッ、…”という音が聞こえます。通話の受信のみを行うモードに切り換わり、動作ランプが橙色に点灯します。

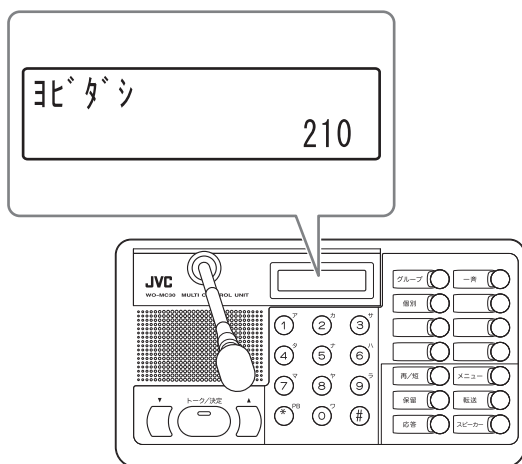
電話機能を使う

メインコントローラーWD-M300と接続したときに多機能操作器 WD-MC30を電話機として使うこともできます。外線電話の発着信と取次は、ポータブルトランシーバーWD-TR350でも行うことができます。

内線電話をかける

子機や他の多機能操作器WD-MC30を呼び出すことができます。

- 1 インカム通話中に、ダイヤルボタンで通話したい相手の内線電話番号をダイヤルする。



(例)内線電話番号が“210”のとき



内線電話待機中に内線電話をかける場合は、[スピーカー] ボタンを押してから内線電話番号をダイヤルします。

- 2 呼出音になり、相手が応答したら、[トーク/決定] ボタンを押しながらマイクに向かって話す。
- 3 通話が終了したら [スピーカー] ボタンを押す。

内線電話待機中にもどります。



- ・相手の内線電話番号をダイヤルしたあとに [スピーカー] ボタンを押しても、電話をかけることができます。
- ・内線電話番号を4けたで登録している場合は、番号は4けたで表示されます。

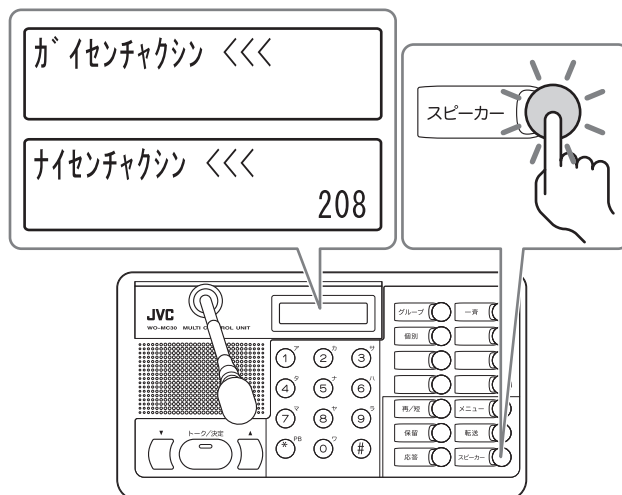
電話を受ける

外線電話や内線電話がかかってきたとき、応答することができます。

●多機能操作器WD-MC30で操作する場合

- 1 着信音になったら、[スピーカー] ボタンまたは [応答] ボタンを押す。

着信音がなると、[応答] ボタンのランプが点滅します。



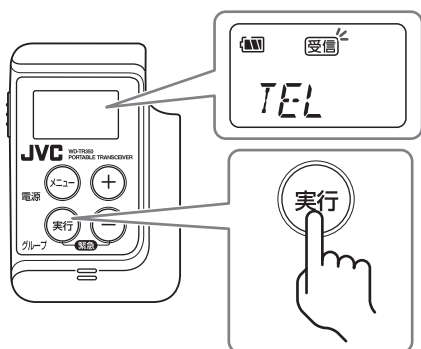
- 2 [トーク/決定] ボタンを押しながらマイクに向かって話す。
- 3 通話が終了したら [スピーカー] ボタンを押す。



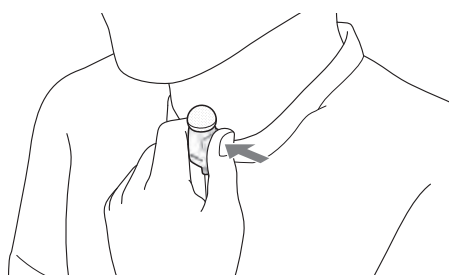
グループ通話中に電話を受けた場合は、[グループ] ボタンを押しても通話を終了できます。

● 子機WD-TR350で操作する場合

- 1 着信音になったら、[実行] ボタンを押す。
着信音になると、「受信」が点滅します。
 • 個別通話中に着信に应答した場合、相手は「グループ通話モード」にもどります。



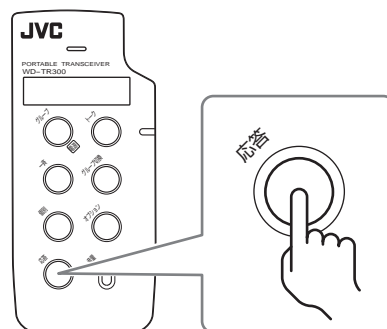
- 2 コントロールマイクロホンの[トーク] ボタンを押しながら、マイクに向かって話す。



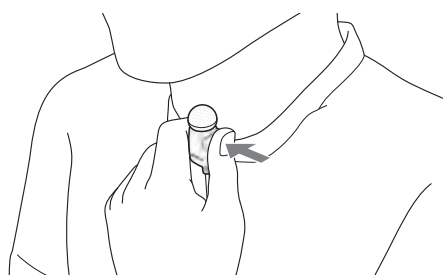
- 3 通話が終了したら、「GRP」が表示されるまで [実行] ボタンを押し続ける。
自分のグループでの「グループ通話モード」にもどります。

● 子機WD-TR300で操作する場合

- 1 着信音になったら、[应答] ボタンを押す。
 • 個別通話中に着信に应答した場合、相手は「グループ通話モード」にもどります。



- 2 コントロールマイクロホンの[トーク] ボタンを押しながら、マイクに向かって話す。



- 3 通話が終了したら、[グループ] ボタンを押す。
自分のグループでの「グループ通話モード」にもどります。

外線電話をかける

ご注意

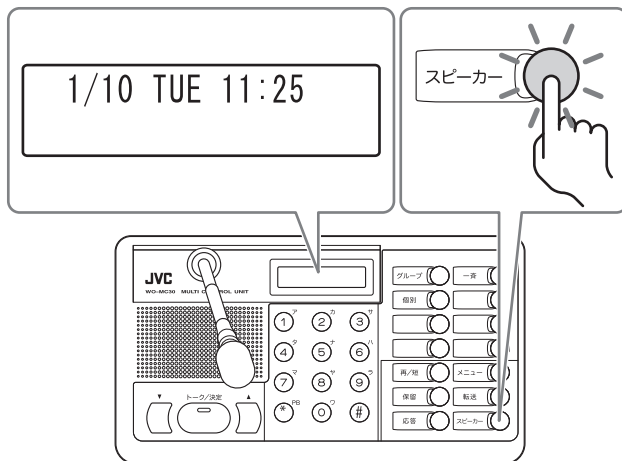
外線電話を使用する場合は、システムデータの設定で「外線発信許可」の設定が必要です。設定については、お買い上げ販売店または設置業者にお問い合わせください。

●多機能操作器WD-MC30で操作する場合

1 [スピーカー]ボタンを押す。

[スピーカー] ボタンのランプが点灯し、スピーカーから「ブーピー」音が聞こえます。

- グループ通話中は、この操作は不要です。



2 ダイヤルボタンの①をダイヤルし、スピーカーから「ツー」音が聞こえたら続けて相手先電話番号をダイヤルする。

北ダシ 0123456789

(例) 外線電話番号が“0123456789”のとき

3 呼出音になり、相手がでたら通話する。

4 通話が終了したら[スピーカー]ボタンを押す。

内線電話待機中にもどります。



相手先電話番号をダイヤルしたあとに[スピーカー]ボタンを押しても、電話をかけることができます。

●子機WD-TR350で操作する場合

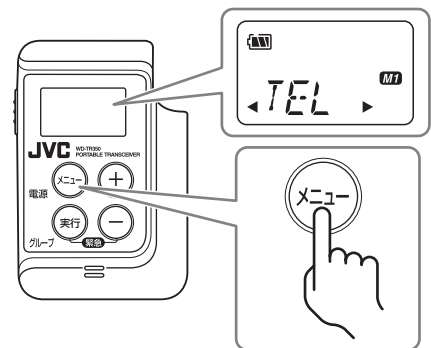
システムで短縮ダイヤルとして登録されている電話番号に外線電話発信することができます。

- 最大3件の電話番号(短縮ダイヤル)が登録できます。

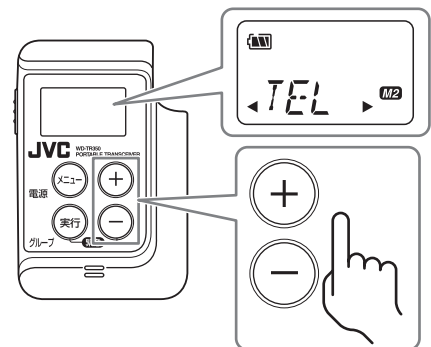
ご注意

子機WD-TR350への電話番号(短縮ダイヤル)の登録は、システムデータの設定変更が必要です。設定変更は、お買い上げ販売店または設置業者にお問い合わせください。

1 「◀TEL▶」が表示されるまで[メニュー]ボタンを数回押す。



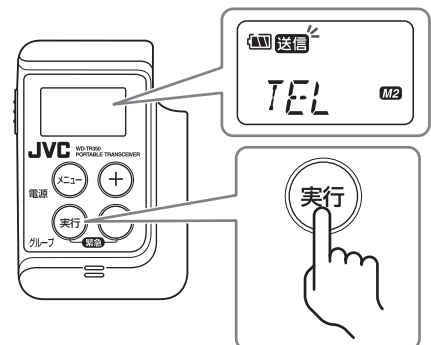
2 目的の短縮番号(M1~M3)が表示されるまで[+] [-]ボタンを数回押す。



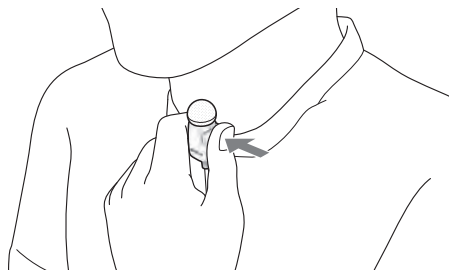
3 [実行]ボタンを押す。

「送信」が点滅し、相手呼び出します。

- “ブップッ”という音(無効音)が聞こえたときは、しばらくしてからやり直してください。



- 4 コントロールマイクロホンの[トーク] ボタンを押しながら、マイクに向かって話す。



- 5 通話が終了したら、「GRP」が表示されるまで[実行]ボタンを押し続ける。

自分のグループでの「グループ通話モード」にもどります。

● 子機WD-TR300で操作する場合

システムであらかじめ登録されている電話番号に外線電話発信することができます。

ご注意

子機WD-TR300への電話番号の登録は、システムデータの設定変更が必要です。設定変更は、お買い上げ販売店または設置業者にお問い合わせください。

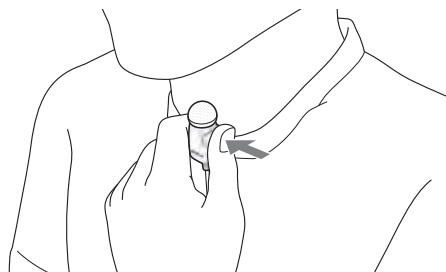
- 1 [外線発信] ボタンを押す。

相手呼び出します。

- “プップツ” という音（無効音）が聞こえたときは、しばらくしてからやり直してください。



- 2 コントロールマイクロホンの[トーク] ボタンを押しながら、マイクに向かって話す。



- 3 通話が終了したら、[グループ] ボタンを押す。

自分のグループでの「グループ通話モード」にもどります。

短縮番号を登録する

相手先の電話番号をあらかじめ登録しておくと、簡単な操作で外線電話発信することができます。

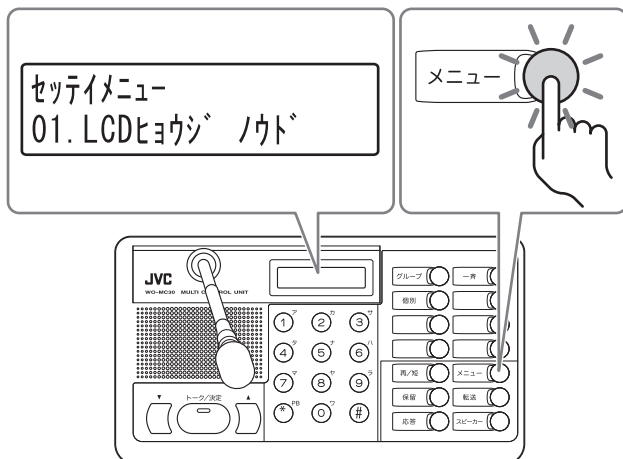
- システムで最大10件登録できます。
- 短縮ダイヤルはシステムで共通になります。多機能操作器WD-MC30で短縮ダイヤルを変更すると、子機WD-TR350/WD-TR300に登録している外線電話番号も変更されます。



内線電話ではご利用になれません。

● 短縮番号の登録のしかた

1 【メニュー】ボタンを押す。



2 ⑥ボタンまたは【▲】【▼】ボタンで「06. タンシク 外ワク」をえらぶ。

セッテイメニュー
06. タンシク トウロク

3 【トーク/決定】ボタンを押す。

06. タンシク トウロク

4 ダイヤルボタンを押して短縮番号を入力する。

- 短縮番号は0～9の10個です。

タンシク 7

(例) “7”とダイヤルしたとき



“0”とダイヤルしたときは、「タンシク 10」と表示されます。

5 ダイヤルボタンを押して登録したい相手先電話番号を入力する。

- 電話番号の先頭に、外線電話発信の“0”を入力してください。
- 1件の短縮ダイヤルの電話番号は最大24けたです。

タンシク 7
0123456

(例) “0123456”とダイヤルしたとき

6 【保留】ボタンを押す。

タンシク 7
カタカナ =

7 相手の名前を入力する。

名前の入力のしかたは「文字の入力のしかた」(P.65ページ)をご覧ください。

- 1件の短縮ダイヤルの名前は最大7文字まで登録できます。

タンシク 7
カタカナ = タンシク

8 [トーク/決定]ボタンを押す。

- ・[メニュー]ボタンを押すと短縮ダイヤルは登録されません。

06. タンシユク トウロク



- ・同じ短縮番号へ新しい相手先電話番号を登録することにより、以前に登録した相手先電話番号は新しい番号に置き換わります。
- ・登録できる番号は最大24けたまでで、0～9が登録できます。また、相手の名前は半角英数字またはカタカナで最大7文字まで登録できます。

●文字の入力のしかた

各ボタンを押したときに入力される文字は、「文字入力一覧表」(P.66ページ)をご覧ください。

(例) “スズキB”と入力する場合

1 ③を3回押す。

カタカナ = ス

2 ⑧を1回押す。

カタカナ = ス

3 ③を3回押す。

カタカナ = スス

4 *を1回押す。

カタカナ = スス*

5 ⑧を1回押す。

カタカナ = スス*

6 ②を2回押す。

カタカナ = スス*キ

7 [応答]ボタンを押す。

エイヌ = スス*キ

8 ②を2回押す。

カタカナ = スス*キB



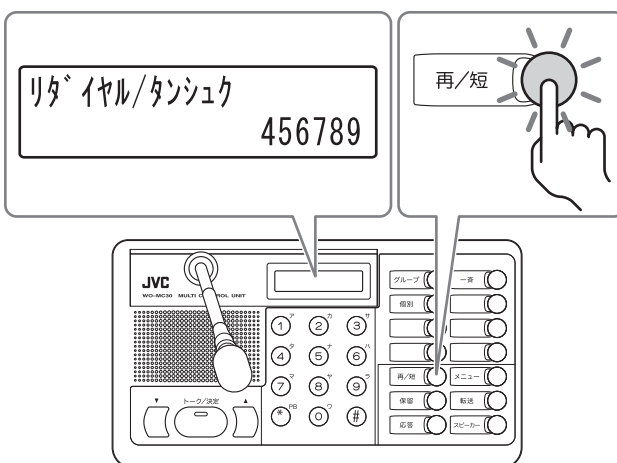
入力の間違ったときは

[転送]ボタンを押すと、一文字ずつ消去されます。修正したい文字までもどって、入力し直してください。

●登録内容の確認

1 [再/短]ボタンを押す。

[再/短]ボタンのランプが点灯します。



2 ダイヤルボタンまたは[▲] [▼]ボタンで短縮番号を入力する。

タンシユク9 ナカ
01234567

(例) “9”とダイヤルしたとき

3 [保留]ボタンを押す。

[再/短]ボタンのランプが消灯します。



続けて短縮番号を確かめるときは、2の操作後、[▲] [▼]ボタンで短縮番号をえらんでください。

●文字入力一覧表

カナ入力モードと英数字入力モードを切り換えるときは、[応答] ボタンを押します。

カナ入力モード時

ダイヤル ボタン	ダイヤルボタンを押す回数														
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11				
① ^ア	ア	イ	ウ	エ	オ	ア	イ	ウ	エ	オ	「ア」にもどる				
② ^カ	カ	キ	ク	ケ	コ	「カ」にもどる									
③ ^サ	サ	シ	ス	セ	ソ	「サ」にもどる									
④ ^タ	タ	チ	ツ	テ	ト	ッ	「タ」にもどる								
⑤ ^ナ	ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ	「ナ」にもどる									
⑥ ^ハ	ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ	「ハ」にもどる									
⑦ ^マ	マ	ミ	ム	メ	モ	「マ」にもどる									
⑧ ^ヤ	ヤ	ユ	ヨ	ャ	ュ	ョ	「ヤ」にもどる								
⑨ ^ラ	ラ	リ	ル	レ	ロ	「ラ」にもどる									
⑩ ^ワ	ワ	ヲ	ン	「ワ」にもどる											
＊	＊	＊	－	。	「	」	、	・	「＊」にもどる						
＃	確定	空白 (スペース)													

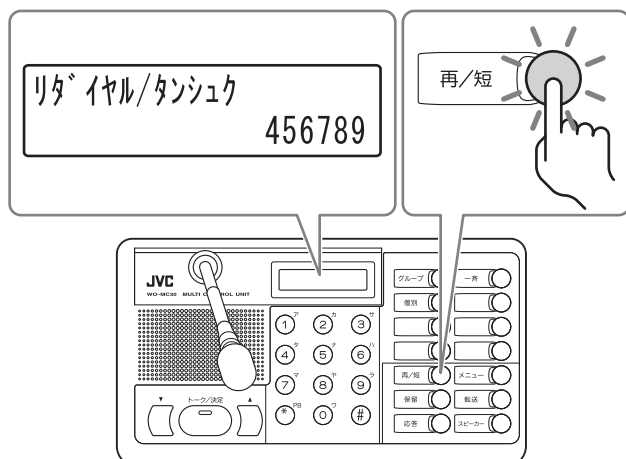
英数字入力モード時

ダイヤル ボタン	ダイヤルボタンを押す回数														
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	
① ア	1	@	[¥]	^	_	`	{	!	}	→	←	「1」にもどる	
② カ	A	B	C	a	b	c	2	「A」にもどる							
③ サ	D	E	F	d	e	f	3	「D」にもどる							
④ タ	G	H	I	g	h	i	4	「G」にもどる							
⑤ ナ	J	K	L	j	k	l	5	「J」にもどる							
⑥ ハ	M	N	O	m	n	o	6	「M」にもどる							
⑦ マ	P	Q	R	S	p	q	r	s	7	「P」にもどる					
⑧ ヤ	T	U	V	t	u	v	8	「T」にもどる							
⑨ ラ	W	X	Y	Z	w	x	y	z	9	「W」にもどる					
⑩ ワ	0	!	"	#	\$	%	&	'	()	「0」にもどる				
＊	*	+	,	-	.	/	:	;	<	=	>	?	「＊」にもどる		
＃	確定	空白 (スペース)													

短縮番号を使って外線電話をかける

1 [再/短] ボタンを押す。

[再/短] ボタンのランプが点灯します。



2 ダイヤルボタンまたは[▲] [▼] ボタンで短縮番号を入力する。

タンシユク9 タカ
01234567

(例) “9”とダイヤルしたとき

3 [スピーカー] ボタンを押す。

[再/短] ボタンのランプが消灯し、[スピーカー] ボタンのランプが点灯します。

ダイヤル
01234567

自動的にダイヤル発信します。呼出音がなり、相手がでたら通話できます。

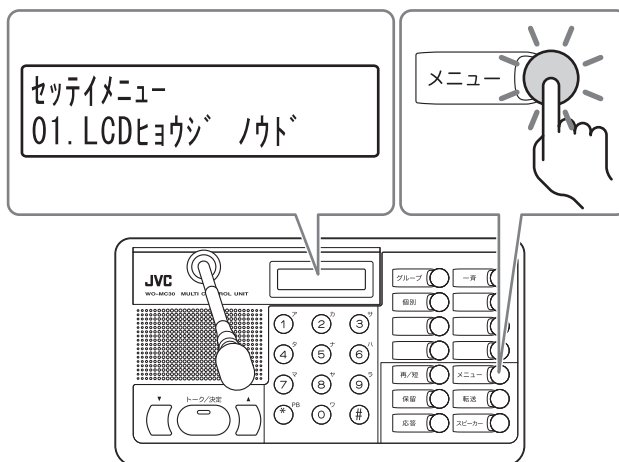
ファンクションボタンにワンタッチダイヤルを登録する

相手先の電話番号を各ファンクションボタンに登録しておくと、ワンタッチで発信することができます。

● 電話番号の登録のしかた

1 [メニュー] ボタンを押す。

[メニュー] ボタンのランプが点灯します。



2 ⑦ ボタンまたは[▲] [▼] ボタンで「07. ファンクションキー」をえらぶ。

セッテイメニュー
07. ファンクションキー

3 [トーク/決定] ボタンを押す。

キープログラム

4 登録したいファンクションボタンを押す。

キー-08 セッテイナシ

(例) ファンクションキー番号が8のとき

5 ① ボタンを押す。

キー-08 ワンタッチ

6 ダイアルボタンを押して登録したい相手先電話番号を入力する。

- 電話番号の先頭に“0”をつければ外線電話、つけなければ内線電話の登録になります。
- 1件の短縮ダイヤルの電話番号は最大24けたです。

キー08 ワンタッチ 208

(例) “208”とダイヤルしたとき

7 [トーク/決定]ボタンを押す。

- [メニュー] ボタンを押すとファンクションボタンは登録されません。

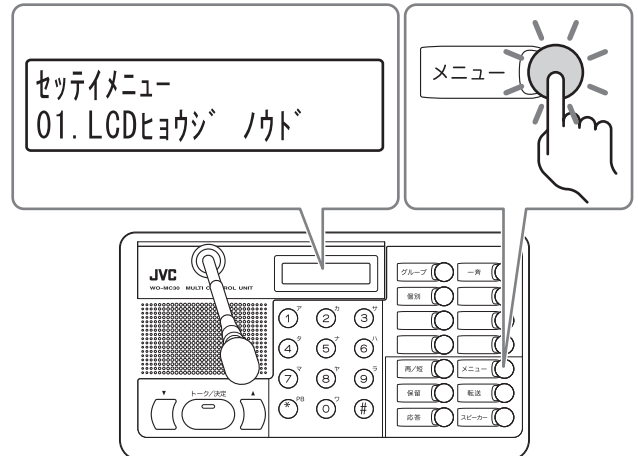


- 1台の多機能操作器には8個のファンクションボタンがあり、宛先を8件まで登録することができます。
- 同じファンクションボタンに新しい相手先電話番号を登録することにより、以前に登録した相手先電話番号は新しい番号に置き換わります。
- ワンタッチダイヤルには、0～9が登録できます。

●登録内容の確認

1 [メニュー]ボタンを押す。

[メニュー] ボタンのランプが点灯します。



2 ⑦ボタンまたは[▲] [▼]ボタンで「07. ファンクションキー」をえらぶ。

セッテイメニュー
07. ファンクションキー

3 [トーク/決定]ボタンを押す。

キー7 ログラム

4 確かめたいファンクションボタンを押す。

キー06 ワンタッチ
01212123

(例) ファンクションキー番号が6のとき

5 [メニュー]ボタンを押す。

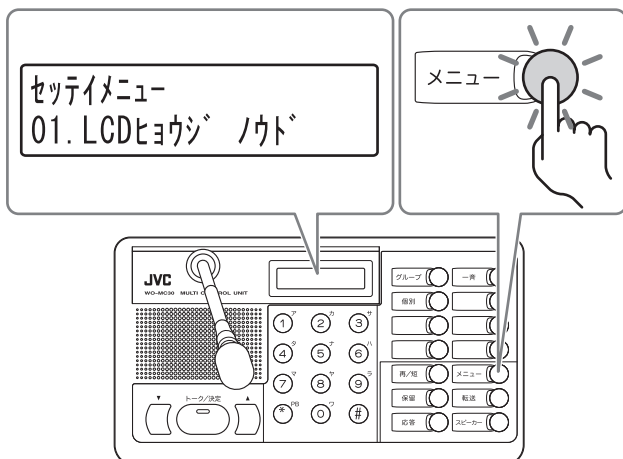
[メニュー] ボタンのランプが消灯します。



続けて他の登録内容を確認するときは、4の操作後、他のファンクションボタンを押してください。

●登録内容の消去

- 1 [メニュー]ボタンを押す。
[メニュー]ボタンのランプが点灯します。



- 2 ⑦ボタンまたは[▲] [▼]ボタンで「07. ファンクションキー」をえらぶ。

セッテイメニュー
07. ファンクションキー

- 3 [トーク/決定]ボタンを押す。

キープログラム

- 4 登録をもとにもどしたいファンクションボタンを押す。

キー06 ワンタッチ
01212123

(例) ファンクションキー番号が6のとき

- 5 ①①ボタンを押す。

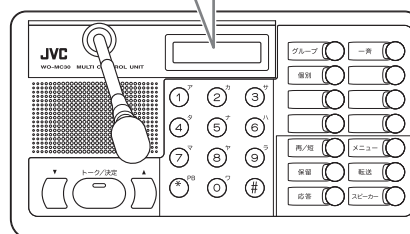
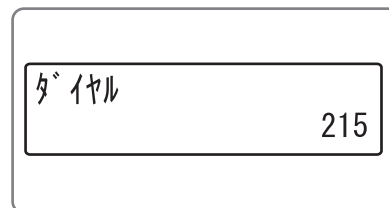
キー06 セッテイナシ

- 6 [トーク/決定]ボタンを押す。

- [メニュー]ボタンを押すとファンクションボタンはもとにはもどされません。

ワンタッチダイヤル機能を使って電話をかける

- 1 ワンタッチダイヤルが登録されているファンクションボタンを押す。
[スピーカー]ボタンのランプが点灯します。



自動的にダイヤル発信します。呼出音がなり、相手がでたら通話できます。

リダイヤル(再発信)で外線電話をかける

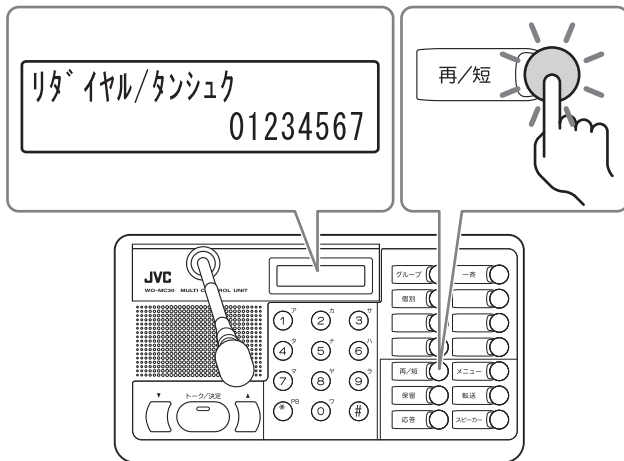


内線電話ではご利用になれません。

●直前にかけた相手にかけ直す

1 [再/短] ボタンを押す。

[再/短] ボタンのランプが点灯し、最後に発信した相手の電話番号が表示されます。



2 [スピーカ] ボタンを押す。

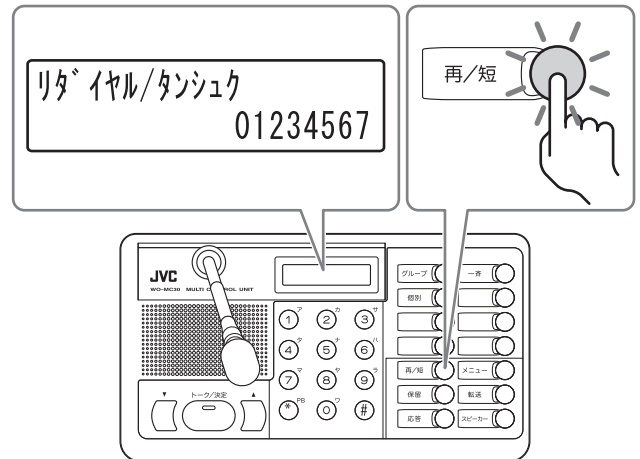
[再/短] ボタンのランプが消灯し、[スピーカ] ボタンが点灯します。

●発信履歴を消去する

記憶されている発信履歴の番号を消去します。

1 [再/短] ボタンを押す。

[再/短] ボタンのランプが点灯し、最後に発信した相手の電話番号が表示されます。



2 削除したい電話番号が表示されているときに [保留] ボタンを押す。

リダイヤル
1: トウロク 2: サクジヨ

3 ② ボタンを押す。

リダイヤル/タンシユク

4 [再/短] ボタンを押す。

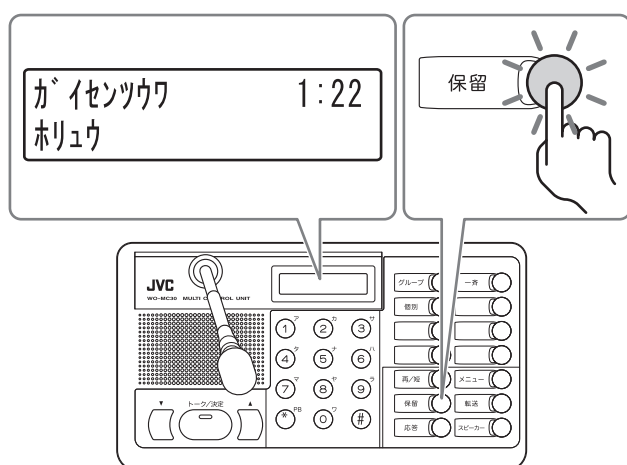
[再/短] ボタンのランプが消灯します。

通話中の電話を他の多機能操作器WD-MC30または子機に転送する

外線電話と通話中、その通話を一時保留にして他の多機能操作器WD-MC30または子機に転送することができます。

1 外線電話と通話中に[保留]ボタンを押す。

[保留] ボタンのランプが点滅になり、[トーク/決定] ボタンのランプが消灯します。



2 転送したい相手の内線電話番号をダイヤルする。

ヨビダシ 205

(例)内線電話番号が“205”のとき

3 相手がでたら、[転送]ボタンを押す。

ガイセンツウ 205



相手が話し中のときやでないときなどは、緑点滅している[保留]ボタンを押すと保留した相手との通話にもどります。

外線電話取次をする

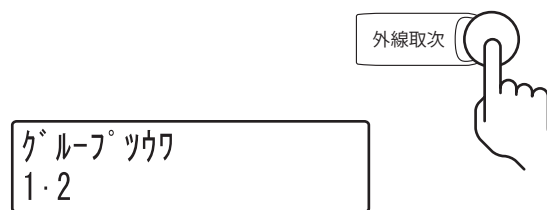
外線電話と通話中、その通話を一時保留状態にしてグループ通話、招集通話、個別通話、一斉通話を利用して他の多機能操作器WD-MC30または子機に外線電話を取り次ぐことができます。

●多機能操作器WD-MC30で操作する場合

1 外線電話と通話中に[外線取次]ボタンを押す。

※「外線取次」機能は工場出荷時には割り付けられていません。任意のファンクションボタンに機能を割り付けてお使いください。

- “ププツ”という音(無効音)が聞こえたときは、しばらくしてからやり直してください。



イラストは外線電話着信前の状態がグループ通話の場合をあらわしています。外線電話着信前の状態がグループ通話でない場合は、点灯するランプ、ディスプレイの表示が異なります。

2 グループ通話(☎ 34ページ、40ページ) / 一斉通話(☎ 38ページ) / 招集通話(☎ 42ページ) / 個別通話(☎ 46ページ)で他の端末に呼びかける。

相手が応答操作をすると、外線電話取次が完了し、スピーカから“パポ”という音が聞こえます。

- 一斉呼出は利用できません。

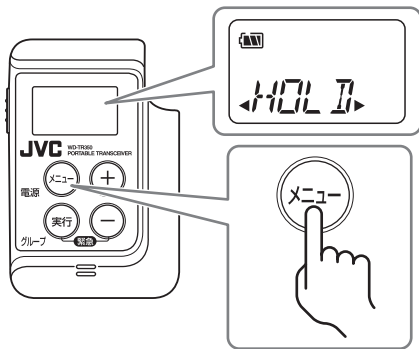


個別通話で呼びかけを行なった場合は、相手が応答操作をすると個別通話に移行します。相手がもう一度応答の操作を行うと外線電話取次が完了となります。

● 子機WD-TR350で操作する場合

- 1 外線電話と通話中に「◀HOLD▶」が表示されるまで[メニュー]ボタンを数回押す。

※「外線取次」機能は工場出荷時にはメニュー画面に表示されません。システムデータの設定によりメニュー画面に表示する機能を変更してお使いください。



- 2 [実行]ボタンを押す。
イヤホンから“ピッ”という音が聞こえます。外線電話との通話は保留になります。
- 3 グループ通話(☎ 34ページ、40ページ) / 一斉通話(☎ 38ページ) / 招集通話(☎ 42ページ) / 個別通話(☎ 46ページ)で他の端末に呼びかける。
相手が応答操作をすると、外線電話取次が完了し、イヤホンから“パポ”という音が聞こえます。自分のグループでの「グループ通話モード」にもどります。
 - 一斉呼出は利用できません。



個別通話で呼びかけを行なった場合は、相手が応答操作をすると個別通話に移行します。相手がもう一度応答の操作を行うと外線電話取次が完了となります。この場合、イヤホンから“パポ”という音は聞こえません。

● 子機WD-TR300で操作する場合

- 1 外線電話と通話中に[外線取次]ボタンを押す。

※「外線取次」機能は工場出荷時には割り付けられていません。任意の機能ボタンに機能を割り付けてお使いください。

イヤホンから“ピッ”という音が聞こえます。外線電話との通話は保留になります。



- 2 グループ通話(☎ 34ページ、40ページ) / 一斉通話(☎ 38ページ) / 招集通話(☎ 42ページ) / 個別通話(☎ 46ページ)で他の端末に呼びかける。
相手が応答操作をすると、外線電話取次が完了し、イヤホンから“パポ”という音が聞こえます。自分のグループでの「グループ通話モード」にもどります。
 - 一斉呼出は利用できません。



個別通話で呼びかけを行なった場合は、相手が応答操作をすると個別通話に移行します。相手がもう一度応答の操作を行うと外線電話取次が完了となります。この場合、イヤホンから“パポ”という音は聞こえません。

外線電話モードの切り換えをする

多機能操作器WD-MC30で外線電話モードを切り換えます。

ご注意

- ・ 外線電話モードはシステムデータの設定により決まります。システムデータの設定については、お買い上げ販売店または設置業者にお問い合わせください。
- ・ 子機WD-TR350/WD-TR300/WD-WT20では、外線電話モードの切り換えはできません。

- 1 外線電話モード切り換え特番(初期値：803)をダイヤルする。

ガイセンモード キリカエNo?

- 2 ダイヤルボタンで外線電話モード(“1”～“4”)をダイヤルする。

ガイセンモード No 1

外線電話(公衆回線)からグループ通話をする

外線電話からインカムのグループ通話に入るには、DIDとDISAの2つの方法があります。また、それぞれ自動接続モードと特番入力モードの2つのモードがあります。



- ・ 外線電話からDID、DISAでグループ通話に参加した場合、多機能操作器WD-MC30や子機WD-TR350などの端末の通常の操作(「スピーカー」ボタンを押す、「実行」ボタンを押し続ける)では外線電話を切ることはできません。
- ・ DID、DISAでグループ通話に参加するときは、あらかじめ端末に「外線強制切断」機能を割り付けることをおすすめします。くわしくは、お買い上げ販売店または設置業者へお問い合わせください。

●DID(ダイレクト イン ダイヤリング)通話モード

【自動接続モード】

- 1 外部の電話機からインカムのグループ通話に参加する。

自動的にインカムに参加します。

システムデータの設定により次のようになります。

- ① グループ番号1～8のいずれかに接続されるように設定されている場合
 - ・ 設定されたインカムグループ全員とグループ通話をします。
- ② 一斉連絡するように設定されている場合
 - ・ 内容は全員に聞こえています。
 - ・ 個別通話や放送をしている人には聞こえません。

【特番入力モード】

- 1 外部の電話機からインカムの外線電話をかける。
- 2 「ピー」という音が聞こえたら、グループ通話アクセス特番(初期値:801)+グループ番号(1~8、0で一斉連絡)をダイヤルする。
グループ番号1~8をダイヤルした場合
 - 指定したインカムグループ全員とグループ通話をします。グループ番号0をダイヤルした場合
 - 内容は全員に聞こえています。
 - 個別通話や放送をしている人には聞こえません。

ご注意

- 自動接続モードか特番モードかは、システムデータの設定により決まります。お買い上げ販売店または設置業者にお問い合わせください。
- 通話終了時、外部の電話機の受話器をもどすと、受話器と電話機が当たる音の子機のイヤホンから発生し、耳を傷める場合があります。通話を終了するときは、必ず次の方法で行ってください。
 - ① 外部の電話機のフックスイッチを指で押してから、受話器をもどす。
 - ② 外部の電話機の受話器を静かにもどす。
- 電話回線や交換機の状態によっては、外部の電話機の受話器をもどしてもグループ通話が終了しない場合があります。そのときに交換機から警告音の子機のイヤホンから発生して耳を傷める場合があります。お買い上げ販売店または設置業者にご相談ください。

●DISA(ダイレクトインサービスアクセス)通話モード

パスワードが必要なので、関係者以外はインカムグループと通話や一斉連絡ができません。

【自動接続モード】

- 1 外部の電話機からインカムのグループ通話に参加する。
- 2 「ピー」という音が聞こえたら、パスワード(6けた)をダイヤルする。
システムデータの設定により次のようになります。
 - ① グループ番号1~8のいずれかに接続されるように設定されている場合
 - 設定されたインカムグループ全員とグループ通話をします。
 - ② 一斉連絡するように設定されている場合
 - 内容は全員に聞こえています。
 - 個別通話や放送をしている人には聞こえません。

【特番入力モード】

- 1 外部の電話機からインカムの外線電話をかける。
- 2 「ピー」という音が聞こえたら、パスワード(6けた)をダイヤルする。
- 3 再度、「ピー」という音が聞こえたら、グループ通話アクセス特番(初期値:801)+グループ番号(1~8、0で一斉連絡)をダイヤルする。
グループ番号1~8をダイヤルした場合
 - ・ 指定したインカムグループ全員とグループ通話します。
 グループ番号0をダイヤルした場合
 - ・ 内容は全員に聞こえています。
 - ・ 個別通話や放送をしている人には聞こえません。

ご注意

- ・ パスワードや自動接続モードのときの接続先は、システムデータの設定により決まります。お買い上げ販売店または設置業者にお問い合わせください。
- ・ 通話終了時、外部の電話機の受話器をもどすと、受話器と電話機が当たる音の子機のイヤホンから発生し、耳を傷める場合があります。通話を終了するときは、必ず次の方法で行ってください。
 - ① 外部の電話機のフックスイッチを指で押してから、受話器をもどす。
 - ② 外部の電話機の受話器を静かにもどす。
- ・ 電話回線や交換機の状態によっては、外部の電話機の受話器をもどしてもグループ通話が終了しない場合があります。そのときに交換機から警告音の子機のイヤホンから発生して耳を傷める場合があります。お買い上げ販売店または設置業者にご相談ください。

外線電話を強制的に切断する

DID、DISAでグループ通話に参加した外線電話を、多機能操作器WD-MC30や子機WD-TR350で、強制的に切断します。

●多機能操作器WD-MC30で操作する場合

【自動接続モード】

- 1 【外線切断】ボタンを押す。
※【外線切断】機能は工場出荷時には割り付けられていません。任意のファンクションボタンに機能を割り付けてお使いください。
スピーカーから“ブツ”という音が聞こえます。

外線切断

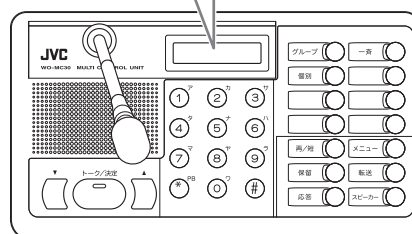


インカム が イセン セツダン
グループ 1 セツダン

【特番入力モード】

- 1 グループ通話外線電話の強制切断特番(初期値:804)+グループ番号(1~8、0で全グループ)をダイヤルする。
スピーカーから“ブツ”という音が聞こえます。

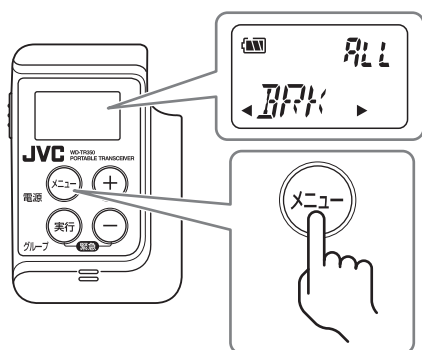
インカム が イセン セツダン
グループ No?



● 子機WD-TR350で操作する場合

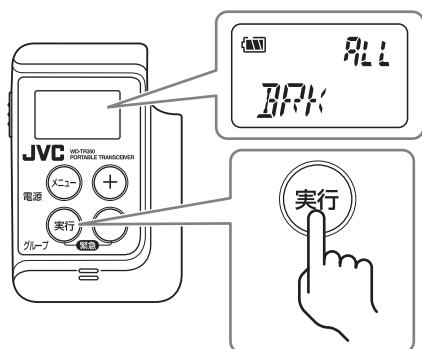
- 1 「◀BRK▶」が表示されるまで[メニュー] ボタンを数回押す。

※「外線切断」機能は工場出荷時にはメニュー画面に表示されません。システムデータの設定によりメニュー画面に表示する機能を変更してお使いください。



- 2 [実行] ボタンを押す

イヤホンから“ブツ”という音が聞こえます。



● 子機WD-TR300で操作する場合

- 1 [外線切断] ボタンを押す。

※「外線切断」機能は工場出荷時には割り付けられていません。任意の機能ボタンに機能を割り付けてお使いください。

イヤホンから“ブツ”という音が聞こえます。



こんなときは

「故障かな?」と思ったら、修理を依頼する前にお確かめください。

症 状	原 因	処 置
一斉連絡や[放送] ボタンを押しても「ブップ」という音がして一斉連絡や放送ができない。	一斉連絡や同じ出力先への放送は同時に1人しか使用できません。	一斉連絡や放送を行なっている人が終了するまで待ってからやり直してください。
	音声入出力ユニットWD-AF30が未接続、または「放送出力」が設定されていません。	お買い上げ販売店またはお近くのサービス窓口にご相談ください。
使用中に通話が途切れたりノイズが聞こえたりする。	電波の状態によってCSからの電波が届かなくなり、別のCSを探しています。 また、CSが見つからなかった場合や、CSにすでに3台の子機が接続されている場合、いつまでも接続できるCSを探し続け、その間は通信ができなくなります(動作ランプが赤く点灯します)。	CSの近くでありながら通信できなくなることが多い場合にはサービス窓口にご相談ください。また、初期設定でビジー音を小さくすることもできます。くわしくは、お買い上げ販売店またはお近くのサービス窓口にご相談ください。
子機のイヤホンから「ブツ」というノイズが発生することがある。	本システムは1.9 GHz帯のデジタル無線通信を使用しています。近くにノイズを発生する機器がある場合、デジタル信号を音声信号に変換するとき、ノイズに変換される場合があります。	ノイズ源となるコンピューターやモーター、放電式空気清浄機などから離れて使用するか、CSの設置位置をこれらの機器から離れた場所に移動させてください。 CSに近づきすぎると(2 m以内)、ノイズがでる場合があります。CSの設置位置を移動させるか離れて使用してください。
子機を接続エリアから圏外(電波の届かない場所)に移動した場合、接続エリアにもどってもCSにかなり近づかなければ再接続しない。	頻繁にCSとの接続を変更(ハンドオーバー)しないよう、また電波の弱い遠くのCSとの接続が起こらないように、電波が強くなければ接続しないようにしています。	圏外になるときに接続するときの電波の強さを設定することができます。あまりにも気になるようでしたら、お買い上げ販売店またはお近くのサービス窓口にご相談ください。
メインコントローラーWD-M300、サブコントローラーWD-M310のユニット状態ランプが速く点滅(1秒間に2回点滅する)	点滅している場所に設置されているユニットの異常または接続の異常です。	お買い上げ販売店またはお近くのサービス窓口にご相談ください。
メインコントローラーWD-M300のシステム状態ランプが点滅する。	システムが正常に動作していない状態です。	お買い上げ販売店またはお近くのサービス窓口にご相談ください。
すべてのグループの通話が聞こえる。	一斉連絡モードになっています。(ポータブルトランシーバーWD-TR350の場合は、「ALL」が表示されています。)	一斉連絡モードを終了し、グループ通話モードへ変更してください。一斉連絡モードの終了は、一斉連絡モードを開始した人のみができます。
ポータブルトランシーバーWD-TR350表示部に「999」と表示される。	システムに子機が登録されていません。(工場出荷状態)	システムの登録が必要です。お買い上げ販売店またはお近くのサービス窓口にご相談ください。
ポータブルトランシーバーWD-TR300/ワイヤレストランシーバーWD-WT20動作ランプが緑点滅する。 音量表示ランプ2が赤色で点灯する。 イヤホンからエラー音が聞こえる。	システムに子機が登録されていません。(工場出荷状態)	システムの登録が必要です。お買い上げ販売店またはお近くのサービス窓口にご相談ください。
ポータブルトランシーバーWD-TR350「LINK」(右上に「902」)と点滅表示される。	同一場所に設置されたCS1台につき3台の子機しか通話できません。それを超えた子機は、症状のような表示になります。	CSを増設するか、他のCSの近くに移動してください。
ポータブルトランシーバーWD-TR300/ワイヤレストランシーバーWD-WT20[音量] ボタンを押していないのに、動作ランプが赤点灯(バッテリー残量低下の場合は赤点滅)、音量表示ランプ1が赤点灯になる。		

症 状	原 因	処 置
ポータブルトランシーバーWD-TR350 表示部に「901」と表示される。	通信エラーが発生しています。	お買い上げ販売店またはお近くのサービス窓口にご相談ください。
ポータブルトランシーバーWD-TR350 子機の電源を入れたときに、「LINK」（右上に「900」）と点滅表示される。	CSが見つかりません。	システムの電源が入っているか、またCSの状態ランプが点灯しているかを確認してください。

保証とアフターサービス

保証書の記載内容ご確認と保存について

この商品には保証書が別途添付されています。保証書は、お買い上げ販売店でお渡しいたしますので、所定事項をご記入し、記載内容をお確かめいただいたうえで大切に保存してください。

保証期間について

保証期間は、お買い上げ日より1年間です。保証書の記載内容により、お買い上げ販売店が修理いたします。なお、修理保証以外の補償はいたしかねます。故障その他による営業上の機会損失は補償いたしません。その他詳細は保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理について

保証期間経過後の修理については、お買い上げ販売店にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料にて修理いたします。

アフターサービスについてのお問い合わせ先

アフターサービスについてのご不明な点はお買い上げ販売店、または別紙サービス窓口案内をご覧ください。最寄りのサービス窓口にご相談ください。

修理を依頼されるときは

お買い上げ販売店または設置業者に次のことをお知らせください。

メインコントローラーWD-M300の例

品名	: メインコントローラー
型名	: WD-M300
お買い上げ日	:
故障の状況	: 故障の状態をできるだけ具体的に
ご住所	:
お名前	:
電話番号	:

消耗部品について

各機器の取扱説明書の中で消耗部品と記載されているものは、保証期間内でも有償とさせていただきます。お買い求めの際は、お買い上げ販売店またはお近くのサービス窓口にお問い合わせください。

商品廃棄について

この商品を廃棄する場合は、法令や地域の条例にしたがって適正に処理してください。

仕様

(製品の仕様および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。)

●WD-M300 メインコントローラー

音声制御方式	PCMデジタルミキシング
電源	AC 100 V、50 Hz/60 Hz
消費電力	使用中(電源入) 65 W 待機中(電源切) 3 W
動作温度範囲	0℃～+40℃
外形寸法	420 mm × 44 mm × 280 mm (幅×高さ×奥行き、突起物含まず)
仕上げ	黒色半艶焼付け塗装
質量	3.6 kg
接続端子	ユニット：2極端子台×8 サブコントローラー： ロック付10ピンコネクター×7
付属品、添付物	保証書 ×1 安全上のご注意 ×1 サービス窓口案内 ×1 取扱説明書(本書) ×1 シート「充電端子のお手入れについて」 ×1 ケーブルタイ ×1

●WD-M310 サブコントローラー

電源	AC 100 V、50 Hz/60 Hz
消費電力	使用中(電源入) 55 W 待機中(電源切) 3 W
動作温度範囲	0℃～+40℃
外形寸法	420 mm × 44 mm × 280 mm (幅×高さ×奥行き、突起物含まず)
仕上げ	黒色半艶焼付け塗装
質量	3.4 kg
接続端子	ユニット：2極端子台×8 メインコントローラー： ロック付10ピンコネクター×1
付属品、添付物	保証書 ×1 フラットケーブル(80cm) ×1 ケーブルタイ ×1

●WD-MC30 多機能操作器

ディスプレイ	16文字 × 2行(LCD)
ボタン・キー	ファンクションボタン×8 機能ボタン×6 テンキー×12 トーク、音量ボタン×3
フレキシブルマイク	単一指向性エレクトレットコンデンサー型(着信ランプ付き)
内蔵スピーカー	60 Φ 8 Ω
音量切換	8段階
着信音量切換	8段階
電源	DC 48 V(WD-M300/WD-M310より供給)
消費電力	4.8 W
動作温度範囲	0℃～+40℃
外形寸法	270 mm × 59 mm × 150 mm (幅×高さ×奥行き、突起物含まず)
仕上げ	ABS樹脂 ペールグレー
質量	1.1 kg
接続端子	LINE：2極端子台×1 電話機：RJ11モジュージャック×1
付属品、添付物	保証書 ×1 ケーブルタイ ×1

●WD-AF30 音声入出力ユニット

音声入出力	2系統
入力：	-16 dBs (平衡)、 -10 dBs (不平衡) Φ6.3フォンジャック
出力：	-4 dBs (平衡)、 -10 dBs (不平衡) Φ6.3フォンジャック
電源	DC48 V (WD-M300/WD-M310より供給)
消費電力	1.9 W
動作温度範囲	0℃～+40℃
外形寸法	185 mm × 44 mm × 189 mm (幅×高さ×奥行き、突起物含まず)
接続端子	LINE：2極端子台×1 外部機器制御：2極端子台×2
仕上げ	黒色半艶焼付け塗装
質量	1.1 kg
付属品、添付物	保証書×1

●WD-T300 セルステーション

送受信周波数	1.9 GHz帯
送信出力	10 mW (平均)
変調精度	12.5 %以下
受信感度	16 dBμVEMF以下
電源	DC 48 V (WD-M300/WD-M310より供給)
消費電力	3 W
動作温度範囲	-10℃～+50℃
外形寸法	122 mm × 141 mm × 41 mm (幅×高さ×奥行き、突起物含まず)
接続端子	LINE：2極端子台
仕上げ	AES樹脂パールグレー
質量	255 g
付属品、添付物	保証書×1

●WD-TR350 ポータブルトランシーバー

送受信周波数	1.9 GHz帯
送信出力	10 mW
変調精度	12.5 %以下
受信感度	16 dBμV以下
電源	DC3.7V (充電式リチウムイオン電池使用)
使用時間	約10時間 (フル充電時、送信：受信： 待ち受け = 1：1：8の使用比率)
動作温度範囲	0℃～+40℃
防水レベル	IPX4準拠 (JIS C0920)
外形寸法	54 mm × 85 mm × 18 mm (幅×高さ×厚み、クリップ含まず)
質量	55 g (クリップ、バッテリー含まず)
仕上げ	ABS+PC樹脂、ブラック
付属品、添付物	保証書×1 取扱説明書×1 電池の取扱いについてのご注意×1 クリップ×1 ねじ(クリップ用)×1 バッテリー×1

●WD-TR300 ポータブルトランシーバー

送受信周波数	1.9 GHz帯
送信出力	10 mW (平均)
変調精度	12.5 %以下
受信感度	16 dBμV以下
電源	DC 3.7V (充電式リチウムイオン電池使用)
使用時間	約15時間 (フル充電時、送信：受信： 待ち受け = 1：1：8の使用比率)
動作温度範囲	0℃～+40℃
外形寸法	53 mm × 122 mm × 21.5 mm (幅×高さ×厚み)
質量	58 g (ベルトクリップセット、バッテリー含まず)
仕上げ	ABS+PC樹脂
付属品、添付物	保証書×1 取扱説明書×1 電池の取扱いについてのご注意×1 バッテリー×1 ラベル×1 ベルトクリップセット ホルダー×1 ベルトクリップ×1 ねじ×2

●WD-WT20 ワイヤレストランシーバー

送受信周波数	ワイヤレスマイク：800 MHz帯 インカム：1.9 GHz帯
送信出力	ワイヤレスマイク：5 mW インカム：10 mW (平均)
変調精度	12.5 %以下
受信感度	16 dB μ V以下
電源	DC 3.7 V (充電式リチウムイオン電池使用)
使用時間	約8時間 (フル充電時、送信：受信：待ち受け = 1：1：8の使用比率)
動作温度範囲	0℃～+40℃
外形寸法	53 mm × 142 mm × 21.5 mm (幅×高さ×厚み)
質量	140 g
仕上げ	ABS樹脂、ダークブルー
付属品、添付物	保証書×1 サービス窓口案内×1 電池の取扱いについてのご注意×1 取扱説明書×1 バッテリー×1 ラベル×1

●WT-UM8 コントロールマイクロホン

形式	エレクトレットコンデンサー型
指向性	単一指向性
感度	-56 dB (0 dB = 1 V/Pa、1 kHz)
外形寸法	25 mm × 52.5 mm × 16 mm (幅×高さ×厚み、突起部、風防含まず)
質量	43 g (ケーブル含む)
仕上げ	ABS樹脂、ダークブルー
ケーブル	0.85 m
付属品、添付物	イヤホンセット×1
適合機種	WD-TR350、WD-TR300

●WT-UM50 コントロールマイクロホン

形式	エレクトレットコンデンサー型
指向性	無指向性
感度	-45 dB (0 dB = 1 V/Pa、1 kHz)
外形寸法	23 mm × 43 mm × 15 mm (幅×高さ×厚み、突起部、クリップ含まず)
質量	35 g (ケーブル含む)
仕上げ	ABS樹脂、ダークブルー
コントロールマイクケーブル	0.80 m
イヤホンケーブル	0.70 m
付属品、添付物	イヤホン×1 ケーブルクランプ×1 取扱説明書×1
適合機種	WD-TR350、WD-TR300

●WT-UM52 コントロールマイクロホン

マイクユニット

形式 エレクトレットコンデンサー型
感度 -50 dB (0 dB = 1 V/Pa、1 kHz)

イヤホン

形式 ダイナミック型
インピーダンス

16 Ω

質量 35 g

仕上げ

イヤホンマイク部：
ABS樹脂、シルバー

トークスイッチ部：
ABS樹脂、シルバー

イヤーフック：
エラストマー樹脂、ブラック

外形寸法

トークスイッチ部：
16 mm × 56 mm × 14 mm
(幅×高さ×厚み、突起物、クリップ
含まず)

イヤホン部：φ 15 mm (イヤークリップ含まず)

マイクアーム長：
110 mm

ケーブル長(イヤホンマイク部)：
650 mm

ケーブル長(トークスイッチ部)：
500 mm

付属品、添付物

イヤーフック×4
【左用×2 (大小)、右用×2 (大小)】
イヤークリップ×2
取扱説明書×1

適合機種 WD-TR350、WD-TR300

●WT-UM33 コントロールマイクロホン

形式 エレクトレットコンデンサー型
指向性 単一指向性
感度 -43 dB (0 dB = 1 V/Pa、1 kHz)
質量 85 g (ケーブル含む)
仕上げ ABS樹脂、ダークブルー
マイクコード 0.7 m
ツインプラグコード 0.9 m

付属品、添付物

イヤホンセット×1

適合機種 WD-TR350、WD-TR300

●WD-UM300 イヤホンマイクアダプター

外形寸法 188 mm × 13 mm × 18 mm
質量 約15 g (ケーブル含む)
動作温度範囲 0 °C ~ +40 °C
仕上げ ABS樹脂、ブラック
付属品、添付物

取扱説明書×1

対応アクセサリ

UCM-100 (コントロールマイクロホン)
EMC-7 (イヤホン付きクリップマイクロホン)
KHS-29F (ヘッドセット)
EMC-11 (イヤホン付きクリップマイクロホン)

適合機種 WD-TR350、WD-TR300

●WD-UM20 コントロールマイクロホン

形式	エレクトレットコンデンサー型
指向性	単一指向性
感度	-43 dB (0 dB = 1 V Pa、1 kHz)
質量	90 g (イヤホン含まず)
仕上げ	ABS 樹脂、ダークブルー
外形寸法	28 mm × 65.5 mm × 16 mm (幅×高さ×厚み、突起物含まず)
ツインプラグコード	0.8 m
付属品、添付物	イヤホンセット×1 取扱説明書×1 ホルダー×1 ベルトクリップ×1 M3ねじ×2
適合機種	WD-WT20

●WD-UM23 コントロールマイクロホン

形式	エレクトレットコンデンサー型
指向性	単一指向性
感度	-54 dB (0 dB = 1 V/Pa、1 kHz)
質量	60 g (イヤホン含まず)
仕上げ	ABS 樹脂、ダークブルー
外形寸法	40 mm × 100 mm × 16 mm (幅×高さ×厚み、突起物、クリップ含まず)
ツインプラグコード	約0.85 m
付属品、添付物	イヤホンセット×1 取扱説明書×1 ホルダー×1 ベルトクリップ×1 M3 ねじ×2
適合機種	WD-WT20

●WT-MC60 ホールマスター

フレキシブルマイク	単一指向性エレクトレットコンデンサー型
電源	DC 12 V (ACアダプター (別売) より供給)
モニタースピーカー出力	300 mW ± 100 mW
外部入力	1回路、端子板、-20 dBs、10 kΩ、電子平衡
モニター出力	1回路、端子板、0 dBs ± 2 dBs、100 Ω、電子平衡
消費電流	250 mA以下 (5%歪率時)
外形寸法	150 mm × 410 mm × 145 mm (幅×高さ×奥行き)
質量	0.5 kg
仕上げ	ダークグレー マイク部：黒色 (亜鉛メッキ)

●WT-C50 チャージャー

電源	DC 5 V (専用AC アダプター使用)
消費電流	DC 5 V、1.2 A (本体)
出力	DC4.2 V、400 mA (3 回路)
充電時間	約4 時間
外形寸法	200 mm × 110 mm × 64 mm (幅×高さ×奥行き、突起物含まず)
質量	約0.4 kg
適合機種	WD-TR350、および専用バッテリー
使用温湿度	5 °C ~ +35 °C、85 %以下
付属品、添付物	保証書×1 サービス窓口案内×1 取扱説明書×1 安全上のご注意×1 充電端子のお手入れについて×1 ACアダプター×1

●WD-C11 チャージャー

電源	AC 100 V、50 Hz/60 Hz
消費電力	22 VA
出力	DC 4.2 V、400 mA (3回路)
充電時間	約4時間
外形寸法	260 mm × 107 mm × 120 mm (幅×高さ×奥行き)
質量	1.1 kg
適合機種	WD-TR300、WD-WT20、および専用バッテリー
使用温湿度	5℃～+35℃、85 %以下
付属品、添付物	保証書×1 サービス窓口案内×1 安全上のご注意×1 取扱説明書×1

●WD-C12 チャージャー

電源	AC 100 V、50 Hz/60 Hz
消費電力	42 VA
出力	DC 4.2 V、400 mA (9回路)
充電時間	約4時間
外形寸法	360 mm × 107 mm × 120 mm (幅×高さ×奥行き)
質量	1.4 kg
適合機種	WD-TR300、WD-WT20、および専用バッテリー
使用温湿度	5℃～+35℃、85 %以下
付属品、添付物	保証書×1 サービス窓口案内×1 取扱説明書×1

Important Notice Concerning the Software

Software License Attached to the Product

The Software embedded in the Product is composed of several independent software components, and in each of such individual components, a copyright of either JVC or a third party subsists.

The Product uses the software component designated in the End-User License Agreement that was executed between JVC KENWOOD and a third party (hereinafter "EULA").

"EULA" covers those corresponding to free software, and, as a condition of distribution of the software component in executable format which is based on the license granted under the GNU General Public License or Lesser General Public License (hereinafter "GPL/LGPL"), it requires an availability of the source code for the relevant component. For details of the software component covered by "GPL/LGPL", please visit the following website:

URL : <http://www3.jvckenwood.com/english/download/gpl/index.html>

Please note that we are unable to answer any inquiry relating to the contents, etc. of the source code.

Please note that any software component licensed under "EULA" which is not subject to "GPL/LGPL", and those developed or created independently by JVC KENWOOD shall not be subject to the requirement for provision of the source code.

The software component distributed under "GPL/LGPL" shall be licensed to users without charge, and, therefore, no warranty is given for such software component, either express or implied, within the scope of the applicable laws and regulations. Unless otherwise permitted by applicable laws and regulations or agreed in written form, none of the owners of the copyright or persons entitled to alter or redistribute the software component under the said license shall have any liability for any type of damage or loss resulting from the use of or inability to use such software component. For further details of the conditions of use of such software component or matters required to be complied with, please refer to the relevant "GPL/LGPL".

Users are urged to read the details for the relevant license carefully before using the software component covered by "GPL/LGPL" and embedded in the Product. Since the terms and conditions of individual licenses are provided by parties other than JVC KENWOOD, the original English version will be included.

ソフトウェアに関する重要なお知らせ

本製品のソフトウェアライセンスについて

本製品に組み込まれたソフトウェアは、複数の独立したソフトウェアコンポーネントで構成され、個々のソフトウェアコンポーネントは、それぞれにJVCケンウッドまたは第三者の著作権が存在します。

本製品は、JVCケンウッド及び第三者が規定したエンドユーザーライセンスアグリーメント（以下、「EULA」といいます）に基づくソフトウェアコンポーネントを使用しております。

「EULA」の中には、フリーソフトウェアに該当するものがあり、GNU General Public LicenseまたはLesser General Public License（以下、「GPL/LGPL」といいます）のライセンスに基づき実行形式のソフトウェアコンポーネントを配布する条件として、当該コンポーネントのソースコードの入手を可能にするように求めています。当該「GPL/LGPL」の対象となるソフトウェアコンポーネントに関しては、以下のホームページをご覧ください。

ホームページアドレス <http://www3.jvckenwood.com/download/gpl/index.html>

なお、ソースコードの内容等についてのご質問はお答えしかねますので、予め御了承ください。

「GPL/LGPL」の適用を受けない「EULA」に基づくソフトウェアコンポーネント及びJVCケンウッド自身が開発もしくは作成したソフトウェアコンポーネントは、ソースコード提供の対象とはなりませんのでご了承ください。

「GPL/LGPL」に基づいて配布されるソフトウェアコンポーネントは無償でお客様に使用許諾されますので、適用法令の範囲内で、当該ソフトウェアコンポーネントの保証は、明示かつ黙示であるかを問わず一切ありません。

適用法令の定め、又は書面による合意がある場合を除き、著作権者や上記許諾を受けて当該ソフトウェアコンポーネントの変更・再配布を為し得る者は、当該ソフトウェアコンポーネントを使用したこと、又は使用できないことに起因する一切の損害についてなんらの責任も負いません。当該ソフトウェアコンポーネントの使用条件や遵守いただかなければならない事項等の詳細は、各「GPL/LGPL」をお読みください。

本製品に組み込まれた「GPL/LGPL」の対象となるソフトウェアコンポーネントをお客様自身でご利用頂く場合は、対応するライセンスをよく読んでから、ご利用くださるようお願い致します。なお各ライセンスはJVCケンウッド以外の第三者による規定のため、原文（英文）を記載します。

Important Notice Concerning the Software (continued)

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE

Version 2, June 1991

Copyright (C) 1989, 1991 Free Software Foundation, Inc.,
51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA

Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public License is intended to guarantee your freedom to share and change free software—to make sure the software is free for all its users. This General Public License applies to most of the Free Software Foundation's software, and to any other program whose authors commit to using it. (Some other Free Software Foundation software is covered by the GNU Lesser General Public License instead.) You can apply it to your programs, too.

When we speak of free software, we are referring to freedom, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish), that you receive source code or can get it if you want it, that you can change the software or use pieces of it in new free programs; and that you know you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid anyone to deny you these rights or to ask you to surrender the rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the software, or if you modify it.

For example, if you distribute copies of such a program, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that you have. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with two steps: (1) copyright the software, and (2) offer you this license which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the software.

Also, for each author's protection and ours, we want to make certain that everyone understands that there is no warranty for this free software. If the software is modified by someone else and passed on, we want its recipients to know that what they have is not the original, so that any problems introduced by others will not reflect on the original author's reputations.

Finally, any free program is threatened constantly by software patents. We wish to avoid the danger that redistributors of a free program will individually obtain patent licenses, in effect making the program proprietary. To prevent this, we have made it clear that any patent must be licensed for everyone's free use or not licensed at all.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow.

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License applies to any program or other work which contains a notice placed by the copyright holder saying it may be distributed under the terms of this General Public License. The "Program", below, refers to any such program or work, and a "work based on the Program" means either the Program or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Program or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".) Each licensee is addressed as "you".

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running the Program is not restricted, and the output from the Program is covered only if its contents constitute a work based on the Program (independent of having been made by running the Program). Whether that is true depends on what the Program does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Program's source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and give any other recipients of the Program a copy of this License along with the Program.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Program or any portion of it, thus forming a work based on the Program, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

a) You must cause the modified files to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.

b) You must cause any work that you distribute or publish, that in whole or in part contains or is derived from the Program or any part thereof, to be licensed as a whole at no charge to all third parties under the terms of this License.

c) If the modified program normally reads commands interactively when run, you must cause it, when started running for such interactive use in the most ordinary way, to print or display an announcement including an appropriate copyright notice and a notice that there is no warranty (or else, saying that you provide a warranty) and that users may redistribute the program under these conditions, and telling the user how to view a copy of this License.

(Exception: if the Program itself is interactive but does not normally print such an announcement, your work based on the Program is not required to print an announcement.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Program, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Program, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Program.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Program with the Program (or with a work based on the Program) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may copy and distribute the Program (or a work based on it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you also do one of the following:

a) Accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,

b) Accompany it with a written offer, valid for at least three years, to give any third party, for a charge no more than your cost of physically performing source distribution, a complete copy of machine-readable copy of the corresponding source code, to be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,

c) Accompany it with the information you received as to the offer to distribute corresponding source code. (This alternative is allowed only for noncommercial distribution and only if you received the program in object code or executable form with such an offer, in accord with Subsection b above)

The source code for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For an executable work, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the executable. However, as a special exception, the source code distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

If access to executable or object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place counts as distribution of the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

4. You may not copy, modify, sublicense, or distribute the Program except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense or distribute the Program is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

5. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Program or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Program (or any work based on the Program), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Program or works based on it.

6. Each time you redistribute the Program (or any work based on the Program), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute or modify the Program subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties to this License.

7. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Program at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Program by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Program.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system, which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

8. If the distribution and/or use of the Program is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Program under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

9. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Program specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Program does not specify a version number of this License, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

10. If you wish to incorporate parts of the Program into other free programs whose distribution conditions are different, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

11. BECAUSE THE PROGRAM IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE PROGRAM, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE PROGRAM "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE PROGRAM IS WITH YOU. SHOULD THE PROGRAM PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

12. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE PROGRAM AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE PROGRAM (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE PROGRAM TO OPERATE WITH ANY OTHER PROGRAMS), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

Important Notice Concerning the Software (continued)

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Programs

If you develop a new program, and you want it to be of the greatest possible use to the public, the best way to achieve this is to make it free software which everyone can redistribute and change under these terms.

To do so, attach the following notices to the program. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the 'copyright' line and a pointer to where the full notice is found:

```
<one line to give the program's name and a brief idea of what it does>
```

```
Copyright (C) <year> <name of author>
```

This program is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2 of the License, or (at your option) any later version.

This program is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU General Public License along with this program; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

If the program is interactive, make it output a short notice like this when it starts in an interactive mode:

```
Gnomovision version 69, Copyright (C) year name of author
details type 'show w'.
This is free software, and you are welcome to redistribute it under
certain conditions; type 'show c' for details.
```

The hypothetical commands 'show w' and 'show c' should show the appropriate parts of the General Public License. Of course, the commands you use may be called something other than 'show w' and 'show c'; they could even be mouse-clicks or menu items--whatever suits your program.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a 'copyright disclaimer' for the program, if necessary. Here is a sample; alter the names:

```
Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the
program 'Gnomovision' (which makes passes at compilers)
written by James Hacker.
```

```
<signature of Ty Coon> 1 April 1989
```

Ty Coon, President of Vice

This General Public License does not permit incorporating your program into proprietary programs. If your program is a subroutine library, you may consider it more useful to permit linking proprietary applications with the library. If this is what you want to do, use the GNU Lesser General Public License instead of this License.

GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE

Version 2.1, February 1999

Copyright (C) 1989, 1991 Free Software Foundation, Inc.,
51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA

Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

[This is the first released version of the Lesser GPL. It also counts as the successor of the GNU Library Public License, version 2, hence the version number 2.1.]

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public Licenses are intended to guarantee your freedom to share and change free software—to make sure the software is free for all its users.

This license, the Lesser General Public License, applies to some specially designated software packages—typically libraries—of the Free Software Foundation and other authors who decide to use it. You can use it too, but we suggest you first think carefully about whether this license or the ordinary General Public License is the better strategy to use in any particular case, based on the explanations below.

When we speak of free software, we are referring to freedom of use, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish); that you receive source code or can get it if you want it; that you can change the software and use pieces of it in new free programs; and that you are informed that you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid distributors to deny you these rights or to ask you to surrender these rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the library or if you modify it.

For example, if you distribute copies of the library, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that we gave you. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. If you link other code with the library, you must provide complete object files to the recipients, so that they can relink them with the library after making changes to the library and recompiling it. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with a two-step method: (1) we copyright the library and (2) we offer you this license, which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the library.

To protect each distributor, we want to make it very clear that there is no warranty for the free library. Also, if the library is modified by someone else and passed on, the recipients should know that what they have is not the original version, so that the original author's reputation will not be affected by problems that might be introduced by others.

Finally, software patents pose a constant threat to the existence of any free program. We wish to make sure that a company cannot effectively restrict the users of a free program by obtaining a restrictive license from a patent holder. Therefore, we insist that any patent license obtained for a version of the library must be consistent with the full freedom of use specified in this license.

Most GNU software, including some libraries, is covered by the ordinary GNU General Public License. This license, the GNU Lesser General Public License, applies to certain designated libraries; and is quite different from the ordinary General Public License. We use this license for certain libraries in order to permit linking those libraries into non-free programs.

When a program is linked with a library, whether statically or using a shared library, the combination of the two is legally speaking a combined work, a derivative of the original library. The ordinary General Public License therefore permits such linking only if the entire combination fits its criteria of freedom. The Lesser General Public License permits more lax criteria for linking other code with the library.

We call this license the "Lesser" General Public License because it does less to protect the user's freedom than the ordinary General Public License. It also provides other free software developers Less of an advantage over competing non-free programs.

These disadvantages are the reason we use the ordinary General Public License for many libraries. However, the Lesser license provides advantages in certain special circumstances.

For example, on rare occasions, there may be a special need to encourage the widest possible use of a certain library, so that it becomes a de-facto standard. To achieve this, non-free programs must be allowed to use the library. A more frequent case is that a free library does the same job as widely used non-free libraries. In this case, there is little to gain by limiting the free library to free software only, so we use the Lesser General Public License.

In other cases, permission to use a particular library in non-free programs enables a greater number of people to use a large body of free software. For example, permission to use the GNU C Library in non-free programs enables many more people to use the whole GNU operating system, as well as its variant, the GNU/Linux operating system.

Although the Lesser General Public License is Less protective of the users' freedom, it does ensure that the user of a program that is linked with the Library has the freedom and the wherewithal to run that program using a modified version of the Library.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow. Pay close attention to the difference between a "work based on the library" and a "work that uses the library". The former contains code derived from the library, whereas the latter must be combined with the library in order to run.

GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License Agreement applies to any software library or other program which contains a notice placed by the copyright holder or other authorized party saying it may be distributed under the terms of this Lesser General Public License (also called "this License"). Each licensee is addressed as "you."

A "library" means a collection of software functions and/or data prepared so as to be conveniently linked with application programs (which use some of those functions and data) to form executables.

The "Library", below, refers to any such software library or work which has been distributed under these terms. A "work based on the Library" means either the Library or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Library or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated straightforwardly into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".)

"Source code" for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For a library, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the library.

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running a program using the Library is not restricted, and output from such a program is covered only if its contents constitute a work based on the Library (independent of the use of the Library in a tool for writing it). Whether that is true depends on what the Library does and what the program that uses the Library does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Library's complete source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty, keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty, and distribute a copy of this License along with the Library.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Library or any portion of it, thus forming a work based on the Library, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

- The modified work must itself be a software library.
 - You must cause the files modified to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.
 - You must cause the whole of the work to be licensed at no charge to all third parties under the terms of this License.
 - d) If a facility in the modified Library refers to a function or a table of data to be supplied by an application program that uses the facility, other than as an argument passed when the facility is invoked, then you must make a good faith effort to ensure that, in the event an application does not supply such function or table, the facility still operates, and performs whatever part of its purpose remains meaningful.
- (For example, a function in a library to compute square roots has a purpose that is entirely well-defined independent of the application. Therefore, Subsection 2d requires that any application-supplied function or table used by this function must be optional; if the application does not supply it, the square root function must still compute square roots.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Library, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Library, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Library.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Library with the Library (or with a work based on the Library) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may opt to apply the terms of the ordinary GNU General Public License instead of this License to a given copy of the Library. To do this, you must alter all the notices that refer to this License, so that they refer to the ordinary GNU General Public License, version 2, instead of to this License. (If a newer version than version 2 of the ordinary GNU General Public License has appeared, then you can specify that version instead if you wish.) Do not make any other change in these notices.

Once this change is made in a given copy, it is irreversible for that copy, so the ordinary GNU General Public License applies to all subsequent copies and derivative works from that copy.

This option is useful when you wish to copy part of the code of the Library into a program that is not a library.

4. You may copy and distribute the Library (or a portion or derivative of it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange.

If distribution of object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place satisfies the requirement to distribute the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

Important Notice Concerning the Software (continued)

5. A program that contains no derivative of any portion of the Library, but is designed to work with the Library by being compiled or linked with it, is called a "work that uses the Library". Such a work, in isolation, is not a derivative work of the Library, and therefore falls outside the scope of this License.

However, linking a "work that uses the Library" with the Library creates an executable that is a derivative of the Library (because it contains portions of the Library), rather than a "work that uses the Library". The executable is therefore covered by this License. Section 6 states terms for distribution of such executables.

When a "work that uses the Library" uses material from a header file that is part of the Library, the object code for the work may be a derivative work of the Library even though the source code is not. Whether this is true is especially significant if the work can be linked without the Library, or if the work is itself a library. The threshold for this to be true is not precisely defined by law.

If such an object file uses only numerical parameters, data structure layouts and accessors, and small macros and small inline functions (ten lines or less in length), then the use of the object file is unrestricted, regardless of whether it is legally a derivative work. (Executables containing this object code plus portions of the Library will still fall under Section 6.)

Otherwise, if the work is a derivative of the Library, you may distribute the object code for the work under the terms of Section 6. Any executables containing that work also fall under Section 6, whether or not they are linked directly with the Library itself.

6. As an exception to the Sections above, you may also combine or link a "work that uses the Library" with the Library to produce a work containing portions of the Library, and distribute that work under terms of your choice, provided that the terms permit modification of the work for the customer's own use and reverse engineering for debugging such modifications.

You must give prominent notice with each copy of the work that the Library is used in it and that the Library and its use are covered by this License. You must supply a copy of this License. If the work during execution displays copyright notices, you must include the copyright notice for the Library among them, as well as a reference directing the user to the copy of this License. Also, you must do one of these things:

- accompany the work with the complete corresponding machine-readable source code for the Library, including whatever changes were used in the work (which must be distributed under Sections 1 and 2 above); and, if the work is an executable linked with the Library, with the complete machine-readable "work that uses the Library", as object code and/or source code, so that the user can modify the Library and then relink to produce a modified executable containing the modified Library. (It is understood that the user who changes the contents of definitions files in the Library will not necessarily be able to recompile the application to use the modified definitions.)
- Use a suitable shared library mechanism for linking with the Library. A suitable mechanism is one that (1) uses at run time a copy of the library already present on the user's computer system, rather than copying library functions into the executable, and (2) will operate properly with a modified version of the library, if the user installs one, as long as the modified version is interface-compatible with the version that the work was made with.

c) Accompany the work with a written offer, valid for at least three years, to give the same user the materials specified in Subsection 6a, above, for a charge no more than the cost of performing this distribution.

d) If distribution of the work is made by offering access to copy from a designated place, offer equivalent access to copy the above specified materials from the same place.

e) Verify that the user has already received a copy of these materials or that you have already sent this user a copy.

For an executable, the required form of the "work that uses the Library" must include any data and utility programs needed for reproducing the executable from it. However, as a special exception, the materials to be distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

It may happen that this requirement contradicts the license restrictions of other proprietary libraries that do not normally accompany the operating system. Such a contradiction means you cannot use both them and the Library together in an executable that you distribute.

7. You may place library facilities that are a work based on the Library side-by-side in a single library together with other library facilities not covered by this License, and distribute such a combined library, provided that the separate distribution of the work based on the Library and of the other library facilities is otherwise permitted, and provided that you do these two things:

a) Accompany the combined library with a copy of the same work based on the Library, uncombined with any other library facilities. This must be distributed under the terms of the Sections above.

b) Give prominent notice with the combined library of the fact that part of it is a work based on the Library, and explaining where to find the accompanying uncombined form of the same work.

8. You may not copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

9. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Library or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Library (or any work based on the Library), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Library or works based on it.

10. Each time you redistribute the Library (or any work based on the Library), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute, link with or modify the Library subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties with this License.

11. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your

obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Library at all.

For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Library by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Library.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply, and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

12. If the distribution and/or use of the Library is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Library under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

13. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the Lesser General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Library specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Library does not specify a license version number, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

14. If you wish to incorporate parts of the Library into other free programs whose distribution conditions are incompatible with these, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

15. BECAUSE THE LIBRARY IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE LIBRARY, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE LIBRARY "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE LIBRARY IS WITH YOU. SHOULD THE LIBRARY PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

16. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE LIBRARY AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE LIBRARY (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE LIBRARY TO OPERATE WITH ANY OTHER SOFTWARE), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS How to Apply These Terms to Your New Libraries

If you develop a new library, and you want it to be of the greatest possible use to the public, we recommend making it free software that everyone can redistribute and change. You can do so by permitting redistribution under these terms (or, alternatively, under the terms of the ordinary General Public License).

To apply these terms, attach the following notices to the library. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

<one line to give the library's name and a brief idea of what it does.>

Copyright (C) <year> <name of author>

This library is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU Lesser General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2.1 of the License, or (at your option) any later version.

This library is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU Lesser General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU Lesser General Public License along with this library; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.


You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the library, if necessary. Here is a sample; alter the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the library "Frob" (a library for tweaking knobs) written by James Random Hacker.

<signature of Ty Coon>, 1 April 1990
Ty Coon, President of Vice

That's all there is to it!

**JVCケンウッド
カスタマーサポートセンター**

 **0120-2727-87**

携帯電話・PHS・一部のIP電話・FAXなどからのご利用は

電話 (045)450-8950 [代表]

FAX(045)450-2308

〒221-0022 神奈川県横浜市神奈川区守屋町3-12

ご相談窓口におけるお客様の個人情報は、お問合せへの対応、修理およびその確認に使用し、適切に管理を行い、お客様の同意なく個人情報を第三者に提供または開示することはありません。

ホームページ <http://www3.jvckenwood.com/>

株式会社 JVCケンウッド

〒221-0022 神奈川県横浜市神奈川区守屋町 3-12